

始
口



1 2 3 4 5 6 7 8 9 10m
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10m
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10m
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10m

8.55
T042



T. TOKUO.

POUR BIEN COMPRENDRE LE FRANÇAIS.

Tome I. Phrases Simple.

佛文解釋法

短文篇

大阪外國語學校講師

德尾俊彦著

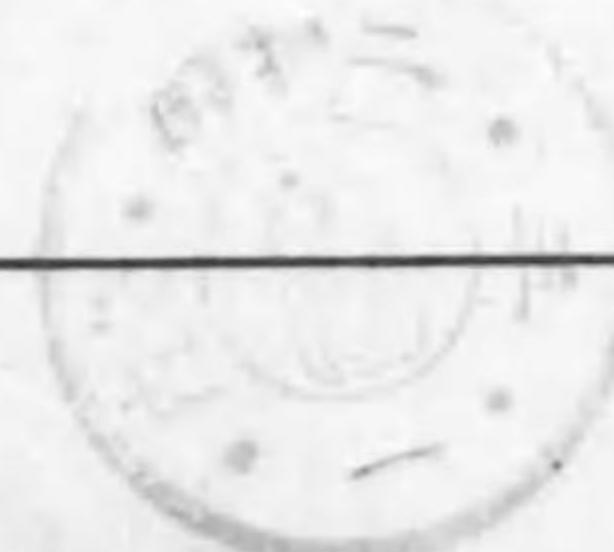


東京

白社版

1949.6.24

MAX



~~323 756~~

緒 言

學習者の爲に佛文の解釋力を増進する方法は種々あらうが、本書は次のやうな方法を探つた。

解釋の根柢となるべき事項が、初學者の腦裡に整然と留まる如く、短い佛文を各種の形式に分類提示し、先づ解釋上の着眼點を掲げ、譯文の外に所要の文法的説明、類例及注意事項を加へ、比較的短時日に多讀的効果を收め得るやうにしたのである。

譯文は、直譯に近い意譯にしてある。蓋し、大づかみの意譯は、往々、字句の根本義を全く失し、却つて初學者の爲にならないからである。

「ガリシスム」及長文の解釋は、本書の續篇に譲ることにした。

本書が幾分なりとも、佛語研究者の参考になるを得ば、本懐の至りである。

尙、本書の編纂に、多大の援助を與へられた畏友目黒三郎氏に深甚なる感謝の意を表する。

大正十五年十一月

著 者 識

目 次

第一編 語の解釋

	頁
(1) 既に識つてゐる語の解釋.....	1
(2) まだ識らない語の解釋.....	7
I. 同じ語族の語.....	8
II. 接頭語.....	9
III. 接尾語.....	12
(3) 大文字の頭字をもつ語の解釋.....	14
(4) 略字の解釋.....	15

第二編 文の解釋

(1) 主語.....	17
I. 頭部にある主語.....	17
II. 頭部以外にある主語.....	20
III. 形式上の主語.....	22
IV. 主語の省略.....	27
(2) 述語(動詞).....	29
I. 「法」及「時」の意義.....	29
II. 受動的意義をもつ述語.....	41
III. 述語の省略.....	43
(3) 形容語句.....	43
(4) 補語句.....	46
I. 名詞の補語.....	46
II. 形容詞の補語.....	49

注 意

1. 【註】につき

動詞の單純過去、複合過去、先立過去、單純未來及先立未來は、直説法にのみ限る「時」であるから、「直説法」なる語を省いてある。

2. 【類例】につき

類例には、本題の文の要點と形及意義を同じくするもの、形を同じくして意義を異にするもの、或は、意義を同じくして形を異なるものを集めてある。

3. () 内の数字につき

これは本題に附けてある一連の番号を示す。

III. 代名詞の補語	51	(17) 省略語句	98
IV. 動詞の補語	53	(18) 転位語句	102
V. 副詞の補語	55	I. 文の要素の轉位	102
(5) 副詞語句	57	II. 主文と補足文の轉位	105
I. 單一の副詞	57	(19) 虚辭	106
II. 副詞句	61	I. 虚辭である主語	106
(6) 前置詞語句	62	II. 虚辭である補語	107
(7) 否定語句	67	III. 其他の虚辭	107
I. 動詞の意義の否定	68	(20) 接續語句	108
II. 語句及文の意義の否定	70	I. 對等接續語句	108
(8) 尊敬語句	73	II. 隸屬接續語句	109
(9) 命令語句	75	(21) 比較語句	111
(10) 設問語句	77	I. 優(劣)等比較語句	111
(11) 感嘆語句	79	II. 同等比較語句	113
(12) 反語句	81	III. 最上(下)級比較語句	114
(13) 呼稱語句	83	IV. 其他の比較語句	115
(14) 共通語句	84	(22) 讓歩語句	118
(15) 代用語句	86	(23) 條件語句	121
I. 人稱代名詞	87	(24) 俚諺	123
II. 其他の代名詞	89	I. 普通の文體	123
III. 其他の品詞	90	II. 省略體	124
(16) 重複語句	92	III. 顛倒體	124
I. 同じ品詞若くは同性質の句、文の重複	92	(25) 組成語句	125
II. 説明語句の重複	93	I. 名詞	125
III. 同じ意義を示す語句の重複	95	II. 代名詞	126
IV. 否定語句の重複	97		

III. 形容詞	126
IV. 動詞	127
V. 副詞	127
VI. 前置詞	129
VII. 接續詞	129
(26) 故事語句	130
(27) 特種語句 (Gallicisms)	134
(28) 詩句	139
I. 語の變形	139
II. 語の意義	139
III. 詩句の意義	140
IV. 転位	141
(29) 外來語句	144
I. 羅甸語句	145
II. 其他の外來語句	147
(30) 間違ひ易い語句	148
I. 同形語	148
II. 類形語	154
III. 名詞語句の併列	155
IV. 形容詞と名詞との關係	156
V. 主語と動詞との關係	157
(31) 譯し方の注意	158

附 錄

常用略字

語句の索引

第一編 語の解釋

(1) 既に識つてゐる語の解釋

a. 數個の意義をもつてゐるものは、前後の關係から判断して、其本來の意義或は比喩的意義の内、適當なものを選むべきである。

1. 名詞 <u>Le pied</u> de l'homme	人 の 足 (本)
<u>Le pied</u> d'un arbre	或る樹のもと (比)
形容詞 <u>La blessure profonde</u>	深 い 傷 (本)
<u>La misère profonde</u>	窮 困 (比)
動 詞 <u>Polir</u> le fer	鐵 を 磨 く (本)
<u>Polir</u> l'esprit	精神を修養する (比)
副 詞 <u>Marcher lourdement</u>	重々 しく 歩 く (本)
<u>Plaisanter lourdement</u>	ひどくふざける (比)
【類例】 <u>le maître</u> de l'art	斯道の大家(先生)
<u>le berceau</u> de la civilisation	文明の淵源(搖籃)
<u>les étoiles</u> de l'Opéra	「オペラ」劇場の花形役者(星)
<u>le flot</u> de sang	淋漓たる血(波)

b. 形容詞で名詞の前にある時と、後にある時と、意義を異なるものがある。

2. <u>Un grand homme</u>	偉 人
<u>Un homme grand</u>	大 き い 人

【類例】	un brave homme
	un homme brave
	une pauvre femme
	une femme pauvre
	un honnête garçon
	un garçon honnête
	la haute mer
	la mer haute
	la dernière année
	l'année dernière
	un méchant écrivain
	un écrivain méchant
	les propres termes
	les termes propres
	un triste livre
	un livre triste

人	人
勇敢な人	人
憐れな女	人
貧しい女	人
正直な男兒	人
鄭寧な男兒	人
大洋	洋
荒れた海、満潮	洋
最後の年	年
昨年	年
へぼ文士	文士
辛辣文士	文士
眞諦の用語	用語
適當な用語	用語
いやな本	本
悲しきる本	本

(c) 普通名詞で頭字が大文字である時と、小文字である時と、意義を異にするものがある。

3. Le chef de l'Etat

L'état actuel de Chine

國の元首

支那の現状

【類例】 le Français

佛蘭西人

le français

佛蘭西語

le Seigneur

神

le seigneur

貴族

la Providence

神

la providence

天命

le Créateur

神

le créateur

創造者

le Midi	南國
le midi	南方
la grande Ourse	大熊星
la grande ourse	大きな牝熊
la Renaissance	文藝復興
la renaissance	再生

(d) 單數と複數で意義を異にするものがある。複數をもち得ないやうな名詞が複數形になつてゐるのは、一般に其意義を轉化してゐる。

4. La beauté de la campagne

Les beautés d'une ville

田舎の美しさ

市街の美しい場所

【類例】 l'alarme

警報

les alarmes

不安

la curiosité

好奇心

les curiosités

珍品、名物

le fer

鐵

les fers

鐵鎖、牢獄

l'honneur

名譽

les honneurs

禮式

l'amitié

友情

les amitiés

挨拶

Molière

「モリエール」

les Molières

「モリエール」の如き人、

「モリエール」の作品

【注意】 人名には nom (姓) と prénom (名) とある。prénom は先きに置かれるもので時としては數語のことがある。(Jean-Jacques Rousseau) 又貴族の nom の前に de があることがある。(Madame Sévigné フルーヴル・セビニ)

Harpagon
Paris

單に意義を強める爲に、時々、人名(單數形)に複數の定冠詞をつけてあることがある。les Pascal, les Racine....

(e) 固有名詞で、普通名詞のやうな意義を示すことがある。其固有名詞と共に直に聯想される著名な事柄に想到するがよい。(此部類の或る固有名詞の頭字は小文字である。)

5. Une mélée qui¹ fut² mon Waterloo. 自分が全く負けた喧嘩。

【註】1. qui は關係代名詞、2. fut は être (ある) の單純過去。

【類例】Napoléon fut l'Alexandre des temps modernes. 奈翁は近代の大征服者である。

Il est Harpagon. 彼は錢奴だ。(Harpagon は Molière 作の喜劇 l'Avare の主人公)

la moustache à la Kaiser. 「カイセル」鬚。(à la façon de Kaiser の意)

un coup de Jarnac. 不意の打撃。(第十六世紀に佛人 Jarnac は決闘に際し不意の打撃を行つて敵を倒した)

la voix de stentor. 大音聲。(往昔希臘に頗る大なる音聲を有せし Stentor なる者があつた)

la force d' Hercule. 非常な力。(神話中にある有名な強力の人)

le jardin d' Eden. 樂園。(聖書にある)

(f) 同じ動詞で自動的と他動的の意義をもつものがある。直接補語を伴ふてゐるものは、他動的の意義をもつ。

6. Le temps passe¹ vite. 時は速に経過する。(自)

Le chameau passe¹ le désert. 駱駝は沙漠を横ぎる。(他)

【註】1. passer の直説法現在。

【類例】• monter 上がる、上げる
• tomber 落ちる、落す

descendre	降る、降す
entrer	入る、入れる
sortir	出る、出す
augmenter	殖る、増す
diminuer	減少す、減らす
changer	變はる、變へる
courir	走る、追ひかける
toucher	觸る、感動させる

(g) 転化動詞は、自動的受動的或は相互的の意義をもつことがある。又代名動詞に轉化しても、差程に意義を變へないものもある。此等の意義は前後關係で判断すべきである。(72)

他(自)動詞	代名動詞
7. promener 散歩させる	se promener 散歩する
composer 組立てる	se composer 組立られる
aimer 愛する	s' aimer 愛し合ふ
douter 疑ふ	se douter de 怪しむ

【類例】(自動的) s' éloigner	遠ざかる
se lever	起きる
(受動的) se couper	切られる
s' employer	用ひられる
(相互的) s' aider	助け合ふ
se disputer	相争ふ
(其他) s' attendre à	期待する
s' apercevoir à	気づく

(h) 同一の語で品詞を異にすることがある。前後の關係で判断すべきである。(262—299)

8. Le haut monument

Parler haut

【類例】(名詞と形容詞)

le marron

高い記念碑

高聲に話す

le chapeau marron

栗

栗色の帽子

le pilote

飛行機操縦者

l' élève pilote

操縦練習生

(名詞と副詞)

le premier

第一の者、第一番目に

(冠詞と代名詞) le, la, les

(形容詞と副詞)

un livre cher

高價な本

coûter cher

高く値する

le faux calcul

誤算

chanter faux

調子はづれて歌ふ

① 熟語を形成してゐる爲に語を個々に譯さないで、總括的に譯すべき時がある。

9. 名詞 le papier à lettres

便箋

l' aide de camp

幕僚

[la société par actions

株式會社

【注意】此場合には通常、補語たる名詞は冠詞を伴はない。

動 詞 avoir peur

恐れる

prendre part à

に參與する

faire feu

發射する

rendre visite à

を訪問する

【注意】此場合には名詞は冠詞を伴はない。

副 詞 avec plaisir

喜んで

sans peine

par mois

難なく

月々に

【注意】此場合にも名詞は冠詞を伴はない。

à plus forte raison

況んや

à qui mieux mieux

競うて

tout à fait

全く

【類例】(235—241)

j. 虚辭となつて意義をもたないこともある。

10. Je crains² que Georges ne¹ vienne³ ici.

【譯】私は「デヨーデュ」がここに來ることを恐れる。

【註】1. ne は元來否定の副詞であるが、此文では虚辭である。 2. craindre (恐れる)の直説法現在。 3. venir (来る)の接續法現在。

【類例】(195—197)

k. 佛語特有の語句 (Gallicisms) では全く變つた意義をもつことがある。

11. Il a¹ le cœur² gros³.

【註】1. avoir (もつ)の直説法現在。 2. le cœur 心臓、心。 3. gros 太い、ひどい。

【譯】彼は悲んでゐる。

【類例】(246—249)

(2) まだ識らない語の解釋

先づ次のやうに考察して意義を推定することができる。

a. 品詞を辨別する。

b. 文の中に於ける職分 (主語、補語等) を見分ける。

- c. 其語と同じ語族(同じ語基をもつもの)中の識つてゐる語を想ひ起す。
- d. 接頭語或は接尾語の形により意義を推定する。
- e. 推定した意義を文全體の意義上から判断する。

I. 同じ語族の語

佛蘭西語の大部分は、夫々共通の語基をもつ所の語族に属する故、或る語を識つてみると、其語と同じ語族に属する語の意義を推定することができる。

12. grand	大	き	い
grandement	堂	々	と
grandiose	偉	大	な
grandiosement	壯	大	に
le grandeur	大	き	さ
le grandissement	擴	大	
grandir		大きくなる(なる)	
agrandir		大きくなる	
l'agrandissement	擴	大	
【類例】 forme		形狀	
le format		書籍の形	
former		形づくる	
le formule		形式	
la difformité		不格好	
l' information		報道	
informe		不格好な	
la réforme		改正	
aérisome		氣體の	

II. 接頭語 (Préfixes)

語の頭部に附着して其意義を變ずるものである。時としては、音の調和の爲に其形を少しく變化してゐることもある。本項には屢組立名詞に用ひられる前置語も併せて掲ぐ。

13. semi-, demi-, mi-, hémis- 半ば

semi-officiel	半	官	的
le demi-cercle	半	圓	
la minuit	夜	半	
le hémisphère	半	球	

uni-, mono- 一つ

uniforme	一	様	の
monotone	單	調	の

bi- 二つ

bimensuel	月	二	回	の
-----------	---	---	---	---

tri- 三つ

le triangle	三	角	形
-------------	---	---	---

quadr- 四つ

le quadrupède	四	足	獸
---------------	---	---	---

poly-, multi- 多

le polygone	多	角	形
multicolore	多	色	の

re- 再び、意義を強める

recommencer	再	び	始	め	る
remplir	滿				す

pré-, pro-, anté-, anti- 前

la préposition	前	置	詞
----------------	---	---	---

progresser	進歩する
antécédent	以前の
<u>l'antichambre</u>	控室
<u>post-</u> 後	
postérieur	後日の
<u>sus-, sur-, super-</u> 上	
susdit	上記の
le <u>surnom</u>	異名の
superficiel	表面の
<u>sub-, suc-, sous-</u> 下	
submerger	沈める
succéder	繼ぐ
sous-marin	海中の
<u>in-, im-, en-, em-, inter-</u> 中	
inclure	封入する
importer	輸入する
enfermer	閉ざす
embrasser	抱く
international	國際の
<u>ex-, dé-, dés-, dis-, téle-</u> 遠隔	
excéder	超過する
déformer	變形させる
désœuvré	仕事のない
disparaître	消え失せる
le télescope	望遠鏡
<u>con-, com-, col-</u> 共に	
concourir	協力する

combattre	戰
la collection	蒐集
<u>trans-</u> 橫ぎる	
transporter	運搬する
<u>(en-, em-</u> 其處から	
enlever	取り去る
emmener	誘ひ去る
<u>par-</u> 通つて	
parcourir	走廻る
<u>anti-, contre-</u> 反對	
anticonstitutionnel	非立憲の
la contre-attaque	逆襲
<u>in-, im-</u> 否定	
inégal	不等の
impossible	不可能の
<u>mal-</u> 悪、拙、不	
le malfaiteur	悪人
malsain	不健康の
<u>auto-</u> 自己	
l' automobile	自動車
<u>pré-</u> 豫め	
prédire	豫言する
<u>vice-</u> 副、次	
le vice-roi	副王
a-, ac-, ad-, af-, ag-, al-, an-, ap-, ar-, as-, at-	
方向或は運動	

accourir

駆けつける

apporter

持來る

【注意】 in /t/、中と否定の二つの異なる意義をもつてゐる。

III. 接尾語 (Suffixes)

語基に接着して意義を變へるものである。

14. 名詞の接尾語

-eur, -teur, -er, -ier, -ien, -iste, -ant 人

le chasseur	獵師	le cultivateur	農夫
le boulanger	パン屋	le charpentier	大工
le musicien	音樂家	l'artistes	藝術家
le correspondant	通信員		

-an, -ain, -ien, -ais, -ois 住民名

le Persan	「ペルシャ」人	le Romain	「ローマ」人
l'Italien	伊國人	le Français	佛國人
le Suédois	瑞典人		

-tion, -sion, -ment, -age, -ure 動作或は其結果

la construction	建築	la soumission	服從
le mouvement	行動	le sabotage	怠業
la blessure	傷		

-ance, -ence, -esse, -té, -itude, -ie, -ise 狀態或は

l'abondance	豊富	la prudence	性質
la tristesse	悲	la bonté	注意周到
la certitude	確實	l'inertie	親切
la gourmandise	大食		無氣力

-acle, -ail, -oir, -oire, -er 場所或は器具

le miracle	奇蹟	le gouvernail	舵
le parloir	談話室	l'armoire	箪笥
le bûcher	薪小屋		

-et, -ette, -on, -ot, -ule 縮小

le livret	小冊子	la maisonnette	小家屋
l'anon	驢馬の子	l'ilot	小島
le monticule	小山		

15. 形容詞の接尾語

-able, -age, -aire, -al, -ant, -ent, -and, -âtre, -el, -é, -eur, -eux, -ible, -ide, -if, -il, -ile, -in, -ique, uble, -u 狀態或は性質

agréable	愉快な	sauvage	野生の
volontaire	志願の	oriental	東の
élégant	優美の	prudent	注意深い
frand	食道樂の	rougeâtre	帶赤色の
artificiel	人工の	étoilé	星形の
flatteur	偽善(偽りの)	précieux	貴重の
sensible	感じ易い	humide	濕つた
décisif	決定的	subtil	稀薄な
facile	容易な	enfantin	子供の
héroïque	勇敢な	soluble	溶解し得る
barbu	鬚のある		

-et 縮小

propret	小綺麗な
---------	------

16. 副詞の接尾語

-ment 形容詞から形成された副詞の殆んど全部

courageusement (courageux 勇敢な) 勇敢に

17. 動詞不定法の接尾語

-er aimer 愛する 約 4000 の佛語の動詞の内、3600 程は皆 er で終つてゐて、先づ aller (行く) と envoyer (送る) を除いた外は皆規則動詞である。

-ir finir (現在分詞 finissant) 終へる。partir (現在分詞 partant) 出發する。規則動詞に屬するもの(現在分詞に於て issant の語尾をもつ) 約 320. 不規則動詞に屬するもの(現在分詞に於て ant の語尾をもつ) 約 28.

-oir recevoir 受ける。不規則動詞で其數は 約 12.

-re rendre 返す。不規則動詞で其數は 約 50.

現在分詞の語尾 -ant

parlant (parler 話す) sentant (sentir 知覺する)

voulant (vouloir 欲する) comprenant (comprendre 了解する)

過去分詞の語尾 -é, -i, -s, -t, -u

donné (donner 與へる) accompli (accomplir 仕途ける)

mis (mettre 置く) fait (faire 爲す)

pu (pouvoir 能ふ)

【注意】 過去分詞は「性」と「數」に一致することがある爲、例へば -é (es, ée, ées), -i (is, ie, ies) などとなることがある。

(3) 大文字の頭字をもつ語の解釋

文の冒頭以外にある語で、其頭字が大文字の時には、次の何れかの場合に屬する。

固有名詞、神を示す語、書籍寓話等の題、尊稱、擬人した抽象名詞、特種の語。

18. La Seine	「セーヌ」河	Dieu	神
le Créateur	神	les Misérables	(書名)
le Renard et le Corbeau	狐と鶲(寓話の題)		
Sa Majesté l' Empereur	皇帝陛下		
La Fortune	運の神		
Le premier Empire	奈翁第一世帝政時代		
La Renaissance	文藝復興時代		
La Sorbonne	「ソルボン」大學		

(4) 略字の解釋

略字の後には必ず point (.) がある。此れを解するには、略字は概ね次のやうに記述されてゐることに想到し、前後の關係から判断するがよい。

頭字のみ 頭部の若干字

頭字と末字 頭部の若干字と末字

頭字と中の字 前置詞を省いてあることがある

同じ字の重複は複数を示す 慣例によるものもある

19. F. (franc)	フラン	M. (Monsieur)	殿
Ex. (exemple)	例	Art. (article)	條
Nº. (numéro)	番號	Bon. (baron)	男爵
Lieut. (lieutenant)	中尉	Mgr. (Monseigneur)	殿下
Cm. (centimètre)	釐		
T.S.F. (Télégraphie sans fil)	無線電信		
P. EX. (par exemple)	例へば		
C.A.F. (Club aéronautique de France)	佛國航空クラブ		
MM. (Messieurs)	諸君		
LL, MM. (Les Majestés)	陛下(複數)		

VI (votre)	あなたの(商用文に用ふ)
1 ^{er} (ère) (premier, ère)	第一の
2 ^e (deuxième)	第二の
1 ^o (premièrement, primo)	第一
2 ^o (deuxièmement, secundo)	第二
in-8 ^o (in-octavo)	八つ折(紙の大きいさ)
方言などを其發音のまゝ示す爲に、次のやうに書いてあることがある。	
V'là=voilà	あそこにゐます。
d' même=de même	同様に。

【類例】(附錄)

第二編 文の解釋

- a. 先づ初めから讀んで見るがよい。短かくて易しい文なら、直感直解することができるであらう。
- b. 文が長いか或はむづかしくて直感直解ができない時には、單語及び熟語の譯を考へると同時に文の構成の諸要素を前後の關係や語句の意義によりて見分けて解釋するがよい。
- c. 時としては、専ら直感に訴へて文意を解釋すべきことがある。例へば、感嘆語句、反語句或は要素が省略せられてゐる文などでは、時々其眞の意義が表面上の語句の解釋と異なり又は語句が不足してゐる爲に、全く直感にてそれを解釋すべきことがある。何れの場合を問はず正しく直感しなければいけない。
- d. 或る語句は聖書若くは有名な著書から引用されて或る意義を表はすことがある。

- e. 文がむづかしいと云ふのは、次のことに基づく。
 - 1) 誰らない語が選山ある。
 - 2) 文の構成が解らない。
 - 3) 文の意義が自己の知識にて判断できない。
- 1) に對しては 7 頁「だま識らない語の解釋法」に従ひ、先づ意義を推定し要すれば辭書に倚るべきである。2) に對しては常に文法及習慣を基礎として判断すべきものである。本節以下に分類提示してある事項は、主として此判断力を養成するに必要なものである。3) は語學以外の問題である。
- f. 何れの場合に於ても、文の解釋は常識又は想像力に訴へて、論理に合ふやうに、なすべきものである。

(1) 主 語

- a. **主語の職分** 動詞と共に文の骨幹となるものである。
- b. **主語となるもの** 名詞 (20), 他の品詞から名詞に轉用された語 (21 類例), 代名詞 (24, 25), 動詞の不定法 (26), 文 (27).
- c. **主語の形** 單一の語 (20), 數個の語 (21), 補語を伴ふた單一若くは數個の語 (22), 形式上の主語 (34-43), 省略主語 (44-49).
- d. **主語の位置** 文の頭部 (20-27), 文の頭部以外 (28-33).
- e. **注意** 文を解釋するには先づ主語を見出すことが必要である。

I. 頭部にある主語

主語は文の頭部にあるのが普通である。

20. La France¹ est² un pays puissant³.

【註】 1. 國、山、河、海及び主要な島の名稱は冠詞をもつ。 2. être (ある)の直説法現在。 3. 強い、勢力ある。

〔譯〕 佛國は強國である。

【類例】 Il est mon professeur. 彼は私の先生だ。

C' est bien. よろしい。(ce は母音の前では c', c' となる)

【注意】 主語の Ce (これは、それは) は、譯に表さない方がよいことがある。

21. L' hirondelle et le rossignol annoncent¹ le retour² du printemps.

【註】 1. annoncer (告げる) の直説法現在。 2. 歸還、再來。

〔譯〕 燕と鶯は春の來復を告げる。

【類例】 Deux, quatre et cinq font onze. 二に四と五を加へれば十一となる。(deux, quatre などは、元來形容詞であるが、茲では名詞に轉用されてゐる)

22. L'odeur² de la rose¹ est agréable³.

【註】 1. 名詞の補語は通常、其後方に連結せられる。 2. 香。 3. 愉快な、氣持よい。

〔譯〕 バラの香は心地よい。

【類例】 Le platine, métal précieux, est très cher. 貴金属の白金は大層高價である。(métal précieux は補語である)

23. Santé¹ passe² richesse.

【註】 1. la santé 健康。 主語たる名詞が冠詞をもたないのは、格言か或は列舉の時である。 2. passer (通る、越える、過ごす) の直説法現在。

〔譯〕 健康は富に勝る。

【類例】 Officiers, sous-officiers, simples soldats, tous ont reçu la décoration. 将校下士卒は皆勳章を受領した。(tous は不定代名詞)

實業編
第三回

24. Qui¹ d' entre eux² est allé³ à Paris?

【註】 1. qui (誰が) は設問代名詞。 2. 彼等。 3. aller (行く) の過去分詞で、est allé は複合過去。

〔譯〕 彼等の内の誰が巴里に行つたのか。

【類例】 Lequel des deux préférez-vous?

此の二つの何れか貴君は選びますか。

25. Quiconque¹ n' observera² pas³ la loi sera⁴ puni⁵.

【註】 1. quiconque (....所の者は....) は不定代名詞で二つの動詞に關聯する。 2. observer (遵守する、注意する) の單純未來。 3. nepas 否定の副詞。 4. être (ある) の未來。 5. punir (罰する) の過去分詞で、sera puni は受動詞の未來。

〔譯〕 法律を遵守しない者は罰せられる。

【類例】 Ecoutez quiconque vous donne un bon conseil.

汝によき忠告を與へる者の言を聽け。

26. Mourir¹ pour² la patrie³ est une belle⁴ mort.

【註】 1. 此文では動詞の不定法 mourir (死ぬ) が主語になつてゐる。 2. 爲に。 3. 祖國。 4. beau (美しい) の女性形。

〔譯〕 祖國の爲に死ぬのは立派な死である。

【類例】 Juger et sentir ne sont pas la même chose.

判断することと感じることは同じものでない。

27. Chacun¹ pour soi et Dieu pour tous est la maxime² d'un égoïste.

【註】 此文では一つの文が主語になつてゐる。 1. 各々。 2. 格言、標語。

〔譯〕 「人は其身の爲に存し、神は萬人の爲に存す」とは利己主義者の標語である。

【注意】 謂、格言、諺などでは、適宜に語を附加して譯したがよいことがある。

【類例】“Les murs ont des oreilles” est le proverbe le plus usité. 「壁に耳あり」は最も通俗的の諺である。

II. 頭部以外にある主語

- a. 文の要素が顛倒して置かれてある時、(28).
- b. 設問文、(29).
- c. 多くの語を列挙し、其れを或る語で總括する時、(30).
- d. 投入文、(31).
- e. 文の冒頭に aussi (故に)、peut-être (恐らく) 等の語がある時、(32).
- f. 補足文の主語、(33).

28. Tous les jours¹ une quantité² considérable de navires entrent³ dans⁴ le port de Marseille.

【註】此文では文の要素が顛倒してある爲に、主語が中間にある。1. 每日、tout le jour は終日。2. 數量。3. entrer (入る、入れる) の直説法現在。4. 中に。

【譯】毎日、多數の船舶が「マルセーユ」港に入る。

【類例】(187—190)

29. Que¹ pense^{2-t³-il de la religion?}

【註】設問文では通常、主語が冒頭にない。1. 何を、2. penser (考へる、思ふ) の直説法現在。3. 音訓をよくする爲に挿入されたもので一種の虚辭。

【譯】彼は宗教については、どう考へてゐるか。

【類例】Est-ce que ces arbres ont bien fleuri au printemps dernier? 此等の樹は昨春によく咲きましたか。(est-ce que は設問句)。

30. Prières, offres, menaces, rien¹ n'a ébranlé² Paul.

【註】1. 此文は多くの語を列挙して、其れを rien (何も) で總括して

ある。斯の如く列挙される名詞は冠詞を伴はない。2. ébranler (動かす) の過去分詞で、a ébranlé は複合過去。

【譯】願も、提供も、威しも何も「ボール」を動かさなかつた。

【類例】總括するに用ひられる主なる語。

tout, tous	總て	personne	誰も
aucun	何れも	nul	何も
tout le monde	皆	(23 類例)	

31. La boussole fut¹ (dit²-on,) inventée³ par les Chinois⁴.

【註】此文は二つの (,) の間に主語と動詞を挿入してあるが、時としては文の後方にあることもある。挿入句の主語は、通常、其動詞の後に来る。此文は On dit que la boussole fut.... と同じことである。1. être の單純過去。2. dire (云ふ) の直説法現在。3. inventer (發明する) の過去分詞で、fut inventée は受動詞の單純過去。4. 國民名と國語名とは頭字の大小で區別する、即 le Chinois 支那人、le chinois 支那語。

【譯】羅針盤は支那人が發見したさうです。

【注意】受動詞は時としては能動的に譯した方が、適當な邦語となることがある。

【類例】Il est, je crois, chez la sœur de M. X.

彼は X 氏の妹の宅にあると私は思ふ。

挿入句に屢現はれる動詞

ajouter	附言する	demander	問ふ
dire	云ふ	expliquer	説明する
penser	考へる	repartir	即答する
répliquer	答辯する	répondre	答へる
reprendre	再び談り出す	s'écrier.	叫ぶ

32. Peut-être¹ est-il parti² hier soir pour sa nouvelle³ destination⁴.

【註】1. 此文は文頭に *peut-être* (恐らく) がある爲、主語が動詞の後にある。2. *partir* (出發する) の過去分詞で、*est parti* は複合過去。*partir pour...* に向つて出發する。3. *nouveau* (新しい、今度の) の女性形。4. 目的地、宛地、任地。

〔譯〕彼は恐らく、昨晚、其新任地に出發した。

【類例】次の如き語が文頭にある時には通常、主語は動詞の後にある。

aussi	故に	encore	尙
peut-être	恐らく	au moins	せめて
à peine	するや否や	en vain	徒らに
toujours	常に		

33. Quand¹ nous étions² à Paris, nous allions³ tous les jours au Bois de Boulogne.

【註】補足文は、通常、接續詞或は關係代名詞を其冒頭に伴ふ故に、主語は其後に位置することとなる。1.時に。2. être の直説法半過去。3. aller (行く) の直説法半過去。

〔譯〕吾々が巴里にゐた時分は、毎日「ボワ、ドゥ、ブーローニュ」公園に行つた。

【類例】(199, 218 類例)

III. 形式上の主語

- a. 形式上の主語の意義 全く意義をもたないで、單に文の形を整へてゐるのみである。
- b. 形式上の主語の形 *il* (34-38), *ce* (*c'*, *c'*) (39-43)
- c. 形式上の主語の位置 文の頭部或は頭部以外。
- d. 實際の意義をもつ主語 動詞 (34, 35), 句 (37), 文 (35 類例)。

[A] *il*

- il ce 物語をもつ*
- a. 伴ふ動詞 本質的及轉化的非人稱動詞。
 - b. 轉化的非人稱動詞の時には、よく注意しないと間違へることがある。前後の關係を充分に考へることが必要である。

34. Il neige¹ toute² l'année dans les régions polaires³.

【註】1. *neiger* (雪降る) は本質的非人稱動詞で、*il* は意味をもたない。2. *tout* (總ての) の女性形。3. 極の。

〔譯〕極地では一年中雪降る。

【類例】本質的非人稱動詞は主に天候を示すものである。即

grêler	霰ふる	geler	凍る
pleuvoir	雨降る	tonner	雷鳴する
venter	風ふく	etc.	

尙、(35) に掲げある *falloir* (要する) も此部類に屬する。

【注意】天候を示す非人稱動詞は、時としては比喩的の意義を表はして自動詞的に用ひられることがある。

Les balles pleuaient sur la ville. 銃弾市街に雨下した。

35. Il faut¹ manger² pour vivre³ et non vivre pour manger.

【註】1. 本質的非人稱動詞 *falloir* (要する) の直説法現在。2. 食べる。3. 生活する。

〔譯〕生活する爲には食べねばならぬが、食べる爲に生活してはいけない。

【類例】Il me faut de l'argent. 私に金が必要である。

Il faut que vous partiez demain. 貴方は明日出發しなければならない。(que は接續詞、此の形の時には、que の後の動詞は接續法に變化してある)

36. Il me² semble¹ vous avoir vu³ à Lyon.

【註】1. 此文では、*sembler* (見える) は非人稱動詞に用ひられてゐ

る。従つて、il には意義がない。2. 私に。3. avoir vu は voir の不定法の過去。

〔譯〕「リオン」で貴方にお目にかゝつたやうに思はれます。

【類例】非人稱動詞に屢轉用される主なる動詞。

arriver	起る	convenir	よろしい
faire	天候に用う	importer	肝要である
paraître	らしい、見える	suffire	足る
valoir mieux	の方がよい	y avoir	がある
s'agir de	に関する	se pouvoir	ありうる

37. Il y a eu¹ de² nombreux accidents sur cette ligne de chemin de fer.³

【註】1. a eu は avoir (もつ)の複合過去。y avoir となると非人稱動詞となる。2. 名詞の前に形容詞があつて冠詞 des をとるべき時には、de となる。3. le chemin de fer 鐵道。

〔譯〕此鐵道線路には多くの事故があつた。

【類例】Il y a deux ans que je n' ai vu mes parents.

私が両親に會はないのは、もう二年になる。(247)

38. En¹ certaines² circonstances, il est bon de se taire³.

【註】此文でも、il は形式上の主語である。1. 於て。2. certain の女性複數。「或る」(名詞の前にある時)。「確實な」(名詞若くは動詞の後にある時) 3. だまる、沈黙を守る。

〔譯〕或る場合には、沈黙を守るがよい。

【類例】Il est certain que mon ami viendra ici. 私の友は此處に

évident	明瞭な	facile	たやすい
important	肝要な	impossible	不可能な
possible	可能な	indispensable	必要欠く可らず
naturel	當然な	nécessaire	必要な
probable	確らしい	vrai	本當な

【注意】此種の文の形は通常、Il est 形容詞 de (或は que) であるが尙次のやうな形もある。

Il est temps de partir. 出發する時刻だ。

Il est à croire que.... は信すべきである。

Il est trois heures précises. 正三時だ。

[B] ce (c', ç')

a. 形 概ね次の形をとる。

C' est.....à..... (39) C' est.....de..... (40)

C' est.....que..... (41) C' est.....qui..... (42)

主語句、c' est..... (此場合には c' を省き得ることがある)。(43)

b. 意義上の主語 à, de, que, qui の後にある語句である。

39. Ce n'est¹ pas aux enfants à juger² les grandes personnes.

【註】1. être は すべきである、するに値する、する筈である。2. 判断する、裁判する。

〔譯〕偉人を判断するのは、子供のすべきことでない。

【類例】C' est à vous à parler. 今度は君が話するのだ。

40. C' est une excellente habitude¹ de se lever² matin³ et de se coucher⁴ tôt⁵.

【註】1. 習慣、癖。2. se lever 起きる。3. le matin 朝。(此處では副詞で朝早く) 4. se coucher 寝る。5. 早く。

〔譯〕朝早く起きて、早寝するは良い習慣である。

【類例】C' est une chose imprudente de manger des fruits dans leur verdeur.

未熟の内に果實を吃るのは、不注意のことである。

41. De¹ toutes les comédies, ce sont celles² de Molière que³ l'on estime⁵ le plus⁶.

【註】 1. の内で。 2. celui の女性複数で、此處では comédies を指示してある。 3. 關係代名詞。 4. l' は音調上附加されてゐるので、別に意義をもたない。 5. estimer (尊重する、鑑定する)の直説法現在。 6. le plus 最も。

〔譯〕 總ての喜劇の内で、人が最も尊重するのは「モリエール」のものである。

【類例】 C' est avec les pommes que l' on fait le cidre.

林檎酒は林檎を以て作るのである。

42. C' est la chute¹ d' une pomme qui² révéla³ à Newton le problème de la gravitation⁴.

【註】 1. 墜落。 2. 關係代名詞。 3. révéler (あげく、知らせる)の單純過去。 4. 重力。

〔譯〕 「ニュートン」に重力の問題を知らせたのは、林檎の落下である。

【類例】 C' est Dieu qui a créé le ciel et la terre.

天地を創造したのは神である。

43. Le génie¹ de la langue française, c' est la clarté² et l' élégance³.

【註】 此文では c' (従つて其前にある,)を省くことができる。 1. 天才、特性、工兵。 2. 光明、明瞭。 3. 高雅、優美、ハイカラ。

〔譯〕 佛蘭西語の特性は、明晰と高雅である。

【類例】 Travailler, c' est battre monnaie.

働くことは貨幣を鑄造することである。

Ce qui m' afflige, c' est de voir les méchants opprimer les bons. 私を憐りますものは、悪者が善者を壓服するのを見ることがある。

IV. 主語の省略

- 判別法 a. 動詞の命令法にあらざるや。(44, 45)
b. 對等文に於て同一主語の重複を避けあらざるや。(46)
c. 特種の語句及文。(47—49)

44. Hommes puissants, recevez¹ avec bonté² les malheureux qui ont recours³ à vous. (命令文)

【註】 一見、Hommes puissants が主語のやうであるが、此れは呼びかけの語である。何んとなれば、冠詞もなく、直後に (,) があり又動詞と人稱を異にしてゐるからである。 1. recevoir (受ける)の命令法複數二人稱。 2. avec bonté 懇切に。 3. avoir recours à にたまる。

〔譯〕 強者よ、汝等にたまる不幸者を懇切に遇せよ。

【類例】 (137)

45. Rappelez-vous¹ vos fautes; n' y² retombez³ pas. (命令文)

【註】 一見設問形の如きも、さうでない、文末に ? なきを見ても了解し得る。 1. se rappeler (思出す、追憶する)の命令法複數二人稱。 2. y は à cela の意で、fautes を代表してゐる。 3. retomber (再び落ちる)の命令法複數二人稱。

〔譯〕 諸君の過失を追憶し、再びそれに陥る勿れ。

【類例】 (137)

46. Un pompier entra¹ courageusement² dans le feu (et) (il) sauva³ heureusement⁴ une femme avec son enfant. (對等文)

【註】 此れは二つの對等文から成つてゐる。後の對等文では主語を省略してゐる。若し此れに主語を挿入すれば、il sauva となる。 1. entrer (入る、入れる)の單純過去。 2. 勇ましく。 3. sauver (救ふ)の單純過去。 4. 幸に、無事に。

〔譯〕 一人の消防夫は勇ましく火の中に入り、一人の婦人と其子供を無事に救助した。

47. Qui¹ aime² bien châtie³ bien. (特種の語句)

【註】 1. 關係代名詞で、celui qui の celui が省かれてゐる。 2. aimer (愛する)の直説法現在。 3. châtier (罰する)の直説法現在。

〔譯〕 よく愛する者は、よく罰す。

【類例】 Qui se ressemble s'assemble. 似るものは集まる。 (類は類を呼ぶ)

Je sais à quoi vous rêvez. 私は貴方が何を考へてゐるか知つてゐる。 (...la chose à quoi.... の意)

【注意】 格言、諺などに於て、屢々省略に遭遇する。

48. Pas de plaisir¹ sans² peine³. (特種の語句)

【註】 此文は冒頭にある Il n'y a を省いたものである。 1. le plaisir 楽み。 前に de があるのは、否定の意義が前にあるからである。 2. なく、なくんば、なくとも。 3. 罰、苦痛、骨折

〔譯〕 苦なければ樂なし。

【類例】 Loin des yeux, loin du cœur. 眼より遠ざかれば、心より遠ざかる (去るものは日日に疎し)。 (Quand on est loin..., on est loin.... の意)

【注意】 主語及動詞の省略は格言、諺などに屢々見受けられる。 (233, 234)

49. Plaise¹ à Dieu que vous obteniez² un grand succès. (特種の語句)

【註】 此文は Je souhaite qu'il plaise à Dieu.... の意である。 1. plaisir (氣にかなう)の接續法現在。此動詞は非人稱動詞になることがある。 2. obtenir (得る)の接續法現在。

〔譯〕 どうか、貴君が大成功を得るやうに神かけて祈ります。

【類例】 Je chante, ne vous déplaise. 御氣に障るかも知れませんが、私は歌ひます。 (qu'il ne vous déplaise の意)

Suffit. それで充分だ。 (Il suffit 或は Cela suffit の主語を省いたもの)

Reste à vous dire que.... を貴方に云はなければならな

い。 (Il reste à vous dire que.... と同じ)

Inutile de vous dire que.... 君に....を話す迄のこと

もない。

Que vous en semble? どう貴方に見えるか。

(2) 述語 (動詞)

- a. **述語の職分** 主語の動作又は状態を示す。
- b. **述語の位置** 主語の後、前。
- c. **述語の種類** 他動詞、自動詞、受動詞、代名動詞、非人稱動詞、助動詞。
- d. **述語の形** 單純時、複合時(助動詞を伴ふて變化もあるもの)。
- e. **述語の伴ふるもの** être 及其れに準ずる動詞は形容語句 (75—80), 其他の述語は補語 (94—96)。
- f. **述語の省略** 省略されることがある (73, 74)。

I. 「法」及「時」の意義

直 説 法

確實な動作或は状態を示す。

現 在

- a. 所謂、現在の動作或は状態を表はす。 (20)
- b. 真理或は永久的事柄を表はす。 (23)
- c. 每日或は一定の期間を置いて繰返される習慣的の事柄を表はす。 (28)

d. 近い未来を表はす。 (130)

e. ~~aller~~ の現在 + 不定法は近い未来を表はす。 (50)

① 條件を示す接續詞 si の後では、未來の代りに用ひられる。 (225)

g. 若干の動詞 (例へば devoir) は他の動詞の不定法を伴ふて未來の意義を表はす。 (51)

h. 動詞 être は他の語を作ふて、意義の強い現在を表はし、或は未來を表はすことがある。 (52)

i. 動詞 vouloir は丁寧な意義をもつ命令法の代りに用ひられることがある。 (138)

j. 叙事に力を附ける時には、過去の代りに用ひられる。 (53)

k. venir の現在 de + 不定法は近い過去を表はす。 (54)

半過去

a. 或期間繼續した過去の動作或は状態を表はす。 (33)

b. 過去に於ける習慣的の事柄を表はす。 (33)

c. 條件を示す接續詞 si の後では、條件法の代りに用ひられる。 (226)

d. ~~aller~~ の半過去 + 不定法は他の過去の事柄の直後に行はれんとした事柄を表はす。 (55)

e. venir の半過去 de + 不定法は他の過去の事柄の直前に行はれた事柄を表はす。 (56)

複合過去

a. 全く過去つた時期或は全く過ぎ去らない時期 (例へば本月とか本週の如く一部は経過し一部は経過せざる時期) に起つた事柄を表はすもので、特に會話若くは會話に類する文體に用ひられる。 (24)

單純過去

a. 全く過ぎ去つた時期に起つた事柄を表はすもので、主に歴史的叙述に用ひられる。 (46)

大過去

a. 他の過去の事柄よりも前に行はれた事柄を表はす。 (57)

b. 條件を示す接續詞 si の後では、條件法の代りに用ひられる。 (227)

先立過去

a. 他の過去の事柄の直前に起つた事柄を表はす。通常、aussitôt que (.....するや否や)、dès que (.....するや否や) 等の接續詞のある文に用ひられ、他の過去の事柄は單純過去で示される。 (58)

單純未來

a. 未来に起る事柄を表はす。 (225)

b. 丁寧な命令的の意義を表はす。 (135)

c. 丁寧に云ふ時に現在の代りに用ひられる。 (135 類例)

先立未來

a. 他の未来の事柄の前に起るべき事柄を表はす。 (59)

b. 時としては語勢を和らげる爲に、複合過去の代りに用ひられる。 (59 類例)

命令法

現在

a. 命令、希望を表はす。 (44)

b. 條件の意義を表はす。 (229)

過去(先立未來)

- a. 一定の時期の前に完了さるべき命令を表はす。(137類例)

條件法

一般に條件(時としては條件が省略してある)に關聯する動作或は狀態を示すものである。

現在

- a. 或條件に對する未來の事柄を表はす。(226)
✓ b. 時としては、條件が略せられて、單獨に用ひられることがある。(60 注意)
✓ c. 希望を表はす。(60 注意)
✓ d. 設問文では丁寧な意義を表はすことがある。(136)
✓ e. 肯定文では可能、様子、確實性を表はす。(60)
f. 主文の述語が過去の時に、補足文にある條件法現在は、主文の述語の示す事柄より未來の事柄(的確でない)を表はす。(61)

過去

- a. 第一及第二の形は共に同じ意義を表はす。(227)
b. 或條件に對する過去の事柄を表はす。(227)
✓ c. 過去の事柄に關する推定を表はす。(60類例)
d. 主文の述語が過去の時補足文にある條件法過去は直說法先立未來のやうな意義を表はす。(64 注意)

接續法

現在

疑惑、不確實な動作或は狀態を示すもので、通常、補足文に用ひられる。

- a. 直說法の現在又は未來に相當する。(62)

- b. 主文の述語が直說法現在若くは未來の時、補足文にある接續法現在は、主文の述語に對し同時又は未來の事柄を表はす。(62, 63)

半過去

- a. 直說法の半過去、單純過去、條件法現在に相當する。
b. 主文の述語が過去又は條件法の時、補足文にある接續法半過去は主文の述語に對し、同時又は未來の事柄を表はす。(64, 65)
c. 主語を述語の後に置いて「假令」の意義を表はすことがある。(218類例)

過去

- a. 直說法複合過去、同先立未來に相當する。
b. 主文の述語が直說法の現在又は未來の時、補足文にある接續法過去は主文の述語に對し過去の事柄を表はす。(62類例, 63類例)

大過去

- a. 直說法大過去、條件法過去に相當する。
b. 主文の述語が直說法過去又は條件法の時、補足文にある接續法大過去は、主文の述語に對し、過去の事柄を表はす。(64類例, 65類例)

現在分詞

- a. 其屬する文の述語に從ひ、過去(67)現在(66)又は未來(68)の意義を表はす。
b. 前置詞 en を伴ふものは、概ね、事實の進行、原因、方法、時間、假定、讓歩等の意義を表はす。(66類例)

- c. 前置詞 *en* を伴はないものは、概ね「...する所の」「...した所の」の意義をもつ。(67)
- d. 分詞文を形成することがある。(201)

過去分詞

- a. 助動詞なく單獨に用ひられた第一形は形容詞の性質を帶び受動的意義を表はす。(90)
- b. 助動詞と共に用ひられた第一形は複合時を形成する。(67)
- c. 第一形は分詞文を形成することがある。(202)
- d. 第二形は其儘の形で用ひられるもので他の動詞に對しては大過去の如き意義を表はし、能動的動詞のものは能動的の意義をもち、屢分詞文を形成する。(202 類例)

不定法

主語(26), 形容語句(75), 補語句(94 類例), 不定法文(69)に用ひられる。

50. Le soldat en revenant¹ de la guerre ya² se livrer³ aux travaux⁴ des champs. (近い未來の意義)

【註】 1. revenir(歸る)の現在分詞。2. aller(行く)の直説法現在で、後に不定法がある時には、後の動詞の近い未來を表はす。3. livrer 渡す、行ふ。se livrer à に従事する。4. le travail の複數形。

【譯】 兵士戦争より歸還せば、田畠の仕事に従はん。

【注意】 (55)と比較せよ。

51. Je compte¹ vous voir dans huit jours². (未來の意義)

【註】 1. compter(計算する、積りである)の直説法現在で未來の意義を表はす。2. 一週後に。dans quinze jours 二週後に。

【譯】 私は一週間後に貴君に會ふつもりです。

【類例】 此種の動詞。 falloir, devoir, avoir à ればならぬ。

52. Les beaux jours sont près de¹ revenir², car³ nous avons déjà⁴ entendu⁵ le chant⁶ des coucous. (未來の意義)

【註】 1. près de の近くに、將に....せんとす。2. 歸る。3. 何となれば。4. 既に。5. entendre(聞く)の過去分詞で、avons entendu は複合過去。6. 歌、囁り。

【譯】 近く麗らかな日にならうとしてゐる、なぜなら吾々は、もう、杜鵑の鳴聲を聞いたから。

【類例】 être sur le point de partir. 將に出發せんとしてゐる。
être en train d'examiner. ...を試験中である。
être en (pleine) voie de construction.

製造(眞)最中である。
être à faire..... をしなければならない。

53. Il était² minuit. Tout le monde³ dormait⁴ dans la maison. Un voleur entre⁵ dans la chambre, prend⁶ l'argent oublié⁷ sur la table et se sauve⁸ par⁹ la fenêtre. (過去の意義)

【註】 1. 形式上の主語、2. être の直説法半過去。3. tout le monde 總ての人、皆。4. dormir(眠る)の直説法半過去。5. entrer(入る、入れる)の直説法現在。6. prendre(とる)の同現在。7. oublier(忘れる)の過去分詞。8. se sauver(逃げる)の直説法現在。9. 経て。

【譯】 夜半であつた。皆家で眠つてゐた。一人の盜賊が室に侵入し、机の上に置き忘れてあつた金をとり、窓から逃げた。

【注意】 此文では力をつける爲に、過去の事柄に特に直説法現在を用ひたのである。前後の關係で此れを判斷すべきである。

54. On¹ voit² souvent des chiens léchant³ la main qui⁴ vient⁵ de les⁶ frapper⁷. (近い過去の意義)

【註】 1. 人は。2. voir(見る、目撃する)の直説法現在。3. lécher(舐める)の現在分詞。4. 關係代名詞。5. venir(来る)の直説法現在で、「de

「+不定法」を伴ふと、後の動詞の近い過去を表す。(56)と比較せよ。
6. chiens を代名する。7. 打つ。

〔譯〕 犬を殴った手を其犬が舐めるのを見受ける。

【注意】 on (人は)は漠然と主語になつてゐるので、通常の場合には、譯さないでよい。

55. Mon frère allait¹ partir² quand³ la dépêche⁴ arriva⁵. (過去に於ける近き未來の意義)

【註】 1. aller (行く)の直説法半過去で、後に不定法を伴ふた時は、他の過去の事柄の直後に行はれんとした事柄を表す。2. 出發する。3. 時に。4. 電報。5. arriver (到着する)の單純過去。

〔譯〕 電報が着いた時には、私の兄弟は出發しやうとしてゐた。

【注意】 此意味の時には aller は常に半過去の變化である。(50)と比較せよ。

56. Notre professeur venait¹ de finir² sa leçon, quand le directeur est entré³ dans la classe. (大過去の意義)

【註】 1. venir (来る)の直説法半過去で、「de+不定法」を伴ふと他の過去の事柄の直前に行はれた事柄を表す。2. 終へる、終る。3. (入る、入れる)の過去分詞で、est entré は複合過去。

〔譯〕 校長が教室に入った時には、吾々の先生は授業を終へた所であつた。

【注意】 此意味の時には、venir は常に半過去である。(54)と比較せよ。

57. J' avais¹ terminé² mon travail, quand il entra³ dans mon bureau. (直説法大過去)

【註】 1. avoir の直説法半過去。2. terminer (終へる)の過去分詞で、avais terminé は大過去。3. entrer (入る、入れる)の單純過去。

〔譯〕 彼が私の事務所に入った時には、私は既に仕事を終へてゐた。

【注意】 大過去が用ひられてある時には、別に「既に」「前に」等の語句が文中になくとも、此れを附加して譯した方がよいことがある。

58. Quand l' orateur eut¹ fini² son discours³, il se retira⁴ aux acclamations de l' assistance⁵. (先立過去)

【註】 1. avoir (もつ)の單純過去。2. finir (終へる、終る)の過去分詞で、eut fini は先立過去。3. 演説。4. se retirer 退去する。5. 臨席、會衆、救護。

〔譯〕 編士は演説を終へるや直に會衆の拍手喝采裡に退去了した。

【注意】 先立過去が用ひられてある時には、別に「直に」「するや否や」等の語句が文中になくとも、此れを附加して譯するがよい。

59. Quand le soleil aura¹ fond² la neige, nous commencerons³ nos excursions⁴ dans les montagnes. (先立未來)

【註】 1. avoir の單純未來。2. fondre (溶かす、溶ける)の過去分詞で、aura fondu は先立未來。3. commencer (初める、初まる)の單純未來。4. 散歩。

〔譯〕 太陽が雪を溶かしたら、吾々は山地跋渉を始めやう。

【類例】 Vous aurez négligé quelque précaution. 貴方は或る注意を怠りました。(語勢を和らげる爲、複合過去の代りに用ひてある)

60. Il ne remue¹ plus², on dirait³ qu'⁴ il est mort. (條件法現在)

【註】 1. remuer (動かす、動く)の直説法現在。2. ne....plus もはや....ない。3. dire (云ふ)の條件法現在で、「確實らしさ」「様子」を示す。4. 接續詞。

〔譯〕 彼はもはや身動きしない、人は彼が死んだと云ふだらう。

【類例】 條件法過去でも此のやうな意義を表すことがある。

Il y a eu hier un grand incendie à Paris; le feu aurait

été mis par des malfaiteurs.

昨日巴里に大火があつた、火は悪漢共が附けたらしい。

61. *Je retournerais volontiers à la maison.* 私は喜んで家に歸りませう。(或る條件が省略せられてゐる)

Je voudrais y aller. 私はそこへ行きたい。(希望の陳述)

61. *Je pensais¹ que² vous partiriez³ avec nous.* (條件法現在)

【註】 1. *penser* (思ふ) の直説法半過去。 2. 接續詞。 3. *partir* (出發する) の條件法現在で、 *pensais* より未來の事柄を稍不的確に表はす。

〔譯〕 私は貴君が吾々と一緒に出發するだらうと思つてゐた。

【類例】 *J' ai prédit hier qu' il pleuvra demain.* 私は明日雨が降るだらうと、昨日豫言した。(pleuvra は非人稱動詞の未來で、まだ到來しない事實を稍的確に示してゐる)

62. *Je doutais¹ que² vous veniez³ demain chez moi.* (接續法現在)

【註】 1. *douter* (疑ふ) の直説法現在。 2. 接續詞。 3. *venir* (来る) の接續法現在で、 *douter* に對して未來の事實を表はしてゐる。

〔譯〕 私は貴方が明日私の宅に來るのを疑つてゐる。

62. *Je suis très heureux que vous soyez satisfait.* 貴方が満足してゐるので、私は非常に幸だ。(接續法現在) (二つの現在の事實の併立)

Je doute qu' il ait fini son travail hier. 私は彼が昨日其仕事を終へたことを疑ふ。(接續法過去) (主文の動詞より過去の事實を表はす)

63. *Il faudra¹ que² vous partiez³ demain soir.* (接續法現在)

【註】 1. 非人稱動詞 *falloir* (要する) の單純未來。 2. 接續詞。 3. *partir* (出發する) の接續法現在で、未來の事實を表はす。

〔譯〕 貴方は明晚出發しなければならない。

63. *Je douterais toujours qu' il ait réussi.* 私は彼が成功した

ことを常に疑ひませう。(接續法過去) (主文の動詞より過去の事實を表はす)

64. *Je voulais¹ que² votre camarade vînt³ ici demain.* (接續法半過去)

【註】 1. *vouloir* (欲する) の直説法半過去。 2. 接續詞。 3. *venir* (来る) の接續法半過去で、主文の動詞より未來の事實を表はす。

〔譯〕 私は貴方の學友が明日こゝに來ることを欲してゐた。

64. *J'étais très heureux que vous fussiez satisfait.* 私は貴方が満足してゐたので、非常に幸であった。(接續法半過去) (二つの過去の事實の併立)

J' ignorais qu' il eût quitté hier de chez vous. 私は彼が貴宅から昨日去つたのを知りませんでした。(接續法大過去) (主文の動詞より過去の事實を表はす)

64. *Je croyais que vous seriez arrivé avant le départ du train.* 私は貴君が列車の出發前に到着するだらうと思つてゐた。(64の例と動詞の「時」の表はす關係は同じである、唯主文の動詞の關係で 64の例は補足文は接續法を要求し、此例は條件法過去が置かれてあるのが異なるのみ)

65. *Je ne crois¹ pas qu'² il entreprendrait³ cette affaire s'⁴ il n' était⁵ sûr de réussir.* (接續法過去)

【註】 1. *croire* (信する) の直説法現在。 2. 接續詞。 3. *entreprendre* (企てる) の接續法半過去で、次にある條件句と關聯して *croire* より未來の事實を表はす。 4. 若しも。 5. *être* の直説法半過去。

〔譯〕 若し彼が成功することが確實でなければ、彼はあの事業を企てるとは私は信じない。

65. *Je ne crois pas qu' il eût entrepris³ cette affaire, s' il n' avait été sûr de réussir.* 若し彼が成功することが確實でなかつたなら、彼はあの事業を企てたとは、私は信じない。

(接續法大過去) (次の條件句に關聯して、主文の動詞よりは過去の事實を表はす)

【注意】此場合に接續法の代りに、條件法が用いられてゐることがある。

66. On obtient¹ la surface d' un triangle en multipliant² la base³ par⁴ la moitié de la hauteur⁵. (現在分詞)

【註】1. obtenir (得る)の直説法現在。2. multiplier (増加する、乗する)の現在分詞。3. 基礎、底。4. よつて。5. 高さ、高地。

【譯】底に高さの半ばを乗すれば、三角形の面積を得る。

【注意】現在分詞で、前置詞 *en* をもつものは、概ね事實の進行、原因、方法、時間、假定、讓歩等を表はす。

【類例】 en marchant	歩きながら
- en tombant sur le dos	仰向けに倒れたので
en rentrant chez moi	私の宅に歸った時
en fumant trop	過度に喫煙すれば
en étudiant seul	獨學しても

67. Nous avons¹ aperçu² le cheval galopant³ sur la rue. (現在分詞)

【註】1. avoir の直説法現在。2. apercevoir (望見する、見渡す)の過去分詞で、avons aperçu は複合過去。3. galoper (疾驅する)の現在分詞。

【譯】我々は街路上を疾驅してゐた馬を望見した。

【類例】 *Etant* très occupé, je dois rester chez moi.

非常に忙がしいので私は宅に居なければならない。

Je l' ai trouvé lisant. 読書してゐた彼を私は見出した。(201)

【注意】現在分詞で、前置詞 *en* を伴はないものは、概ね「...する所の」、「...した所の」の意義をもつ。其意義の「時」は關聯する動詞の「時」に従ひ現在、過去、未來を表はす。

68. Parcourez¹ la France, du² nord au sud, votre étonnement et votre plaisir iron³ toujours en croissant⁴. (現在分詞)

【註】1. parcourir (歩き廻る)の命令法二人稱。2. de.... à から.... 迄。3. aller (行く)の單純未來。4. croître (増す)の現在分詞。

【譯】佛國を北から南に歩き廻れば、貴方の驚異と快樂は常に増す計りである。

【類例】 Le Léman va se rétrécissant du côté de Genève.

「レマン」湖は「チュネーヴ」の方側では、漸次狹まる。

【注意】aller (行く)の變化に他の動詞の現在分詞(enを伴ひ、或は伴ひない)が接すると事實の連續を示す。

69. Que¹ dire? (不定法)

【註】1. 何を(設問代名詞)、動詞は會話などでは屢變化しないで用ひられる。

【譯】何を云はうか。

【類例】 Où fuir? どこに逃げやうか。

Pourquoi toujours mentir? なぜ始終嘘を云ふか。

Pour quoi faire? 何をする爲に。

Je ne sais comment faire. どうしていいか私は知らない。

Ecrire X. Bureau du Journal. 新聞社内Xに照合のこと。

Ecoutez l'orateur parler. 演説者の話すのを聽け。

II. 受動的意義をもつ述語

a. 形 être+過去分詞。 (70, 71)

代名動詞。 (72)

b. 受動的意義をもつ動詞は前置詞 *par*, *de*, *pour* 等を伴ふ補語を從へ、或は從へない。

c. être を助動詞とする自動詞の變化及 être+形容詞と混同してはいけない。

70. L'Asie est séparée¹ de l'Amérique par le détroit² de Behring.

【註】 1. séparer (分ける、隔離する)の過去分詞で、est séparée は受動詞の現在。 2. 海峡。

〔譯〕 亞細亞は「ベーリング」海峡で亞米利加と隔てゝゐる。

【類例】 Les trois quarts de la surface du globe sont occupés par les eaux.

地球の表面の四分の三は水で占められてゐる。

【注意】 受動詞の變化では、「時」は être の「時」で判断すればよい。

71. Autrefois¹, un régiment d' infanterie était seulement² composé³ de trois bataillons et d' un état-major⁴.

【註】 1. 昔。 2. 單に、専ら。 3. composer (組立てる、組織する) の過去分詞で、était composé は受動詞の半過去。 4. 本部、參謀部。

〔譯〕 昔は歩兵聯隊は、單に三ヶ大隊と本部から成り立つてゐた。

【類例】 Beaucoup de plantes sont employées pour l'usage médical. 多くの植物は醫用に用ひられる。

Rome est quelquefois appelée la ville aux sept collines.
「ローマ」は時々七つの丘の都と呼ばれる。

72. Le verre¹ se coupe² avec le diamant. (代名動詞)

【註】 1. 硝子、「コツブ」。 2. se couper (切られる、傷つく) の直説法現在。

〔譯〕 硝子は金剛石で切られる。

【類例】 Cela se dit souvent. 其のことは屢々云はれる。

【注意】 同じ代名動詞でも意義を異にすることがある。
Il s' est coupé le doigt avec le canif.
彼は小刀を以て自分の指を切つた。

尚、代名動詞は自動的或は相互的の意義を表すことがある。

Il s' est promené cet après-midi. 彼は午後に散歩した。

Ils s' aiment toujours. 彼等は常に愛し合つてゐる。 (7)

III. 述語の省略

a. 對等文に於ける二つの述語が互に同じものである時に
は、後の述語が省かれることがある。(73)

b. 感嘆文や謳などでは屢々省かれる。(74)

73. Les matelots¹ logent² à l'¹ avant d'² un vaisseau³, et les
officiers à l'arrière⁴. (對等文)

【註】 此文では、les officiers logent の logent が省いてある。

1. 水兵。 2. loger (住む)の直説法現在。 3. 船(大きな)。 4. 後方。

〔譯〕 水兵は船首に、將校は船尾に住む。

【類例】 Le blé est coupé en été et la vigne vendangée en automne. 麦は夏に切られ、葡萄樹は秋に葡萄を収穫せられる。
(此文では est vendangée の est が省かれてゐる) (185)

74. Quels¹ fruits délicieux² que³ les pêches⁴! (感嘆文)

【註】 1. 如何なる、何ほどの。 2. うまい、心地よい。 3. 接続詞。
4. 桃。

〔譯〕 桃はなんとうまい果物であるよ。

【類例】 Triste vie que celle que je quitte! 私が去らうとしてゐる
此世は何んといやな世であるよ。(最初の que は接続詞、
後の que は關係代名詞)

Il n'y a pas de quoi. 御禮に及びません。(....de quoi
remercier の意) (149 類例)

(3) 形容語句 (述語を介して主語の) (性状を形容するもの)

a. 形容語句を伴ふ述語 être ある (75-78)

devenir なる, paraître らしい, sembler らしい,
rester るる, etc. (79)

- b. 形容語句の位置 通常、述語の後、稀に其前。 (78)
- c. 形容語句となる品詞 名詞 (76), 形容詞 (78, 79), 代名詞 (76), 不定法 (75), 不變化語 (77).
- d. 形容語句は時々省かれてある。 (80)

75. Etre neutre¹ entre deux parties rivales², c'est avoir même³ poids⁴ et même mesure⁵ pour chacune.⁶

【註】 1. 中立の。 2. rival 對抗する。 3. 同じ。 4. 重さ。 5. 測定, même poids et même mesure 公平。 6. 各。(partie を表示してある)

〔譯〕 二つの對抗者に中立であると云ふのは、各に對して公平であることだ。

【類例】 Vouloir, c'est pouvoir. 欲することは出来る。(精神一到何事か成らざらん)

76. Si¹ (j') étais mère², je le³ serais⁴ avec toute la tendresse imaginable⁵.

【註】 1. 若し。 2. 形容詞的に用ひられてある爲、冠詞を省いてある。 3. mère の代用語。 4. être の條件法現在。 5. 想像することのできる。

〔譯〕 若し自分が母なら、考へられるだけのあらゆる温情をもつ母であらう。

【類例】 Philippe le Bon était fils de Jean sans Peur. 「フィリップ・ル・ポン」は「ジャン・サン・ブル」の子であつた。

【注意】 人の異名 (Surnom) では、形容詞や冠詞などが後に置かれてある。

77. Il est bien¹ avec Paul.

【註】 1. よい。(副詞)

〔譯〕 彼は「ポール」と仲がいゝ。

【類例】 Ce n'est pas assez de le faire.

それをするだけでは足りない。

C'est trop que vous me demandiez ce service.

貴方が私に此仕事を要求するのはあんまりだ。

Ce n'est rien. それは何でもない。

C'est à peine si j'osais répondre.

私は殆んど答へ得なかつた。

78. Bienheureux sont ceux qui aiment¹ la paix. (形容語句の轉位)

【註】 此文は要素が轉位してゐる、主語は ceux qui (所の者)で其形容語が sont, 其形容語が bienheureux (幸多い)である。 1. aimer (愛する)の直説法現在。

〔譯〕 平和を愛する者は多幸である。

【類例】 (189)

79. Arrivés¹ à un âge² avancé³, certains² gens⁴ deviennent⁵ sourds⁶.

【註】 1. arriver (到着する)の過去分詞で gens にかかる。 2. 年齢。 3. 進んだ。 4. 人(常に複數)。 5. devenir (なる)の直説法現在。 6. sourd (聾の)の複數形。

〔譯〕 老年に達すると若干の人は聾になる。

【類例】 rester indécis	躊躇してゐる
paraitre jeune	若く見える
sembler fatigué	疲れたやうだ
demeurer pensif	考へ込んでゐる
mourir pape	法王として死ぬ
naître aveugle	盲目で生れる
se montrer fier	得意の様子を見せる

80. Le lièvre¹ est d'un naturel² craintif. (形容語句の省略)

【註】 1. 兎。 2. 性質。此文では est doué d'un... の doué (賦與される)が省かれてあると見做すことができる。

〔譯〕 兎は臆病な性質である。

【類例】 Il est de Paris. 彼は巴里のものである。

La lecture est d'une grande fatigue pour les yeux affaiblis.
讀書は弱つた眼には大なる疲勞である。

Il est de son âge. 彼は年にふさわしい。

【注意】 動詞 être で結びつけられる主語と形容語句が等しいものでない時には、前置詞を介置してある。

(4) 補 語 句

- a. 補語の職分 或る語の意義を補足する。
- b. 補語をもちうるもの 名詞 (81-86), 形容詞 (87-89), 代名詞 (91-93), 動詞 (94-96), 副詞 (97, 88).
- c. 補語の省略。 (183)

I. 名詞の補語

a. 名詞の補語となるもの

名詞。 (81)

前置詞を伴ふた名詞若くは代名詞。 (82)

形容詞。 (81)

過去分詞、現在分詞。 (83, 85)

前置詞を伴ふた不定法。 (84)

關係代名詞を伴ふ句。 (86)

b. 補語の位置

直接に續く。 (82)

(,) を置いて續く。 (81)

名詞の後
数個の補語ある時には其間に (,) 及接続詞を
伴ふ。 (85)

直接に續かないことがある。 (83 注意)

直前に置かれる(少數の形容詞)。 (2)

名詞の前
主語たる名詞の前に (,) を介して其名詞の補
語があることがある。 (85)

81. Le détroit¹ de Magellan, bras² de mer entre³ l' extrémité sud de l' Amérique et la Terre de Feu, fut⁴ découvert⁵ en 1520 par le navigateur portugais Magellan.

【註】 1. 海峽。 2. 脈。 bras de mer 海峽。 3. 間に、間の。 4. être (ある)の單純過去。 5. découvrir (發見する)の過去分詞で、 fut découvert は受動詞の單純過去。

〔譯〕 亞米利加の南端と「フイゴ」島との間の海峽である「マゼラン」海峽は、1520年「ホルトガル」の航海者「マゼラン」に依り發見せられた。

【類例】 Il n'y avait rien qui effrayât les Francs nos ancêtres.
吾人の祖先の「フランク」人を恐れさせたものは何もなかつた。

82. La distance de la lune² à la terre est³ égale à 60 fois⁴ le rayon de celle-ci⁵.

【註】 1. de....à から....迄。 2. 月。 3. être (ある)の直説法現在。 4. 倍、度。 5. 指示代名詞で、近いものを示す ci があるから、 la terre (地球)を指示する。

〔譯〕 月と地球との距離は、地球の半径の六十倍に等しい。

【注意】 次の如き語句は、上から譯した方がよい。

un drôle d'enfant	變つた子供
un diable de temps	變な天氣
un monstre d'homme	ひどい奴
cette friponne de femme	あの狡い女

以上の如き用句に於ては、前の名詞、冠詞などには後の名詞の「性」と「數」に一致した形をもつ。

83. La France d'autrefois¹ se composait² de peuples ayant³ des mœurs⁴, des lois⁵ et des langages⁶ différents⁶.

【註】 1. 昔の (副詞から名詞に轉用されてゐる)。 2. se composer (成り立つ)の直説法半過去で、通常 de を從へる。 3. avoir (もつ)の現在分詞で、peuples qui avaient... の意である。 4. 風習。 5. 法律、法則。 6. différents (異なつた) [*à* mœurs, lois 及び langages に意義を關聯してゐる。

〔譯〕 昔の佛蘭西は、異つた風習、法律及言語を有した諸人民から成立つてゐた。

【注意】 形容詞は、其「性」と「數」から判斷して何れの名詞に意義上關聯してゐるかを知るがよい。

des boutons de métal ronds 金屬製の圓鉗
une masse de maisons construites en briques 練瓦建の家屋の一群

84. C'est aux sauvages² de l'Amérique que³ les Européens ont⁴ emprunté⁵ l'usage⁶ de fumer le tabac.

【註】 1. 形式上の主語で意義をもたない。 2. 野蠻人。 3. 接續詞。 4. avoir (もつ)の直説法現在。 5. emprunter (借りる、受ける)の過去分詞で、ont emprunté は複合過去。 6. l'usage (習慣、用途) は de 以下の補語をもつてゐる。

〔譯〕 歐洲人が煙草を吸ふ習慣を受けたのは、亞米利加の蠻人からである。

85. Souvent¹ nu-pied², nu-tête³ et couverts⁴ d' habits en lambeaux⁵, les soldats de la Révolution gagnèrent⁶ de brillantes victoires et délivrèrent⁷ la France envahie⁸ par les ennemis.

【註】 1. 屢。 2. 跳足で。 3. 素頭で。 4. 蔽はれた、着た。 5. 布片。 6. gagner (得る、儲ける、到達する)の單純過去。 7. délivrer (解放する、救出す)の單純過去。 8. 奪はれた。 此文では soldats の補語が皆、前にある。

〔譯〕 革命軍の兵卒等は、襤縫衣を纏ひ、屢、跣足、素頭で赫々たる勝利を得て、敵が奪つた佛國を救ふた。

86. Il y a¹ dans cette tragédie un acte qui² nous³ a⁴ fait⁵ verser⁶ bientôt⁷ des larmes.

【註】 1. Il y a... ある。 2. 關係代名詞で、此れ以下の語句は acte を補足してゐる。 3. 吾々に。 4. avoir (もつ)の直説法現在。 5. faire (爲す)の過去分詞。 6. 流す、注ぐ、faire verser 流さしめる。 7. 多くの (副詞)。

〔譯〕 あの悲劇には、吾々に澤山の涙を出させた幕がある。

【類例】 l'enfant à qui on a donné des fleurs.

人が花を與へた子供。

les montagnes que l'on trouve en Europe.

歐洲にある山々。

la question dont je vous ai parlé. 私が貴方に話した問題。

le pays où vous étiez autrefois. 昔貴君がゐた國。

la ville d'où vous êtes parti. 貴君が出發した都市。

la fertilité du Japon laquelle donne....

...を與へる日本の肥沃 (laquelle [*à* fertilité] に關聯する)。

les Alpes desquelles descendent plusieurs fleuves.

多くの河が流下する「アルプス」山。

【注意】 關係代名詞は先行詞と離れてゐることがある。(193 類例)

II. 形容詞の補語

a 補語をもつ形容詞の種類

品質形容詞。

b 形容詞の補語となるもの

前置詞を伴ふ名詞及代名詞。(87)

前置詞を伴はない代名詞。(87, 88)

前置詞を伴ふ不定法。 (89)

副詞。 (87)

c 補語の位置

前置詞を伴ふ名詞。 (87)

形容詞の直後 前置詞を伴ふ代名詞。

前置詞を伴ふ不定法。 (89)

形容詞の直前 副詞。 (87)

形容詞より離れる 前置詞を伴はない代名詞。 (87)
轉位の場合。 (87 類例)

87. Le vin est¹ nécessaire² aux hommes, mais l' eau leur³ est
absolument indispensable⁴.

【註】 1. être (ある)の直説法現在。 2. nécessaire à [に必要な] 3.
彼等に。 (hommes の代用語) 4. 必要缺くべからざる。

〔譯〕 葡萄酒は人に必要であるが、水は、なくてはならぬもの
である。

【類例】 A la patrie soyez toujours fidèles. 祖國に對しては常に忠
實なれよ。 (fidèles の補語が冒頭に轉位してゐる)

De vous dire pourquoi, ce serait long.

其理由を貴方に云へば長くなるだらう。

88. Le fils dont¹ la famille est² honorable doit³ toujours s' en⁴
montrer⁵ digne⁶.

【註】 1. 關係代名詞。 2. être (ある) の直説法現在。 3. devoir
(ればならぬ)の直説法現在。 4. 其れに就て。 (de sa famille の代用語)
5. se montrer 態度をとる、現はす。 6. にふさはしい、の價値ある。
常に前置詞 de を伴ふ。

〔譯〕 尊敬すべき家庭の子息は、常に、其家庭にふさはしくな
ければならぬ。

【類例】 Vous en serez responsable.

貴方は其の責を負はねばならない。

89. Il¹ est² sage³ de bien⁴ travailler quand⁵ on est jeune.

【註】 1. 形式上の主語で、意義をもたない。 2. être (ある)の直
説法現在。 3. 賢い。 4. よく。 5. 時に。

〔譯〕 若い時によく働くのは賢い。

【類例】 (38)

III. 代名詞の補語

a. 補語をもつ代名詞 人稱代名詞 (90, 91), 指示代名詞 (91
類例), 不定代名詞 (92), 設問代名詞 (24).

b. 補語の位置 概ね代名詞の後なるも、前にあることがある。(90)

90. Fatigué¹ par le travail, il ne voulut² plus³ parler à personne.

【註】 1. Fatigué (疲れた) 以下の語句は il を補足してある。 2.
vouloir (欲する)の單純過去。 3. ne....plus もはや....ない。

〔譯〕 仕事で疲れた彼は、誰にも話すこと欲しなかつた。

【類例】 Etant très occupé, je dois rester chez moi.

私は大層忙がしいので宅に居なければならぬ。

91. Ces hommes, aujourd' hui si¹ pauvres², je les³ ai⁴ vus⁵
autrefois riches⁶ et fiers⁶.

【註】 1. あれ程。 2. pauvres (貧しい) は hommes を形容する。
3. hommes を代表してある。 4. avoir の直説法現在。 5. voir (見
る)の過去分詞の複数形。 ai vus は複合過去。 6. les を形容してある。

〔譯〕 今、あれ程貧乏なあの**人**等は昔は金持で傲慢であつた。
(昔私は金持で傲慢である彼等を見た)

【類例】 Est-ce vous qui vous appelez Paul?

「ポール」と云ふ方は貴方ですか。

ce que vous avez vu. 貴方が見たもの。

celui de votre frère. 貴方の兄弟のもの。

celui qui vous appartient. 貴方に属するもの。

92. Nous n'avons¹ rien² trouvé³ de remarquable⁴ dans le discours de cet orateur.

【註】 1. avoir (もつ)の直説法現在。2. 何も (不定代名詞)。3. trouver (見出す)の過去分詞で avons trouvé は複合過去。4. 注意すべき、著しい。不定代名詞が形容詞をもつ時には、必ず間に前置詞 de を插入してある。

【譯】 吾々はあの辯士の演説に何等注意すべき事を見出さなかつた。

【類例】 Parmi ces fruits, il y en a certains de bons.

此等の果實の内に二三個よいのがある。

Il y a en lui quelque chose de surnaturel.

彼れには超人的の何物かある。

Montrez-moi autre chose de beau.

他の美しいものを見せて下さい。

【注意】 不定代名詞が形容詞を伴ふ時には、前から譯する方がよい事がある。

93. Connaissez-vous quelqu'un qui me rendra³ service?

【註】 1. connaître (識る)の直説法現在。2. 誰か。3. rendre (爲す)の單純未來。

【譯】 貴方は私の爲に働いてくれる人を知つてゐますか。

【類例】 Chacun de nous se croit parfait.

吾々の各は自分を完全と思つてゐる。

IV. 動詞の補語

- a. 動詞の補語の種類 直接補語 (94), 間接補語 (95), 狀況補語 (96).
- b. 動詞と補語の關係 動詞は補語をもつ時ともたない時とする。補語をもつ時には以上の補語をもち或は其若干をもつ。

[A] 直接補語

- a. 動詞の示す動作を直接に(即、前置詞なく)受ける語句である。
- b. 直接補語をもつ動詞 他動詞 (94), 代名動詞 (72).
- c. 直接補語となるもの 名詞 (94), 代名詞 (91), 不定法 (94類例), 文 (94類例). 此等の品詞は單獨であり或は補語を伴ふ。
- d. 直接補語の位置 動詞の後若くは前 (94).
- e. 一箇の動詞が數箇の直接補語をもち或は數箇の動詞が一箇の直接補語をもつことがある。

94. La Fontaine a¹ écrit² des fables que³ tout le monde⁴ admire⁵

【註】 1. avoir (もつ)の直説法現在。2. écrire (書く)の過去分詞。で a écrit は複合過去。其直接補語は des fables. 3. 關係代名詞。4. 皆。5. admirer (感心する)の直説法現在で、其直接補語は des fables.

【譯】 「ラ、フォンテーヌ」は、皆が感心する所の童話を書いた。

【類例】 Dites-moi quelle espèce de revue vous aimez.

貴方が如何なる種類の雑誌をよくかを私に云ふて下さい。

La lecture de Robinson an use et instruit les enfants.

「ロビンソン」の讀本は子供を樂ませ且教育する。

Celui qui ne sait pas obéir ne sait pas commander.

従ふことを知らない者は指揮することを知らない。

Je le connais de vue. 私は彼を見て識つてゐる。

【注意】 des fables の des は一見、間接補語らしきも、此の des は不定冠詞である。

[B] 間接補語

- a. 動詞の示す動作を間接に（即、前置詞を伴つて）受ける語句である。
- b. 間接補語をもつ動詞 他動詞（95）、自動詞（95類例）、代名動詞（95類例）、受動詞（95類例）。
- c. 間接補語となるもの 前置詞を伴ふ名詞（95類例）、不定法（95類例）、代名詞（95）。此等の品詞は單獨であり或は補語を伴ふ。
- d. 間接補語の位置 動詞の後若くは前（86類例）。

95. La lune reçoit¹ du soleil² la lumière qu'³ elle nous⁴ renvoie⁵.

【註】 1. recevoir (受ける)の直説法現在。2. du soleil (太陽から)は receivevoir の状況補語。3. 關係代名詞。4. nous (吾々に)は renvoie の間接補語。5. renvoyer (再び送る、反射する)の直説法現在。

〔譯〕 月は太陽より光を受けて吾々に反射する。

【類例】 Les enfants croient aux revenants. (自動詞)

子供は幽霊を信する。

Cléopâtre se fit mordre par un serpent. (代名動詞)

「クレオパトラ」は自分を蛇に咬ましめた。

La Corse fut cédée à la France par les Génois. (受動詞)

「コルシカ」は「ジェノア」人に依り佛國に譲與せられた。

Le professeur obliga un élève paresseux à quitter la classe. 教師は怠ける生徒に教室を去ることを強いた。

【注意】 me, te nous, vous, は直接補語及間接補語となることがある。よろしく前後の關係から判斷すべきである。此場合に la lumière が直接補語であるから、nous は間接補語である。

[C] 状況補語

- a. 場所、時間、状態、原因等を示して動詞の意義を補ふものである。
- b. 状況補語をもつ動詞 總ての種類の動詞。
- c. 状況補語となるもの 通常、前置詞を伴ふた語句であるが前置詞がないことがある。（96類例）
- d. 状況補語の位置 動詞の後若くは前。（96類例）

96. On va¹ souvent² de France en Italie par la Suisse.

【註】 1. aller (行く)の直説法現在で、其次にある句は皆状況補語である。2. 屢。

〔譯〕 人は屢、佛國から瑞西を經て伊國に行く。

【類例】 On a chassé sans chiens. 人は犬なく獵をした。

La guerre a duré trois ans. 戰争は三年繼續した。

Deux renards entrèrent la nuit dans un poulailler.

二匹の狐が夜鶏小屋に入った。

X et Y sont morts la même année.

X と Y は同年に死んだ。

Le long de la route, il y a une haie vive.

道に沿ふて生籬がある。

V. 副詞の補語

- a. 補語をもつ副詞の種類

分量の副詞（97）、形容詞より轉化した状態の副詞。（98）

b. 副詞の補語となるもの

前置詞を伴ふた名詞 (97) 若くは代名詞。 (98)

c. 補語の位置

通常、副詞の直後。(97, 98)

97. L'Italie a eu¹ beaucoup² d'artistes excellant³ à la fois⁴ dans la peinture⁵ et dans la sculpture.

【註】 1. avori (もつ)の複合過去。 2. 多くの 3. exceller (秀でる)の現在分詞。 4. à la fois 同時に、一度に。 5. 絵画。

〔譯〕 伊國には、絵画と彫刻とに共に秀いでた多くの藝術家があつた。

【類例】 Combien recevez-vous de journaux chaque jour? 貴君は毎日幾つの新聞を受けるか。(此の文では combien の補語は de journaux で互に離れてゐる、Combien de journaux recevez-vous...? と同じである)

98. Vivez¹ conformément² à ce que³ vous croyez⁴.

【註】 1. vivre (生活する) の命令法 2. conformément à.... に従つて。 3. ce que.... 所のこと。 4. croire (信する、思ふ) の直説法現在。

〔譯〕 貴方が信することに従つて、生活しなさい。

【類例】 relativement à ce poids. 此の重量に關係して。

contrairement à ce que vous dites. 貴君が云ふことと反対に。

indépendamment de ce règlement. 此規則と關係なしに。
différemment de son opinion. 彼の意見と異つて。

(5) 副詞語句

a. 形 單一の副詞 (99-107), 副詞句 (108).

b. 副詞語句が意義上關聯するもの 動詞 (99-104), 形容詞 (105), 副詞 (106), 名詞 (107).

c. 副詞の補語 若干の副詞は補語を伴ふ (97, 98).

d. 副詞の意義の程度 (203, 210).

I. 單一の副詞

[A] 動詞を限定するもの

副詞の位置 (否定の副詞に關しては 119-127)

a. 單純時の動詞の直後 (99).

b. 複合時の動詞の助動詞と過去分詞の間 (101).

c. 現在分詞の直後。(tout は現在分詞の前) (102, 103)

d. 文頭 (104).

99. Les enfants qui aiment¹ passionnément² le jeu négligent³ souvent⁴ leurs tâches⁵.

【註】 1. aimer (愛する、好む) の直説法現在。 2. 非常に、夢中になつて。 3. négliger (怠る、顧みない) の直説法現在。 4. 屢。 5. 業務、課業。

〔譯〕 遊びを非常に好む子供は屡々自分の課業を怠る。

【類例】 Je voudrais partir immédiatement. 私は直ぐ出發したい。

100. Le riz, qui¹ était² autrefois bon marché³, coûte⁴ maintenant cher⁵. *appartient aussi aux*

【註】1. 關係代名詞。2. être の直説法半過去。3. 安價。4. coûter (値する)の直説法現在 5. 高く。(元來形容詞であるが副詞に轉用されてゐる)

〔譯〕米は昔は安かつたが、今は高くなつた。

【類例】chanter juste	正しく歌ふ
parler haut	高聲に話す
marcher droit	真直ぐ歩く
refuser net	きつぱり断る
sentir bon	よく香る
voir clair	はつきり見る

101. Nous oublions¹ difficilement² ce que³ nous avons bien su⁴.

【註】1. oublier (忘れる)の直説法現在。2. 辛うじて。3. 所のことを。4. savoir (知る)の過去分詞で、avons su は複合過去。

〔譯〕吾々はよく知つたことは、忘れかねる。

【類例】Je crois avoir bien réussi à l'examen. 私は試験に、たしかに及第したと思ふ。(réussir 成功する、avoir réussi 不定法の過去)

【注意】hier (昨日)、aujourd' hui (今日)、demain (明日)、tôt (早く)、tard (遅く)、ici (こゝに)、là (あそこに) 等は決して助動詞と過去分詞の間にはない。bien よく、上手に、立派に、十分にしつかり、甚だ、概ね、確かに、丁度、是非。

102. Epuisé¹ par la marche, un mendiant s'endormit² au bord³ du chemin; tout⁴ en dormant, la nuit était⁵ venue⁶.

【註】1. épuiser (汲み盡す、疲労させる)の過去分詞で、mendiant (乞食)にかかる。2. s'endormir (寝込む)の單純過去。3. au bord de の傍に。4. tout は此場合は en dormant (dormir 「眠る」の現在分詞)に關係する副詞で、二つの動作の併立を示す。即「ながら」「絶へず」「つゝ」若くは「間に」を意味する。此文では pendant qu'il dormait

(彼が眠つてゐた間に) の意である。5. être の直説法半過去、6. venir (来る)の過去分詞で、était venue は直説法大過去。

〔譯〕歩み疲れた一人の乞食は路傍に、寝込んだが、寝入つてゐる間に、夜になつてしまつた。

103. En séjournant¹ longtemps² dans un pays, on en³ apprend⁴ forcément⁵ la langue.

【註】1. séjourner (滞留する)の現在分詞。2. 久しう。3. 其の(pays の代名詞)。4. apprendre (学ぶ、知る)の直説法現在。5. 強いて、止むを得ず。

〔譯〕或る國に永く滞在すれば、どうしても其國の言葉を知る。

【類例】Ce marchand, économisant beaucoup, pourra devenir riche. あの商人は非常に節約するから金持になるだらう。

104. Assurément¹ vous avez tort².

【註】1. 確かに、斷然。2. avoir tort わるい、不正である、間違つてゐる。

〔譯〕確かに君が悪い。

【注意】文頭に副詞がある時には、特に其副詞の意義が其文に重きをなす。

【類例】Hier, j'ai rencontré un ami que je n'avais pas vu depuis plus de cinq ans.

私は五年あまり前から會はなかつた友人に會つた。

疑問の意義をもつ副詞は通常文頭に置かれる。

combien	いか程	où	どこに
quand	何時	comment	いかに

[B] 形容詞及副詞を限定するもの

副詞の位置 形容詞及副詞の直前。(105, 106)

105. Des savants ont trouvé¹, en étudiant² la lumière, qu'³ elle est composée⁴ de sept espèces de rayons différemment colorées⁵.

【註】 1. trouver (見出す、發見する)の過去分詞で、ont trouvé は複合過去。2. étudier (研究する)の現在分詞。3. 接續詞。4. composer (組立てる、組織する)の過去分詞で、est composé は受動詞の直説法現在。5. 別々に。6. 色のある。

〔譯〕 多くの學者は、光を研究して、光は別々の色の七種の光線からなつてゐることを發見した。

【類例】 Cette personne est toute surprise.

あの人は非常に驚いてゐる。

On trouva une femme tout en pleurs.

人は泣き崩れてゐた婦人を見出した。

106. L'orgueil¹ et la sottise marchent² ordinairement³ ensemble⁴.

【註】 1. 傲慢、自尊。2. marcher (進む)の直説法現在。3. 通常。4. 一緒に。

〔譯〕 自尊と馬鹿とは、通常、連れ立ててゐる。

【類例】 Cette rivière coule tout doucement.

此川は、ごく静かに流れる。

[C] 名詞を限定するもの

數量の副詞であつて、前置詞 de と共に名詞の前にある。
(107)

107. Beaucoup¹ de navigateurs rencontrent² souvent dans les mers polaires des bancs³ de glaces flottantes⁴ qui s'élèvent⁵ de 30 à 60 mètres au-dessus⁶ de la surface de l'océan.

【註】 1. 多くの。2. rencontrer (出會ふ)の直説法現在。3. 腹掛、

洲、礁、4. les glaces flottantes 浮氷。5. s'élever (高まる、立つ)の直説法現在。6. au-dessus de の上に。

〔譯〕 多くの航海者は、屢々、極海に於て洋上三十乃至六十米の高さの浮氷洲に出會ふ。

【類例】 assez de....	かなりの、充分の
bien des....	多くの
trop de....	餘り多くの
plus de....	より多く
moins de....	より少なく
peu de....	あまりない
combien de....	何程の

【注意】 此場合には前から譯した方がよい。

II. 副詞句

- a. 職分 通常動詞を限定する。
- b. 位置 動詞の後、文頭、助動詞と過去分詞との間。(108)
- c. 注意 其一團が副詞句であることを速かに發見することが必要である。

108. La tête et le cou¹ du paon² se renversent³ en arrière⁴ avec grâce⁵ et avec noblesse⁶.

【註】 1. 頭。2. 孔雀(パンと發音する)。3. se renverser (倒れる)の直説法現在。4. 後方に。5. la grâce 恩恵、優美 avec grâce=gracieusement. 6. 貴族、上品 avec noblesse=noblement.

〔譯〕 孔雀の頭と頸は優しく上品に仰向く。

【類例】 La victoire fut à peine arrachée à l'ennemi.
辛うじて勝利が得られた。

Tout d'un coup la maison s'est écroulée.
一舉に家が崩壊した。

前置詞と名詞

sans peine	難なく	en retard	遅れて
par hasard	偶然に	à mort	ひどく

冠詞と語

le premier	第一に	le plus	最も
le lendemain	翌日(モルヘン)	un peu	少し

語と前置詞と語

petit à petit	少しづゝ	tout à fait	全く
tôt ou tard	早かれ遅かれ	tout d'un coup	一擧に

其 他

point du tout	少しも	nulle part	どこにも
depuis peu	少し前から		
à vrai dire	ほんとを云へば	(239)	

✓ (6) 前 置 詞 語 句

前置詞は名詞或は代名詞と他の語句との間の關係を表はす語で、時々誤譯や譯解不可能の原因を醸すものである。文中に前置詞があつた時には、速かに其前置詞の關係所屬を明かにするを要する。一般に云へば、前置詞は或る場合には其固有の意義を表はし、或る場合には他の語が習慣的に其前置詞を要求して前置詞固有の意義を全く表はさないことがある。前置詞には數語からなるものもある。

I) à

109. le bateau à vapeur	蒸氣船
le séjour à Paris	巴里滯在
le plaisir à obéir	服従の樂しみ

la boisson nuisible à la santé	健康に害ある飲料
conformément à ce que vous dites	君が云ふことに従つて
aller à l'exposition	博覽會に行く
inviter à dîner	夕食に招く
à mon avis	私の意見では
à son arrivée	彼の到着に際して
à partir de ce jour	其日以來
Au feu!	火事だ
avoir à + 不定法すべきである
de Paris à Lyon	巴里より「リオン」に至る
à vrai dire	ほんとを云へば

【類例】 (235—241, 300)

II. de

110. le corps d' armée	軍團
la montre de mon père	私の父の懷中時計
des souliers de chasse	獵用の靴
une table de marbre	大理石製の机
une tasse de lait	一杯の牛乳
la ville de Berlin	伯林市
Madame de Sévigné (貴族の姓の前に)人名	
la manière de voir	見解
de bons livres	數冊のよい本
de colère	怒つて
travailler de jour.	晝間働く
de la tragédie (表題)	悲劇に就いて
l'homme digne de estime	尊敬に値する人
parler de cela	其の事を話す

changer d'habit
s'emparer de la ville
cesser de tire
être loin de la partie
être aimé de tout le monde

【類例】 (235—241, 300)

衣服を換へる
都を占領する
笑ひやむ
祖國より遠くにある
皆から愛せられる

prendre pour le mort
pour toujours
fixer pour le 1^{er}
un contrat pour 5 ans
être petit pour son âge

死人と見做す
永久に
一日にすることに定める
五年の契約
年のわりに小さい

III. en

111. aller en France
finir en deux ans
être en plein champ
être en bonne santé
traiter en enfant
les yeux baissés en terre
diviser en deux
la comédie en cinq actes
maison en bois
lire en mangeant
mettre en vente
marcher en avant

【類例】 (235—241)

佛國に行く
二年かゝつて終へる
畑の最中にある
健康である
子供として扱ふ
眼を地に向けて
二分する
五幕の喜劇
木造家屋
食べながら讀書する
販賣する
前進する

113. monter sur le cheval
une maison sur le bord de la mer
se diriger sur la ville
avoir trois maladies coup sur coup
sur le minuit
une plaine de six milles de long sur deux de large
être sur la défensive
commentaires sur Platon
faire sur votre parole
sur mon honneur
être sur le départ
revenir sur ses pas
- 馬に乗る
海濱のほとりの家
町の方へ行く
續け様に三つの病氣をもつ
夜半頃
幅二哩に對し長さ六哩の平原
守勢にある
「プラトン」に関する評論
貴方の言に基づいてする
私の名譽にかけて
出發せんとしてゐる
引き返へす

IV. pour

112. être nécessaire pour
l'amour pour les parents
partir pour la Belgique
dix pour cent
un colis postal pour vous

研究の爲に必要である
兩親に對する愛
白耳義に向つて出發する
百に對する十
君に宛てた小包郵便

114. sous la table
un cheval sous poil noir
mettre une lettre sous enveloppe
sous la protection de
sous le règne de Louis XIV
- 机の下に
黒毛の馬
手紙を状袋に入れる
の保護のもとに
「ルイ」十四世の治世に

sous peu
sous le nom de

近々
の名義で

VII. avec

115. se promener **avec** X. Xと共に散歩する
marcher **avec** son fusil 彼の銃をもつて歩く
avec courage 勇ましく
attacher **avec** des chaînes 鎖で結付ける
être en paix **avec** les autres 他人と仲がよくある
se coucher **avec** le soleil 太陽と一緒に寝る

VIII. dans

116. vivre **dans** Paris 巴里で生活する
dans ce livre 此本の中に
vieillir **dans** la misère 窮困裡に年寄る
être **dans** la joie 喜んでゐる
dans l'intention de..... する積りで
Dans quel but.....? どんな目的で
dans une heure 一時間後

IX. par

117. aller en France **par** l'Amérique 「アメリカ」を経て佛國に行く
se promener **par** les rues 町々の中を散歩する
par la maladie 病氣に依つて
voyager **par** le bateau 船で旅行する
deux fois **par** semaine 一週に二回
page **par** page 一頁毎に

X. voici, voilà

118. Voici¹ arrivé² l'été qui³ nous⁴ verse⁵ des pluies torrentielles⁶.

【註】 1. こゝにある(前置詞)。 2. arriver(到着する)の過去分詞。
3. 關係代名詞。 4. 我々に。 5. verser(注ぐ)の直説法現在。 6. torrentiel(急流の如き)の女性形。

〔譯〕 盆を覆へす如き雨を注ぐ夏に今なつた。

【類例】 Voici venir l'hiver. もう冬になる。

Voici votre canif. こゝに君の小刀がある。

La voilà qui vient. 其の女は今あそこへ来ます。

Voilà qu'il pleut. 雨が降りだした。

Me voici arrivé. 今私は着いた。

Voilà pourquoi j'ai fait cela.

私がそれをした譯はそれです。

Le chapeau que voilà est chic.

あそこにある帽子は「ハイカラ」だ。

Puisque vous voilà de retour d'Egypte, montrez-moi la momie que vous en avez rapportée.

貴君は埃及から歸つたのだから、そこから持ち歸つた木乃伊を私に見せて下さい。

(7) 否定語句

a. 種類 動詞の意義の否定。(119—124)

語句の意義の否定。(125—128)

文の意義の否定。(129—132)

b. 注意 否定と否定と重複する時には肯定となる。(180—182)

I. 動詞の意義の否定

a. 形

1. 否定の副詞前置詞。ne.....pas, ne.....jamais, sans 等。
ne のみのことがある。(虚辭の ne と混同してはいけない) (119—123)
2. 否定の意義をもつ動詞。(124)

b. 否定の副詞の位置

1. 動詞の不定法 其直前。(119)
2. 動詞 {
 單純時 動詞をはさむ。(119)
 複合時 助動詞をはさむ。(119 註)
3. jamais は文頭にあることがある。(121)

119. Ne jugeons¹ pas sur les apparences² pour ne pas nous tromper³.

【註】 1. juger (判断する)の命令法。2. 外見、様子。3. se tromper 間違ふ。(jugeons が複数一人稱であるから se が nous となつてゐる)(過去の形は pour ne nous être pas trompés).

【譯】 間違はない爲に、外見で判断するのはやめませう。

【類例】 ne....point

決して....ない

ne....jamais

決して、未だ曾て....ない

ne....guère

殆んど....ない

ne....rien

何も....ない

ne... personne

何人も....ない

ne....plus

もはや....ない

ne....que

のみ、ばかり

ne....ni....ni

....も、....も、....ない

(mot, goutte, mie 等の語が pas, point の代りに用ひられることもある。)

120. L'amour-propre devient¹ dangereux, quand² on n' a³ su⁴ le maîtriser⁵.

【註】 1. devenir (なる)の直説法現在。2. 時に、いつ。3. avoir (もつ)の直説法現在。4. savoir (知る、できる)の過去分詞で、a su は複合過去。savoir が「できる」の意義をもつ時は pas が省かれる。5. 制御する、打勝つ。

【譯】 自愛心は此れを制することができない時には危険になる。

【類例】 N' ayant pu apprendre cette nouvelle, je lui ai demandé ce qui s'était passé.

其消息を知り得なかつたので、私は起つた事を彼に聞いた。

121. Jamais¹ je n' ai² vu³ d'entêtement pareil⁴ au sien⁵.

【註】 1. jamais (決して、まだ)は意義を強める時には文頭に置かれる。2. avoir (もつ)の直説法現在。3. voir (見る)の過去分詞で、ai vu は複合過去。4. pareil à に同じ。5. le sien 彼のもの。(entêtement の代名詞)

【譯】 まだ彼のやうな頑固を見たことはない。

【注意】 jamais は ne を伴はない時は、「常て」の意義をもつ。
J' ai jamais été à Paris. 私は常てパリにゐました。

122. Le pain d'autrefois¹ n' était² ri³ aussi beau, ni aussi bon que⁴ celui⁵ que⁶ l'on fait⁷ aujourd' hui⁸.

【註】 1. 昔、(副詞から名詞に轉用されてゐる)。2. être の直説法半過去。3. ne....ni....niも....も....ない。4. aussi....que の様に、程。5. もの。(pain を指示してゐる) 6. 關係代名詞。7. faire (爲す、作る)の直説法現在。8. 本日、現今。

【譯】 昔のパンは、現今人が作るもの程美しくも、よくもなかつた。

【注意】 ne....ni....ni と ni が澤山續く時は、最後の ni は sans か pas で置き代へされることがある。

123. Je ne possède¹ de² maison que³ celle⁴ que⁵ j' habite.⁶

【註】 1. posséder (保有する)の直説法現在。2. 動詞が否定である爲、une ne de となつてゐる。3. 接續詞で je ne possède d'autre maison que の意。4. celui (もの)の女性形で、maison を指示してゐる。5. 關係代名詞。6. habiter (住む)の直説法現在。

〔譯〕 私は住んでゐる家のみをもつてゐる。

【類例】 Les enfants ne doivent boire de vin que fortement mêlé d'eau. (ne....que=seulement 單に)

子供は非常に水を混ぜた葡萄酒ならでは飲んでいけない。

Vous n' avez qu' à recommencer.

貴方はやり直しさへすればよい。

124. Le blé est¹ connu² depuis³ si longtemps que⁴ l⁵ on ignore⁶ l'époque où⁷ l'homme a⁸ commencé⁹ à en¹⁰ faire¹¹ sa nourriture.

【註】 1. être (ある)の直説法現在。2. connaître (識る)の過去分詞で、est connu は受動詞の現在。3. 以來。4. si....que 程。5. 音調上挿入された語で意義はない。6. ignorer (知らない)の直説法現在。7. 副詞より轉化した關係代名詞。8. avoir (もつ)の直説法現在。9. commencer (始める)の過去分詞で、a commencé は複合過去。10. 其れで。(pain を指示してゐる) 11. 為す、作る。

〔譯〕 麦は人が其れで食料を作り始めた時代を知らない程、久しい前から識られてゐた。

【類例】 Il n' ignore de rien. 彼は何でも知らないことはない。

II. 語句及文の意義の否定

形 否定の意義をもつ形容詞 (125), 代名詞 (126), 副詞 (127, 131), 前置詞 (128), 接續詞 (129, 130).

125. Nulle¹ loi n'est bonne² si³ elle ne repose⁴ sur les lois de la nature.

【註】 1. nul (何れの)の女性形。2. bon (よい)の女性形。3. 若し。4. se reposer (休む、置かれる、基づく)の直説法現在。

〔譯〕 どんな法律も、自然の法則に基づかなければよくない。

【類例】 Il n' y a aucun règlement pour y entrer.

其處へ入る爲には何の規則もない。

【注意】 此等の否定の形容詞は、必ず ne を伴ふ。

126. Rien¹ n' est² plus imposant qu'³ l'aspect de l'océan vu⁴ du haut d'une côte⁵ élevée⁶.

【註】 1. 何も(代名詞)。2. être (ある)の直説法現在。3. plus.. ..que より一層。4. voir (見る)の過去分詞。5. 肋骨、山腹、海岸。6. 高い。

〔譯〕 高い山腹の上から見た大洋の光景より壯嚴なものは何もない。

【類例】 aucun (aucune)=nul (nulle) 誰れも、いづれも。
personne 誰れも。pas un (pas une) 一人も、一つも。

【注意】 此等の否定の代名詞は、必ず ne を伴ふ。

127. En France, dans les rues¹ les voitures² tiennent³ leur⁴ droite⁵ et non⁶ leur gauche.

【註】 1. 街路、町。2. 車輌。3. tenir (持つ、支へる、行く)。4. 彼等の(街路を表示す)。5. 右方。6. 否定の副詞。

〔譯〕 佛國では、街路で車輌は左側でなく、右側を通る。

【類例】 non seulement	のみならず
non loin de cette école	此學校から程遠くない
Pas de réponse.	返事がない。
pas encore	まだ
moins grand	小さい

peu capable

Ni moi non plus.

sinon dense au moins nombreux

適してゐない

私も矢張り。(否定の意)

濃密でないけれども數多い

128. Ce malheureux¹ a² passé³ deux jours sans⁴ le mange⁵.

【註】 1. 不幸者(形容詞から名詞に轉用された語)。2. avoir (もつ)の直説法現在。3. passer (通る、過ごす)の過去分詞で、a passé は複合過去。4. なく、なしに、なくとも、のない、なしには(前置詞)。5. 食物

〔譯〕 あの不幸者は、食物なく、二日を過ごした。

【類例】 **excepté** les femmes

婦人を除いて

outre cela

其れを除いて、其の外に

sauf sa maison

彼の家を除いて

129. Si¹ vous êtes² sûr³ de réussir⁴, agissez,⁵ sinon⁶ restez⁷ tranquille⁸.

【註】 1. 若し。2. être (ある)の直説法現在。3. 確かな。4. 成功する。5. agir (行ふ)の命令法複数二人称。6. 然らざれば(接續詞)。7. rester (残る、居る)の命令法複数二人称。8. 静かな。

〔譯〕 若し貴方が確かに成功するなら、實行しなさい。さもなければ、構はずにゐなさい。

【類例】 mais=cependant=toutefois=pourtant=néanmoins 然し。

130. Je ne sors¹ pas à moins qu'² il³ ne⁴ fasse⁵ beau. *近づく*

【註】 1. sortir (出る、出だす)の直説法現在。2. à moins que....にあらざれば。此接續詞の後に来る動詞は、常に接續法である。3. 形式上の主語で意味がない。4. 虚辭。5. faire (爲す)の接續法現在で、非人稱動詞として用あられ、faire beau ば「天氣がよい」の意。

〔譯〕 天氣がよくなれば、私は出ない。

【類例】 Sans que vous étudiiez votre leçon,

貴君は課業を勉強せずに....。

excepté que... =sauf que... =outre que... を除いて

Non que (=non pas que) Jean soit sot, 「ザヤン」は馬鹿ではないが、

【注意】 à moins que 及び sans que の後に来る動詞は接續法である。

131. A-t-il dit¹ son opinion sur² cette affaire? Non³.

【註】 1. avoir (もつ)の直説法現在。2. dire (云ふ)の過去分詞で、a dit は複合過去。3. 上に、に就て。4. 否。

〔譯〕 彼は其事件に就て意見を云ひましたか。否。

【類例】 Mais non. いゝえ決して (non より意義が強い)。

Non, jamais. いゝえ決して。 Non, rien. いゝえ何も。 Personne. 誰も。 Rien 何も。

132. Troublée¹ par les guerres et les révoltes, l' Espagne est loin² d' avoir fait³ faire à la civilisation autant⁴ de progrès que les autres pays d'Europe.

【註】 1. troubler (妨害する、渾す)の過去分詞の女性形。2. loin deどころではない。3. faire (なす)の過去分詞で、avoir fait faire は爲さしめた。4. autant....que程の。

〔譯〕 西班牙は戦争と革命で妨害せられたので、歐洲の他の諸國程の進歩を文明に爲さしめるどころではなかつた。

【類例】 L'adversité, loin qu' elle soit un mal, est souvent un remède et le contre-poison de la prospérité.

禍患は不幸なことである所ではなく、屢繁榮の薬でもあり又解毒剤もある。

(8) 尊 敬 語 句

判 别 法

a. 尊敬、丁寧の意義をもつ語句がある。(133, 134)

b. 命令法及現在の代りに、未來が用ひられてある。(135)

c. 設問文に pouvoir (能ふ)、vouloir (欲する)などの條件法が用ひてある。(136)

133. S. M.¹ le Roi d'Angleterre, qui est² dans un excellent état de santé³, n'a⁴ fait⁵ cet été aucun projet de villégiature⁶ sur le continent⁷.

【註】 1. Sa Majesté (複数は Leurs Majestés) 陛下。 2. être (ある)の直説法現在。 3. l'état de santé 健康状態。 4. avoir (もつ)の直説法現在。 5. faire (爲す)の過去分詞で、a fait は複合過去。 6. 田舎逗留。 7. 大陸。

〔譯〕 御健康に亘らせられる英國皇帝陛下には、本夏は、大陸に於ける御逗留計畫を實施されなかつた。

【類例】 S. A. le Prince (Son Altesse). 皇族殿下。
Monsieur votre père. あなたの父君。

【注意】 時としては、君主、皇族に對して敬稱語句が附けてないこともあるが、譯する時には適宜敬稱を附けたがよい。

134. Soyez¹ assez bon² pour me dire³ ce que⁴ vous pensez⁵ faire⁶ à cette circonstance.

【註】 1. être の命令法複數二人稱。 2. Soyez assez bon どうぞ。 3. 云ふ。 4. ce que 所のことな。 5. penser (考へる、思ふ)の直説法現在。 6. 爲す。

〔譯〕 此場合に際して、貴方が爲さうと考へてゐられ事を私に、どうぞ申して下さい。

【類例】 Ayez la complaisance de +動詞....どうぞ。
Veuillez me prêterを私にどうぞ貸して下さい。(Vouloir [欲する] の命令法複數二人稱)
J'ai l'honneur de +動詞....光榮に存じます。

135. Vous direz¹ à votre père que² j' ai un paquet³ à lui⁴ remettre⁵ de la part de⁶ M. X.

【註】 1. dire (云ふ) の單純未來。 2. 接續詞。 3. 包。 4. 彼に (père を指示す)。 5. 元の所に置く、渡す、延期する。 6. de la part de.... から、の方から。

〔譯〕 X 氏から、御親父に御渡すべき包物を私が持つてゐることを、どうぞ御親父に申して下さい。

【類例】 Je vous dirai que vous avez tort.

貴方が悪いのでせう。(丁寧に云ふ爲に直説法現在の代りに未來が用ひられてある)

【注意】 單純未來を丁寧な命令の意義に譯するのは、前後の關係で判別するがよい。

136. Voudriez¹ vous, Monsieur, me dire² l'heure qu'³ il⁴ est⁵?

【註】 1. vouloir (欲) するの條件法現在。 2. 云ふ。 3. 關係代名詞。 4. 形式上の主語で意義をもたない。 5. être (ある) の直説法現在。 Il est trois heures. 三時だ。

〔譯〕 あなた、何時ですかどうぞ云ふて下さい。

【注意】 Vouloir (欲する)、pouvoir (能ふ) の條件法現在が此種の設問文にある時には殆んど敬語と見做してよい。又直説法現在でも場合により敬語となる。

(9) 命令語句

判別法

- a. 動詞の命令法。(137)
- b. 直説法現在、未來或は條件法現在。(138, 139, 135, 136)
- c. 命令の意義ある動詞。(139)
- d. 特種の形をもつ語句。(140, 141)

137. Ne dites¹ pas tout ce que² vous faites³, mais faites⁴ tout ce que vous dites⁵.

【註】 1. dire (云ふ) の命令法複數二人稱。 2. tout ce que 所のものを皆。 3. faire (爲す) の直説法現在。 4. faire の命令法複數二人稱。 5. dire の直説法現在。

〔譯〕 貴方がした總ての事を云ふてはいけません。然し云ふた事は總てしなさい。

【類例】 Ayez terminé ce travail, quand nous reviendrons.

吾々が歸つて来る時には、其仕事を了へてゐて下さい。

【注意】 動詞の命令法で條件を示すこともある。(229)

138. Voulez-vous bien vous taire!^{bien}

【註】 1. vouloir (欲する) の直説法現在で、vouloir bienして下さる。 2. se taire (黙する)。主語が複數二人稱であるから、vous taire となつてある。

〔譯〕 どうぞ黙つて下さい。

139. Quand¹ vous vous levez² le matin³, vous devrez⁴ commencer⁵ par prendre⁶ de bonnes résolutions pour⁷ l'emploi de la journée.

【註】 1. 時に。 2. se lever (起きる) の直説法現在。 3. 朝。 4. devoir (ねばならぬ) の直説法現在。 5. commencer par.... 先づ....から始める。 6. 取る。 7. 為に、對し。

〔譯〕 貴方が朝起きる時には、先づ其日の使用につき、よい決心を取らなければならぬ。

【類例】 commander=ordonner=prescrire 命する。 falloir 要する。

140. Silence!

【註】 名詞から感歎詞に轉用された語である。

〔譯〕 静かに。

【類例】 Chut! 静かに。 Pst! 静かに。
Gare! 気をつけよ。 Attention! 気をつけよ。
Courage! しつかり。

(il faut)

141. Qu'il en toutes circonstances votre conduite soit franche et noble.

【註】 1. 接續詞。 2. 於て(前置詞)。 3. 品行。 4. être (ある)の接續法現在。従つて接續詞 que の前には、接續法を要求するやうな語句(こゝでは il faut)が省かれると見做すことができる。 5. franc (率直な)の女性形

〔譯〕 何れの場合でも、貴方の行ひは率直高尚であれよ。

(10) 設問語句

判別法 文の末尾に必ず ? がある。

- a. 主語と動詞が轉置してある。(142)
- b. 主語と動詞が轉置していないこともある。(143)
- c. Est-ce que なる句を冒頭にもつ。(144)
- d. 設問的形容詞、代名詞及副詞を冒頭にもつ。(145)
- e. N'est-ce pas なる語句を伴ふ。(146)

142. Faut-il beaucoup de temps pour arriver à comprendre la conversation en français?

【註】 1. falloir (ねばならぬ、要する) の直説法現在。 2. 到着する。 arriver à + 不定法、やうになる。

〔譯〕 佛蘭西語の會話を解るやうになるには長時日かかりますか。

【類例】 Votre oncle est-il parti pour sa destination?

貴君の伯父は任地に出發しましたか。(主語が名詞の時には、其「性」と「數」に一致してゐる三人稱の人稱代名詞を動詞の後に伴ふ)

143. Vous avez¹ faim², Monsieur?

【註】 1. avoir の直説法現在。 2. la faim 飢。

〔譯〕 貴方は空腹ですか。

【注意】 此形はよく会話に用ひられる。

144. Est-ce que¹ les cerisiers sont² en pleine³ fleuraison?

【註】 1. Est-ce que 設問句。 2. être (ある) の直説法現在。 3. plein (満ちた) の女性形。

〔譯〕 櫻は満開ですか。

【類例】 Qui est-ce qui a fait cela? 其れをしたのは誰か。

Qui est-ce que vous avez vu? 貴方が會ったのは誰か。

Qu'est-ce qui est arrivé? 何が起つたか。(Qu' は que)

Qu'est-ce que Dieu? 神とは何なりや。

Qu'est-ce que vous avez vu? 貴方が見たのは何ですか。

Qu'est-ce que c'est que ça? 其れは何か。(=Qu'est-ce que c'est? = Qu'est-ce?)

【注意】 類例に示してある形は、日常の会話によく用ひられる。

145. A quelle¹ heure êtes²-vous parti³ de chez vous⁴ pour⁵ venir ici⁶?

【註】 1. 設問形容詞 quel (何の、如何なる) の女性形。 2. être (ある) の直説法現在。 3. partir (出發する) の過去分詞で être parti は複合過去。 4. de chez vous 貴宅から。 5. 爰に。 6. こゝに。

〔譯〕 此處に來るのに、貴方はお宅から何時に出ましたか。

【類例】 設問代名詞

Qui 誰が、誰で、誰を。

A qui 誰に。(其他の前置詞を伴ひ得)

Que 何か、何を、どう。

Quoi 何。(動詞の要求する前置詞を前に伴ふ)

Lequel 何れが、何れを。(前置詞を伴ひ得)

設問副詞

Où	何處に。	D'où	何處から。
Combien	いくら。	Comment	いかに。
Comme	いか程,	Que	いか程。
Quand	いつ。	Pourquoi	何故に。

146. Vous avez¹ oublié² votre livre, n'est-ce pas³?

【註】 1. avoir (もつ) の直説法現在。 2. oublier (忘れる) の過去分詞で、avez oublié は複合過去。 3. n'est-ce pas? そうではありますか。反語の意義をもつことが多い。

〔譯〕 君は本を忘れはしませんか。

【類例】 Vous m'accompagnerez, n'est-ce pas.... si cela ne vous ennuie pas trop?

もしそれが御迷惑でなければ、どうぞ貴方は私と一緒に行つて下さいませんか。

(11) 感嘆語句

判別法

a. 感嘆詞若くは感嘆文の後に ! がある。

b. 感嘆詞のみのことがある。(147)

c. 感嘆文。(感嘆詞を伴ひ或は伴はない)(143—150)

注意 同一の感嘆詞でも場合により、異なる意義をもつ故、前後の關係から判断して正しく直感すべきである。

感嘆文では、屢々省略及轉位が行はれてゐる。

I. 感嘆詞

147. Hé! Mon Dieu!

〔譯〕 あゝ、神よ。

【類例】 Courage! しつかりやれ。 Malheur! 不幸なことだ。
Au feu! 火事だ。

II. 感嘆文

- a. 感嘆詞を伴ふ。(148)
- b. 感嘆詞を伴はないで、副詞或は形容詞を伴ふ。(149)
- c. 感嘆詞も副詞も伴はない。(150)

148. Hé quoi! vous n'êtes¹ pas encore parti²!

【註】1. être (ある)の直説法現在。2. partir (出發する)の過去分詞で、êtes parti は複合過去。

〔譯〕おや、なんです、あなたまだ出發しないの！

【類例】Hé! je ne dis pas non. や、私は否と云はない。

149. Après que¹ les voyageurs ont² cheminé³ cinq ou six jours au milieu⁴ des sables du désert africain, comme⁵ ils sont⁶ heureux de rencontrer un oasis!

【註】1. après queの後で。2. avoir (もつ) の直説法現在。3. cheminer (歩む)の過去分詞で、ont cheminé は複合過去。4. au milieu de の中で。5. être (ある)の直説法現在。

〔譯〕旅行者がアフリカの沙漠の砂の中を五六日歩いた後、泉林に遭遇するのは、なんと仕合のことよ。

【類例】副詞 Que (何んと) Combien (いかに) 形容詞 Quel (何んと)などを用ひる。

Que je suis aise de vous voir!

私は貴方に會つてうれしい。

Quel malheur! 何んと云ふ不幸だらう。

Quelles vilaines gens que les calomniateurs!

誹謗者は何んといやらしい者であるよ。

150. Quel la guerre nous² soit³ épargnée!

【註】1. 接續詞で、其前にあるべき希望を示す動詞と主語が省かれて

Rémonter

ある。2. 吾々に、吾々から。3. être (ある)の接續法現在。4. épargner (貯蓄する、取除く) の過去分詞で、soit épargnée は受動詞の接續法現在。

〔譯〕戦争は吾々から取除けられたいものだな。

【類例】Puissiez-vous réussir! 御成功を祈りますよ。(puissiez は pouvoir の接續法現在で、Je désire que vous puissiezの意)

Vive le Japon! 日本萬歳。

Nous y voilà! 問題はそこですよ。

C'en est trop! それはあんまりですよ。

Heureux celui qui peut dire: j'ai bien rempli ma journée!

「一日の仕事をよく果した」と云ひ得るものに幸であるよ。

Bête que je suis! 自分は何んと馬鹿なこと。

(12) 反語句

a. 諷刺したり、皮肉の言ひ方では、語が全く反対の意義をもつことがある。(151)

b. 文全體が其裏の意義を主とすることがある。(152—154)

判別法

a. 前後の意義上の關係より直感的に判断する。

b. (?)があつて其答へがない時、並に n'est-ce pas (146) 或は (!)がある時には、属反語になつてゐる。

151. Ce rusé homme s'est¹ pris² à son propre³ piège.⁴ c'est bien⁵ fait!⁶

【註】1. être (ある)の直説法現在。2. prendre (取る)の過去分詞で、s'est pris は se prendre (捕はれる、ひつかゝる) の複合過去。3.

名詞の前にある時は「自分の」「本當の」。名詞の後にある時は「清潔な」「適當な」。4. わな、計略。5. よく。6. なされた。「うまくやつた」は「當然だ」「さもあるべきこと」の反語。

〔譯〕あの狡猾な男は自分の計略にひつかつた。さもあるべきことだ。

○【類例】*Vous comptez employer ma bicyclette? — Bien obligé.*
あなたは私の自転車をお使いになる積りですか。使ひませんよ。

(*Bien obligé* は *Je suis bien obligé* を畧した形で、「どうも有難う」の意である。こゝでは *Non, merci* と同じ意義を示してゐる。*brave, beau* などは屬、反語の意義をもつ。

152. *Y a-t-il¹ un morte² qui³ puisse⁴ dire qu⁵ il soit⁶ toujours heureux?* *bonnement*

【註】1. *il y a* (ある)の設問形。2. 人間。3. 關係代名詞。4. pouvoir (能ふ)の接續法現在。5. 接續詞。6. être (ある)の接續法現在。

〔譯〕常に幸福であると云ひ得る人間はあらうか、ない。

153. *Qui¹ doute² de cette vérité que³ la ligne droite⁴ est⁵ le plus⁶ court chemin d'⁷ un point à un autre?*

【類例】1. 誰が(設問代名詞)。2. douter (疑ふ)の直説法現在。名詞を從へる時には、前置詞 *de* を伴ふ。3. 接續詞。4. droit (眞直の、右の)の女性形。5. être (ある)の直説法現在。6. le plus 最も。7. *de... à* より... 迄。

〔譯〕一點から他點に至る最短の道は直線であると云ふ真理を誰が疑うか。きまりきつた事である。

【類例】*Qui voudra dire que la bouche n'est pas mise à la place la plus convenable pour transmettre la nourriture à l'estomac?*

口は食物を胃に轉送する爲に最も適當な場所には置かれてないと誰が云ふでせう、適當に置かれてゐる。

154. *Que¹ d'années ont² dû³ s'⁴ écoulé⁵ avant que⁶ les vaisseaux fussent⁶ munis⁷ de gouvernails!*

【註】1. いくらの(副詞)。2. avoir (もつ)の直説法現在。3. devoir (要する)の過去分詞で *ont dû* は複合過去。4. 経過する。5. avant que の以前に。6. être (ある)の接續法半過去。7. munir (備へる)の過去分詞の複数形で、*fussent munis* は受動詞の接續法半過去。

〔譯〕船舶が舵を備へつける前にはいくらの年數が経過したことよ。定めし多くの年數が経過しただらう。

【類例】*Que de gens n' a-t-on pas vus devenir pauvres pour avoir voulu être trop tôt riches!*

いか程の人々が、餘りに早く富者にならうと思つた爲、却つて貧者になるのを、世人は見なかつただらうか。皆見て知つてゐる。

(13) 呼稱語句

判別法

- a. 呼稱語は冠詞をもたない。
- b. 文の頭部、中部及終末にあることがある。常に (,) 或は (!) を以て、文の他の部と離隔してゐる。(155—157)
- c. 呼稱語句と文中にある動詞とは人稱が異なる。
- d. 他に主語がある。

155. *Soldats, vous avez¹ en quinze jours remporté six victoires, pris vingt et un drapeaux, cinquante-cinq pièces² de canon, plusieurs places³ fortes,*

【註】1. avoir (もつ)の直説法現在で、*remporté* (*remporter* 持ち去る、博する)、*pris* (*prendre* 取る、奪ふ) の助動詞となつてゐる。2. 部分、一個、室、脚本、小錢、火砲。3. 場所。place forte 要塞。

〔譯〕 將卒よ、諸子は十五日間に六回の勝利を博し二十一旗の軍旗五十五門の火砲多數の要塞を奪へり……。

【類例】 O mon ami! Pourquoi me parlez-vous ainsi?
おう君、なぜ私に其んなに話すのか。

156. Remerciez¹ la bonté divine², mon cher ami, qui³ vous⁴ a⁵ retiré⁶ si⁷ vite de la misère.

【註】 1. remercier (感謝する)の命令法複数二人稱。2. divin (神の)の女性形。3. qui は la bonté にかかる。4. あなたを。5. avoir (もつ)の直説法現在。6. retirer (再び引く、救出す)。7. 斯くも。

〔譯〕 親しい君よ、斯くも早く貧困から君を救ひ出した神の慈悲を感謝しなさい。*écartez*

【類例】 Ne vous écartez jamais, mes enfants, du sentier de la vertu. 我が子よ、徳の道より決して遠ざかるな。

157. Ah! Qu'¹ il² est difficile d'être heureux, mon ami!

【註】 1. que 何んと。2. 形式上の主語。3. être (ある)の直説法現在。

〔譯〕 鳴呼、幸福であることは何んとむづかしいことよ、君。

(14) 共 通 語 句

一つの語句が他の二つ以上の語句に直接に關聯してゐることがある。(158—62)

判別法 前後の關係特に意義上から此れを見分けるがよい。

158. Il faut¹ aux maîtres² une patience³, une activité et un dévouement⁴ constants⁵ pour obtenir⁶ des progrès⁷ de leurs élèves.

【註】 1. 非人稱動詞 falloir (要する)の直説法現在で、il は形式上の

dévouer
dévoué

主語。2. 主人、教師。3. 忍耐。4. dévouement と同じ、忠勤、熱心。5. constant (不變の、確固たる) の複數形で patience, activité 及 dévouement に關聯してゐる。6. 得る。7. 進歩。

〔譯〕 生徒を進歩させる爲には、教師には不斷の忍耐と勉勵と熱心を要する。

【類例】 On trouve au fond de la mer des animaux marins et des plantes marines extraordinaire.

海底には珍らしい海獸や海草がある。(extraordinaire は animaux と plantes に關聯してゐる)

Esope a dit que la langue est à la fois la meilleure et la pire des choses.

「エソップ」は云ふた、「舌の物の中で最もよく又最も悪いものである」と。

159. La lecture de Robinson amuse¹ et instruit² les enfants³.

【註】 1. amuser (樂ます)の直説法現在。2. instruire (教育する)の直説法現在。3. les enfants は二つの動詞の直接補語。

〔譯〕 「ロビンソン」の讀本は子供等を樂ませて又教育する。

【類例】 L'ennemi s'approcha et s'empara de la ville.

敵は市街に接近して此れを占領した。(de la ville は s'approcher にも關聯してゐる) *caisse*

J' ai appris qu' une place de caissier est ou va devenir vacante dans votre compagnie.

貴方の會社で會計係の位置が缺けてゐる若くは近く缺けると云ふことを私は知りました。(vacante は est と va devenir に關聯してゐる)

Je vous ai importuné d' une chose qui ne peut et ne doit vous intéresser en rien.

貴方に何も關係し得ない又關係すべきでない事柄で私は貴方を邪魔しました。(vous intéresser en rien は peut et doit に關聯してゐる)

sobriement

160. L'homme sage¹ boit² et mange³ avec sobriété⁴.

【註】 1. 賢い。 2. boire (飲む、飲酒する) の直説法現在。 3 manger (食べる、食事する) の直説法現在。 4. la sobriété 節食。 avec sobriété は boit と mange に關聯してゐる。

〔譯〕 賢人は節制して飲食する。

【類例】 Les exemples instruisent mieux et plus facilement que les règles.

模範は規則よりはよく且容易に教へる。(les règles は mieux と plus facilement に關聯してゐる)

161. Il y a¹ des raisons pour² et contre³ ce projet.

【註】 1. y avoir (ある) の直説法現在。 2. 為に。 3. 對して。 ce projet は pour と contre に關聯してゐる。

〔譯〕 此計畫に賛成の理由もあれば反対の理由もある。

【類例】 Avant, après et pendant la guerre, nos ennemis ont toujours été insolents.

戦争中及其前後吾々の敵は常に横暴であつた。(la guerre は avant, après 及び pendant に關聯してゐる)

162. Travaillez¹ et amusez²-vous bien quand³ on est⁴ jeune.

【註】 1. travailler (勉強する) の命令法複數二人稱。 2. s'amuser (遊ぶ) の命令法複數二人稱。 3. 時に。 quand 以下の句は上の二つの動詞に關聯してゐる。 4. être (ある) の直説法現在。

〔譯〕 若い時にはよく勉強してよく遊びなさい。

(15) 代用語句

他の語句の代用をする語は代名詞 (163—168) の外に若干の形容詞や副詞 (169, 170) がある。

I. 人稱代名詞

解釋上の注意

a. je, tu, nous, vous が男を指し示してゐるか女を指し示してゐるかは、其等の代名詞に文法的に關聯してゐる形容詞若くは過去分詞の形で見分ける。尙文中に呼びかけの人名があれば其人名から解ることもある。

b. nous, vous が一人を指し示してゐるか、數人を指し示してゐるかは前項の要領により見分ける。

nous は朕、本官、著者、當社、本會などの如き單數の意義をもつことがある。
c'est pas peu

163. Certains¹ hommes louent² la vertu, mais ils ne la³ pratiquent⁴ guère⁵.

【註】 1. certain は名詞の前にある時は、「或る、二三の」、名詞の後にある時は、「確實な」を意味す。 2. louer (賞揚する) の直説法現在。 3. la は vertu の代用。 4. pratiquer (實行する) の直説法現在。 5. ne....guère 殆んど....ない。

〔譯〕 若干の人は徳を賞讃するが、殆んど此れを實踐しない。

【類例】 le は男性名詞のみならず、形容詞的に用ひられた語句、形容詞、動詞、句をも代表する。

Si je suis en bonne santé, je le dois à la tempérance et à l'exercice.

私が健康であるのは其れは節制と運動に基づく。(le は être en bonne santé の代用)

Ils ne sont pas encore forts en français, mais ils le deviendront.

彼等は、まだ佛語が巧でないが、巧になるでせう。(le は forts の代用)

Voulez-vous vous promener dans l' après-midi?—Oui, je le veux.

貴方は午後散歩しませんか。—散歩しませう。(le *l* est se promener の代用)

Ce que le loup fait par la force, le renard le fait par adresse et réussit plus souvent.

狼が力ですることを、狐は妙技を以てして、狼よりも屢成功する。(le *l* est ce que le loup ..., の代用)

164. La beauté est¹ passagère²; n'y³ attachez⁴ donc pas trop de prix.

fugitive

【註】 1. être (ある) の直説法現在。 2. passager (一時の) の女性形。 3. それに。 4. attacher (結びつける) の命令法複数二人称。

〔譯〕 美は一時的のものである。それであるから、それに過度の價値をもたせてはいけない。

【類例】 Dès que j'aurai reçu votre lettre, j'y répondrai.
私は貴方の手紙を受取つたらすぐ其れに返事しませう。

【注意】 y は副詞の時には「そこに」の意味をもつ。
J'ai visité la Suisse, j'y ai vu des sites admirables.

私は瑞西を見物してそこに賞讃すべき風光を見た。

165. Quand¹ on es.² dans un pays, il faut³ en⁴ suivre les usages.

【註】 1. 時に。 2. être (ある) の直説法現在。 3. falloir (要する) の直説法現在で、常に形式上の主語 il を伴ふ。 4. 其れの。(un pays の代用)

〔譯〕 或る國に居る時には、其國の習慣に従はなければならぬ。

【例】 On va tout exprès en Amérique pour voir le Niagara; la chute en est la plus belle du monde entier.

人は「ナイアガラ」の瀑布を見る爲に、態々「アメリカ」に行

く。「ナイアガラ」の落水は全世界の中で最も美しい。(en は du Niagara の代用)

Depuis qu'il a visité Rome, il en parle sans cesse.

彼は「ローマ」を見物してからは、絶えずそれについて話してゐる。(en は de Rome の代用)

Cet arbre est grand, on peut en faire un mât.

此樹は大きい、此れで橋を作ることができる。(en は de cet arbre の代用)

Au Japon, on trouve beaucoup de volcans, et il y en a deux qui sont encore en activité.

日本には多くの火山がある、尙其の二つは活火山である。(en は de volcans の代用)

Mon ami X reste encore à Paris et j'en suis venu ici ce matin.

私の友人の X はまだ巴里にある私は本朝巴里から此處に來ました。

【注意】 前置詞の en と混用してはいけない。(III)

II. 其他の代名詞

166. Retenez¹ bien ceci²: il faut³ être juste envers tout le monde⁴.

【註】 1. retenir (保持する、差し控へる、記憶する) の命令法複数二人称。 2. 以下のことを。 3. falloir (要する) の直説法現在で、いつも形式上の主語 il を伴ふ。 4. tout le monde 皆。

〔譯〕 次のことによく記憶なさい、「皆に對して公明なるべし。」

【類例】 La gaieté amène la fortune: n' oubliez jamais cela.
「愉快は幸福を導く」此のことを決して忘れないな。

167. Cicéron et Démosthène furent¹ deux grands orateurs; celui²-ci était³ Grec, celui-là⁴ était Romain.

【註】 1. être (ある) の單純過去。 2. ci は近いものを示す故、Démosthène を表す。 3. être (ある) の直説法半過去。 4. là は遠いものを示す故、Cicéron を表す。

〔譯〕 「シセロン」と「デモステース」は二大雄辯家であつた。「シ」は希臘人で、「ズ」は羅馬人である。

【類例】 De ces deux dames, celle-ci est ma mère et celle-là est ma tante.

あの二人の婦人の内、こつちのは私の母で、あつちのは伯母です。

168. L'exagération¹ des éloges a² toujours nui³ à celui⁴ qui les⁵ a données⁶ et à celui⁷ qui les⁸ a reçus⁹.

【註】 1. 誇張。 2. avoir (もつ) の直説法現在。 3. nuire à (害する) の過去分詞で、a nui は複合過去。 4. celui は突然用ひられた時は「者」の意である。 5. éloges の代用。 6. donner (與へる) の過去分詞の複数形。 7. recevoir (受けける) の過去分詞の複数形。

〔譯〕 過度の賛辞は此れを與へた者及受けた者を常に害する。

【注意】 on (人は) は漠然たる意義を表す。(165)

III. 其他の品詞

169. En pareille¹ circonstance, le Japon doit² garder la stricte³ neutralité pour éviter des malentendus⁴ des puissances.

【註】 1. pareil (斯の如き) の女性形で、前の文の意義の代用をしてゐる。 2. devoir (要する) の直説法現在。 3. strict (厳密な) の女性形。 4. 誤解。

〔譯〕 斯の如き情況に於ては、日本は列強の誤解を避くる爲に嚴正中立を守るべきである。

【類例】 Vous désirez acheter ces gants, et moi pareillement.
(ou aussi)

貴方は此手袋を買はれるが私も同様に。(pareillement
は je désire acheter の代用)

Telle est la situation actuelle de Chine.

以上は支那の現状です。(telle は la situation が女性
の爲に女性形をとつてゐる。前にある文の全體の意義の
代用をしてゐる)

Cette fois-ci, vous avez bien réussi dans votre dessein,
mais les choses ne vont pas toujours ainsi.

此度は君の計畫はよく成功したが物事は常にさう行か
ない。(ainsi は (,) の前の文の意義の代用)

170. Les oignons¹ piquants² et les oignons doux³ ne sont⁴ pas
originaires des mêmes⁵ contrées: les premiers⁶ sont propres⁷ aux
pays froids et les seconds⁸ aux pays chauds.

【註】 1. 葱「オニヨン」と發音す。 2. 刺激する、辛い。 3. 甘い、
温かな。 4. être (ある) の直説法現在。 5. 同じ。 6. 前者。(oignons
piquants の代用、従つて其「性」と「數」に一致してゐる) 7. propre
à に適する。 8. 後者。

〔譯〕 辛葱と甘葱は同地方の産でない。前者は寒國、後者は暖
國に適してゐる。

【類例】 Votre frère et votre ami sont venus ici tout à l'heure;
ce dernier m'a dit que vous ne viendrez pas ici.

貴方の兄弟と友達は只今此處に來ました、貴方の友達
は貴方が此處に來ないだらうと、私に云ひました。(ce
dernier は votre ami の代用)

Il existait deux malheureux, l'un muet, l'autre aveugle,
et pauvres tous les deux.

二人の不幸者が居た、一人は啞、他の者は盲で兩方共
貧乏であつた。(l'un, l'autre は deux malheureux の
夫々の代用)

(16) 重複語句

同じ形或は意義をもつ語句が重複してゐることがある。場合に依り對等的(171—173)、説明的(174—176)、強意的(177—182)の意義を表はす。

I. 同じ品詞若くは同性質の句、文の重複

概ね對等的の意義を表はすも、同じ品詞が(,)なく密接した時には合成的の意義をもつことがある。

171. Il est¹ utile de décomposer² les mots en racines³, préfixes⁴, suffixes.

【註】1. être (ある)の直説法現在で、此文では非人稱動詞である、従つて il は形式上の主語。2. 分解する。3. 語基。4. 接頭語。

【譯】語を語基と接頭語及接尾語に分解することは必要である。

【類例】Londres et Paris sont les villes les plus grandes et les plus peuplées de l'Europe.

倫敦と巴里は歐洲で最も大きく最も人口の多い都市である。

Elle était au-dessus de la petite table, au-dessous du miroir, à côté de la fenêtre.

彼女は窓側で鏡の下で小机の上にゐた。

【注意】同じ品詞で(,)なく密接してゐる時には合成的意義をもつ。

名詞と名詞との重複 le pigeon voyageur 傳書鳩。(235)

動詞と動詞の重複 faire faire なさしめる。(238)

172. Non seulement¹ lui, mais encore sa petite sœur, ont² mérité³ d'être punis⁴.

【註】1. non seulement...mais encore のみならず尚。2. avoir (もつ)の直説法現在。3. mériter (に値する)の過去分詞で ont mérité は複合過去。4. punir (罰する)の過去分詞の複数形で、être punis は受動形。

【譯】彼のみならず彼の妹も罰に値する。

【類例】Les premiers hommes se sont logés soit dans des grottes naturelles, soit dans des demeures souterraines qu'ils avaient creusées eux-mêmes.

原始時代の人間は天然の洞窟或は彼等が自ら掘った地下室に住んだ。

Quand on est jeune et qu'on se porte bien, on doit travailler.

若くて達者の時には働かなければならぬ。(qu'=que は quand の代用)

173. La France a¹ rétabli² ses finances, réorganisé³ son armée, fortifié⁴ ses places de guerre.

【註】1. avoir (もつ)の直説法現在。2. rétablir (再び建てる、復興する)の過去分詞で a rétabli は複合過去。3. réorganiser (改造する、編成換をする)の過去分詞。4. fortifier (強壯にする、堅固にする)の過去分詞。以上の過去分詞は皆 a に關聯してゐる。

【譯】佛國は其財政を復舊し、其軍隊を編成換し、其要塞を堅固にした。

II. 説明語句の重複

174. Voltaire et Rousseau, les deux écrivains¹ qui ont² influé³ le plus puissamment⁴ sur le XVIIIe siècle, sont⁵ morts⁶ tous deux⁷ en 1778.

【註】1. les deux écrivains (二人の文豪)は Voltaire et Rousseau を説明してゐる。2. avoir (もつ)の直説法現在。3. influer (影響する)

る、勢力を及ぼす)の過去分詞で ont influé は複合過去。4. 有力は非常に。5. être (ある)の直説法現在。6. mourir (死ぬ)の過去分詞の複数形で sont morts は複合過去。7. 二人共。

【譯】第十八世紀に非常に影響を及ぼした二文豪の「ヴォルテール」と「ルーソー」は二人共 1778 年に死んだ。

【類例】Tout le monde apprécie le génie de Gutenberg, l'inventeur de l'imprimerie. 世人は印刷術の発明者たる「グッテンベルク」の天才を鑑賞する。

Dieu connaît tout, jusqu'à la pensée la plus secrète.
神は總てのことを識つてゐる、最も秘密の考へ迄も。

175. Trop faible¹, et si² nous osons³ le⁴ dire, trop nul⁵, l'homme isolé ne saurait⁶ se suffire⁷ à lui-même.

【註】1. 弱い。2. 若し。3. oser (敢てする) の直説法現在。4. le (其れを) は trop faible の代用。5. 役に立たない、無能な。6. savoir (知る、できる) の條件法現在。7. se suffire 自足する。

【譯】あまりに弱い尙おしきつて云へばあまりに無能な一人きりの人間は自足することができない。

【類例】Comme le moineau est paresseux et gourmand, c'est sur une provision toute faite, c'est-à-dire sur le bien d'autrui qu'il prend son aliment de chaque jour.

雀は怠惰で大食であるから、毎日の食事は既に出来上つてゐる糧食即他人の財産で済ましてゐる。

説明語句を接続するに用ひられる語句

pour ainsi dire	云はゞ
en un mot	一言で云へば
autrement dit	言葉を換へて云へば
si l'on tire un exemple	例を引用すれば
à vrai dire	本當を云へば

176. L'enfant reçoit¹ tout et ne² donne³ rien en échange⁴ que son sourire ou ses baisers, ce qui⁵ est insuffisant pour expliquer le rapport économique.

【註】1. recevoir (受ける) の直説法現在。2. ne....que 單に。3. donner (與へる) の直説法現在。4. en échange 代りに。5. ce qui 以下は前文の説明的語句。

【譯】子供は總てのものを受け其の代りには單に微笑と接吻を與へるばかりである。此のことは經濟關係を説明するには不充分である。

【類例】Un ingénieur a dernièrement inventé le bouclier à l'épreuve des balles, ce que nous avons souvent imaginé en vain.

或る技師が銃弾に耐へる防護~~盾~~を最近發明した。其ことは吾々が屢考案したが、無駄だった事だ。

【注意】説明語句は、() 或は — — の中にあることもある。

III. 同じ意義を示す語句の重複

同じ意義を示す語が重複してゐると、通常、文の意義が強く表はされる。

177. L'aéroplane traverse¹ l'espace avec une vitesse², une rapidité² prodigieuse³.

【註】traverser (横ぎる) の直説法現在。2. une vitesse (速力) と une rapidité (迅速、速さ) とは synonyme である。3. prodigieux (非常な) の女性形。

【譯】飛行機は驚くべき速さで空間を横ぎる。

【類例】Un soldat et un Français n'abandonne pas lâchement son drapeau.

佛蘭西の兵卒は卑怯に其軍旗を見捨てない。(Celui qui est

un soldat et qui est aussi un Français の意)	
pied contre pied	足を並べて
goutte à goutte	一滴づゝ
bon gré mal gré	否應なしに
de jour en jour	日々に
la fin des fins	最終局
le saint des saints	「デュルサレム」聖堂の正殿
l'être des êtres	人間

178. Moi¹ qui² n' ai³ jamais fait⁴ de mal à personne⁵, je suis⁶ toujours infortuné.

【註】 1. moi (私) と je とは重複してゐる。2. 關係代名詞。3. avoir (もつ) の直説法現在。4. faire (なす) の過去分詞で ai fait は複合過去。5. à personne 誰にも。6. être (ある) の直説法現在。

〔譯〕 私はまだ誰にも悪い事をしなかつたが常に不幸である。

【類例】 Vous autre¹ artistes, vous ne voyez pas ces choses comme nous.

貴方等藝術家は此等のことを吾々のやうに見ない。

Ce sera vous, messieurs, qui déciderez cette affaire.

此事件を決定するのは、あなた方、諸君です。

179. Si¹ le chemin de fer² pouvait³ nous⁴ conduire à la lune, il faudrait⁵ à une locomotive⁶ lancée à toute vitesse⁷ 322 jours, presque une année, pour atteindre⁸ la première station de la lune.

【註】 1. 若し。2. le chemin de fer 鐵道。3. pouvoir (能ふ) の半過去。4. 我々を。5. falloir (要する) の條件法現在。6. 投げられた、走らせた。7. à toute vitesse 全速力で。8. 達する。

〔譯〕 若し鐵道が吾人を月に導き得るなら、月の最初の停車場に到着する爲には、全速力で走る機關車で、322日、即殆んど一年を要する。

【類例】 Il y a dans l'année quatre saisons, douze mois, cinquante-deux semaines et trois cent soixante-cinq jours.

一年には四季、十二ヶ月、五十二週、三百六十五日がある。

同じ意義の語句を接続する爲に、屢用ひられる語句。ou 或は soit 或は、c'est-à-dire (c'.-à-d.) 即ち、à peu près 殆んど、
comme qui dirait 殆んど。

IV. 否定語句の重複

二つの否定語句が重複すると、意義の強い肯定となる。

但し Aucun.....ne..... (何れも.....ない) Personne.....ne..... (誰れも.....ない) などは、aucun, personne が ne を要求してゐるので否定語句の重複でない。non pas (.....でなく)、rien de rien (全く何も)、sans rien+不定法 (何も.....することなく) は肯定にはならない。

180. Nos plaisirs les plus¹ doux²/ne sont³ point⁴ sans⁵ tristesse.

【註】 1. les plus 最も。2. 甘い、優しい、心地よい。3. être (ある) の直説法現在。4. ne....point 決して....ない。5. なく。(ne...point と重複す)

〔譯〕 吾人の最も心地よい樂しみは悲しみを伴ふ。

【類例】 On ne peut pas être bon sans être indulgent.

寛大でなければ親切でない。

Il a fait cela non sans raison.

彼は理由があつて、それをして。

Je ne puis pas ne pas croire qu'il en est ainsi.

私はさうだとどうしても信する。(je suis forcé de の意)

【注意】 C'est mal vivre que de vivre sans rien faire. 無爲に生活するのは惡い。(此の sans と rien は合して肯定とならない)

181. Le spectacle de la nature n' était¹ pas moins² ravissant³.

【註】 1. être (ある)の直説法半過去。 2. moins (より少なく)は ne....pas と重複してある。 3. 心を奪ふ、美事な。

〔譯〕 天然の景色はすばらしかつた。

【類例】 Je suis souffrant, mais je n' en irai pas moins à la cérémonie. 私は氣分が悪いが其れでも儀式には行きませう。
(n'en....pas moins=ne....pas moins=tout de même
でも矢張り)

Vous n' avez rien qu' à dire.

貴方は單に云へばよい。(ne....rien que=rrien que=
seulement)

Cette comédie n' est rien moins qu' amusante.

あの喜劇は少しも面白くない。(ne....rien moins que=
nullement 少しも、全く)

Les candidats n' étaient pas peu nombreux.

候補者は少數でなかつた。

182. Il n' ignore¹ de rien.

【註】 1. ignorer (知らない)の直説法現在。

〔譯〕 彼は何事も知つてゐる。

(17) 省略語句

a. 文章を簡潔輕妙にする爲に、文中の或要素が省かれるこ
とがある。

省略される場合

同じ語の重複を避ける時。(183)

其語がなくても意義が解るやうな時。(185)

特種の文體〔感歎文(150), 命令文(141), 諺(233), 會話
體(184 類例5)〕

特種の語の主語若くは先行詞。(47 類例)

省略される要素

主語(44-49), 述語(73, 74), 形容語句(80), 補語(183),
主語と述語(184), 述語と補語(185).

b. 突然生じた或る感動、意圖の爲に陳述を中止することが
ある。此場合には、其後に云はんとする語句の全部が省略
せられてゐる。(186)

此場合には正しく直感して其意義を推知すべきである。

I. 主語の省略 (44-49)

II. 述語の省略 (73, 74)

III. 形容語句の省略 (80)

IV. 補語の省略

183. Beaucoup de personnes mentent¹ par intérêt²; peu³ mentent
simplement⁴ pour le plaisir⁵ de mentir.

【註】 1. mentir (嘘を云ふ)の直説法現在。 2. l'intérêt 利益、利
子、面白味。 3. peu de personnes の意。 4. 単に。 5. 楽しみ。

〔譯〕 多くの人は利己心の爲に嘘を云ひ、少しの人は嘘を云ふ
樂しみで單に嘘を云ふ。

【類例】 J'ai fait tous les efforts que j'ai dû et que j'ai pu pour
soulager leur misère.

彼等の貧困を救ふ爲には、私はしなければならない出來ただ
けの努力をした。(....j'ai dû faire et que j'ai pu faire の意)

reconnir
救援する

V. 主語と述語の省略

184. Les pourboires sont¹ un impôt² très onéreux³, quoique⁴ volontaires⁵. (200)

【註】 1. être (ある)の直説法現在。 2. 租税、税金。 3. 負擔の重い。 4. quoique (たとひ)の後に主語と述語が省いてある。 5. 隨意な、志願の。

〔譯〕 祝儀は、たとひ、隨意であるとしても非常な重稅である。

【類例】 Rien de plus terrible que la mer, lorsque la tempête soulève les flots.

ne repentir 嵐が波を起す時には、海より怖ろしいものは何もない。
(Il n'y a rien の意)

On se repent rarement de parler peu, très souvent de trop parler.

少し話したことでは稀に悔ゆるが、話しあげたことでは頗る頻繁に悔ゆる。((,) の次に on se repent が省いてある)

Puissiez-vous faire un bon voyage!

どうぞ、御無事に御旅行をなさい。 (J' espère que vous puissiez の意) (150)

Certains usages français attirent l'attention du voyageur anglais comme diamétralement opposés à ceux d'Angleterre

佛國の或る習慣は、英國の習慣と、全然反対してゐることにつき英人旅行者の注意を惹く。(comme ils sont diamétralement opposés の意)

A quoi bon? それが何の益になるか。

Adieu la boutique! もう店はおしまひだ。

Après vous! とうぞお先きに。

VI. 述語と補語の省略

185. Les jeunes¹ gens se nourrissent² d' espérance³ et les vieillards⁴ de souvenirs.

【註】 1. 若い。 2. se nourrir (身を養ふ、食べる、修養する、抱く)の直説法現在。 3. 希望。 4. 老人。(les vieillards se nourrissent de の意)

〔譯〕 青年は希望を抱き、老人は追憶に耽る。

【類例】 Le temps s'écoule comme un torrent.

時は恰も急流の如くに経過する。 (comme un torrent s'écoule.... の意)

J'aime cette contrée; l'air en est sain, le paysage beau.

私は此地方が好きだ。此空氣が健康的で、景色がよい。
(le paysage en est beau の意)

VII. 陳述の中止

186. Quant¹ à eux....mais j'ai² promis³ de me taire⁴.

【註】 1. quant àついては。 2. avoir (もつ)の直説法現在。 3. promettre (約束する)の過去分詞で、ai promis は複合過去。 4. se taire 黙する。

〔譯〕 彼等のことについては.....、然し私は云はないことを約束した。

【類例】 L'homme dit: "Je voyagerai, je bâtirai, je....," et la mort vient le surprendre au milieu de ses projets.

人は云ふ、「私は旅行しやう、家を建てやう....」と然し其計畫中に死が襲ひに来る。

(18) 転位語句

I. 文の要素の轉位

文の要素の配列は通常、(1) 主語、(2) 述語、(3) 形容語句
或は補語句の順序であるが轉位されることがある。

[A.] 強勢の爲の轉位

語勢を強める語句は文頭に置いてある。

187. La ville dont¹ vous me² parlez³, il y a⁴ longtemps que⁵ je
l'⁶ ai⁷ visitée⁸. (補語句の強勢)

【註】 1. 關係代名詞。2. 私に。3. parler de (について話す) の
直説法現在。4. avoir (もつ) の直説法現在で、il y a (ある) は非人
稱動詞。5. 接續詞。6. l' は la ville の代用。7. avoir (も
つ) の直説法現在。8. visiter (訪問する、見物する) の過去分詞の女性
形で、ai visitée は複合過去。

【譯】 君が僕に話す都會、其れは私は久しい前に見物した。

【類例】 A des gens tels que vous, je ne saurais donner une
récompense.

貴方のやうな人には褒賞をあげることは出来ない。

188. Presque jamais¹ une véritable montagne n' est² isolée, elle
fait³ partie d' une série⁴ de montagnes placées les unes à côté
des autres⁵. (副詞句の強勢)

【註】 1. ne....jamais (決して....ない) の jamais が前に轉位し
てある。2. être (ある) の直説法現在。3. faire (爲す) の直説法現
在、faire partie de 属する。4. 連續。5. les unes à côté des autres
隣り合つて、並んで。

【譯】 殆んど決して、ほんとの山は孤立してゐないで、互に並
んでゐる連山に屬してゐる。

【類例】 Certainement, vous avez raison, dit-il.

勿論、あなたが正當だ、と彼は云ふた。

189. Grande¹ fut² ma surprise lorsque j' ai³ appris⁴ la mort
subite⁵ de notre professeur. (形容句の強勢)

【註】 1. Ma surprise fut grande の意。2. être (ある) の單純過
去。3. avoir (もつ) の直説法現在。4. apprendre (知る、學ぶ) の
過去分詞で ai appris は複合過去。5. 急な。

【譯】 私は非常に驚いた、吾々の先生の頓死を知つた時には。

【類例】 Tel est l' état déplorable de sa famille.

彼の家族の哀れな有様は斯くの如くです。 (78)

Mieux vaut prouver que discuter.

證據は論議に勝る。(論より證據)

[B.] 文の構成上の轉位

a. 主語句が著しく長い時には、後に置いてある。 (190)

b. 述語の補語は通常短かい補語から列べてあるが、若し各
種の補語が殆んど同じ長さの時には直接補語、間接補語、狀況
補語の順に置いてある。 (193)

c. 特殊の語がある爲、轉位してあることもある。 (192)

190. Au milieu¹ de l' océan se trouvent² des rochers contre
lesquels³ les navires viennent⁴ se briser⁵ dans les tempêtes. (主
語句の轉位)

【註】 1. au milieu de の中に。2. se trouver (ある) の直説
法現在。3. contre lesquels 其れに對して。4. venir (来る) の直説
法現在。5. se briser 碎ける。

〔譯〕大洋の中には、暴風の時に船が碎かれる暗礁がある。

【類例】*Mieux vaut approfondir un ou deux ouvrages excellents que de lire beaucoup de livres médiocres.*

一二冊のよい著述を深く研究する方が、平凡の多くの書籍を読むよりもよろしい。

Sont électeurs tous les Français âgés de 21 ans.

二十一歳の佛人は選舉人である。

191. *Les Alpes, desquelles¹ descendent² plusieurs grands fleuves, sont³ les plus⁴ hautes montagnes que⁵ l'⁶ on trouve⁷ en Europe.* (補語句内の主語句の轉位)

【註】1.desquelles (其れから) plusieurs grands fleuves descendent の意。2. descendre (降下する、降す) の直説法現在。3. être (ある) の直説法現在。4. les plus 最も。5. 關係代名詞。6. l' は音調上をよくする爲に挿入されたもので意義をもたない。7. trouver (見出す) の直説法現在。

〔譯〕多くの大河が降下する「アルプス」連山は歐洲にある最も高い山である。

【類例】*C'est à la France que revient l' initiative des phares modernes.*

近代の燈臺の發案は佛國である。

【注意】關係代名詞の後では、屢此種の轉位が行はれる。

192. *Les troupes ont¹ marché² toute la nuit³: aussi⁴ sont⁵-elles arrivées⁶ de grand matin⁷ à leur destination.* (特種の語句ある爲主語の轉位)

【註】1. avoir (もつ) の直説法現在。2. marcher (歩む、行軍する) の過去分詞で、ont marché は複合過去。3. toute la nuit 夜通し。4. aussi (故に) が冒頭にある爲、elles が動詞の後に置かれてある。5. être (ある) の直説法現在。6. arriver (到着する) の過去分詞の女性

複數形で sont arrivées は複合過去。7. de grand matin=de bor matin 朝早く。

〔譯〕部隊は夜通し行軍した故に、朝早く其目的地に到着した。

【類例】*au moins (少なくとも)、à peine (....るすや否や)、encore (尚)、en vain (徒然に)、peut-être (恐らく)、toujours (常に) 等の語が文の冒頭にある時には、主語が動詞の後に置かれるのが普通である。*

193. *Vous trouverez¹ dans mon école des témoins² oculaires des faits que³ je vous⁴ racont⁵ maintenant.* (補語句の轉位)

【註】1. trouver (見出す) の未來。2. 證據人。3. 關係代名詞。4. 君に。5. raconter (物語る) の直説法現在。

〔譯〕私が今君に物語つてゐる事實の目撃者は私の學校に居ます。

【類例】*Un loup survint à jeun⁶ qui cherchait aventure.*

僥倖を求めてゐた狼が空腹でやつて來た。(un loup qui.. ..の意) (關係代名詞と其先行詞が離隔してゐる)

II. 主文と補足文の轉位

主文は通常、補足文の前にあるが、時としては後にある。
(194, 199)

194. *Depuis que¹ l'Amérique nous² a³ donné⁴ la pomme⁵ de terre, la famine n'est⁶ plus⁷ à craindre.* (補足文の轉位)

【註】1. 以後は。2. 我々に。3. avoir (もつ) の直説法現在。4. donner (與へる) の過去分詞で a donné は複合過去。5. la pomme 林檎 6. être (ある) の直説法現在。7. ne...plus もはや....ない。

〔譯〕「アメリカ」が我々に馬鈴薯を供給して以來は、饑饉は最

早恐るゝに足らない。

【類例】 Quand le puits est à sec, on connaît la valeur de l'eau.
井戸が乾いた時には水の値を知る。

(19) 虚辭

或る文は意義上、不必要若くは過剰な語、即虚辭を以て文の形を整へてゐることがある。

虚辭が用ひられてある場合 習慣的、意義を特に強める場合。
虚辭となる要素 主語、補語、其他の語。

I. 虚辭である主語

主語の部 (34-43) (il, ce) に掲げてあるものは主に習慣的に置かれるもので、次の例は意義を強める爲に置かれてある。

195. Je pense¹ ainsi, mais lui², il pense autrement³. (強勢)

【註】 1. penser (思ふ)の直説法現在。2. lui (彼) は特に意義を強める一種の虚辭。3. 別に、外に。

〔譯〕 私はその様に思つてゐる然し彼はさう思つてゐない。

【類例】 Il est mort, ce grand ministre.

あの偉い大臣は死んだ。 (Ce grand ministre est mort, の意)

Nous n' avons pas fait cela, nous.

吾々は其れをしませんでした。

II. 虚辭である補語

196. Je l' ai¹ entendu² de mes propres³ oreilles. (強勢)

【註】 1. avoir (もつ)の直説法現在。2. entendre (聞く)の過去分詞で、ai entendu は複合過去。3. 自分の、de mes propres oreilles (自分の耳では)は虚辭。

〔譯〕 私は其れを聞いた。

【類例】 Le voilà donc mort ce grand ministre.

あの偉い大臣は死んだ。 (Le は ce grand ministre を指示してゐる虚辭)

Il vous prend sa cognée, il vous tranche la tête.
彼は其斧をとつて獣を斬つた。 (vous は虚辭)

III. 其他の虚辭

種類 ne l' et ou ni y tantôt

注意 此種の虚辭は皆習慣的に置かれるものである。

虚辭 ne が用ひられる場合

- 主文の動詞に craindre, apprêhender, avoir peur, trembler (恐れる)等が肯定に置かれてある時、補足文に。
- 補足文の頭部に de peur que, de crainte que 等がある時、其直後の動詞の前に。
- 主文が肯定で文章中に不同を示す比較級がある時、補足文の中に。
- 主文に autre autrement がある時、補足文に。

197. Je crains¹ qu'² il ne³ pleuve⁴.

【註】 1. craindre (恐れる、氣づかふ)の直説法現在。2. que 接続詞。3. 虚辭。4. pleuvoir (雨降る)の直説法現在。

〔譯〕 雨が降ることを私は氣づかつてゐる。(降らねばよいがの意)

【類例】 Je fais cela de peur qu' il ne vienne.

彼が来るのを恐れて、私は其れをします。

Il est plus riche qu' il ne l' était.

彼は昔、金持であつたよりも今はもつと金持である。

Il parle autrement qu' il ne pense.

彼は思つてゐることより他のことを話す。

Il tua d' un seul coup et l'homme et le cheval.

彼は一撃のもとに人と馬を殺した。(前の et は虚辭)

Il nous faut ou vaincre ou mourir.

我々は勝つか我は死なねばならぬ。(前の ou は虚辭)

Le temps que l' on perd ne revient jamais.

失った時間は決して歸らない。(l' は音調をよくする爲に挿入せられた虚辭)

Il y va du salut de l' Etat.

國家の安全に關する。(Il y va de は Gallicisme で、y は矢張り虚辭である)

(20) 接 繕 語 句

種 類

對等接續詞 文中の語若くは同じ資格の文を接続する。

隸屬接續詞 主文に補足文を接続する爲に、補足文の頭部に附ける。

I. 對等接續語句

198. L'homme insatiable est¹ misérable; or² l'ambitieux est insatiable: donc³ l'ambitieux est misérable.

【註】 1. être (ある)の直説法現在。 2. 三段論法の形式である。

〔譯〕 飽き足りない人は不憫なものである、ところで野心家は飽き足りない。故に野心家は不憫なものだ

【類例】 對等接續詞 et (及び)、ou (或は)、car (何とすれば)、ainsi (斯の如く)、mais=cependant=pourtant=toutefois (然しながら)、puis (次に) etc.

II. 隸屬接續語句

注意 何れが主文、何れが補足文であることを速かに判別することが必要である。

主文と補足文の判別 主に隸屬接續詞或は關係代名詞に依り補足文を判別する。時としては分詞 (201, 202) 若くは特種の形 (228, 229) で補足文が形成されることがある。

199. Quand¹ on est² jeune et qu'³ on se porte⁴ bien, on doit⁵ travailler.

【註】 1. 時に。 2. être (ある)の直説法現在。 3. quand の代りに用ひられてある。 4. se porter (維持せられる) の直説法現在。 5. devoir (要する) の直説法現在。

〔譯〕 若くて達者の時には働くねばならぬ。

【類例】 La lune est plus petite que le soleil, quoiqu' elle nous paraisse plus grosse.

月は太陽より小さい、たとひ太陽より大きく吾々に見えても。

單一形の主な隸屬接續詞次の如し。

comme	が故に	lorsque	時に
puisque	が故に	que	ことを、故に、時に
si	若しも		

【注意】 quoique の後の動詞は常に接續法である。

200. Bien que¹ natif² des pays chauds, le chameau craint³ les climats où⁴ la chaleur est excessive⁵.

【註】 1. たとひ。2. 生れの。(主語と動詞と省いてある) (184) 3. craindre (恐れる) の直説法現在。4. 所の。5. excessif (過度な) の女性形。

〔譯〕 駱駝は熱國の産であるけれども暑さが酷しい氣候を恐れる。

【類例】 A mesure que vous avancerez dans vos études, vous connaîtrez davantage le prix de l'instruction.

貴方は研究が進むに従ひ一層教育の價値を識るでせう。

組成形の隸屬接續詞は (241) 參照。

【注意】 組成形の隸屬接續詞は接續法を要求するものと然らざるものとある。

201. Dieu aidant¹, nous y² parviendrons³. (分詞文)

【註】 1. aider (助ける) の現在分詞で、si Dieu aide, の意。即 Dieu aidant は補足文である。2. そこに。3. parvenir (到達する) の未來。

〔譯〕 神が助けることによつて我々は其れに到達するだらう。

【類例】 L'hiver approchant, nous ferons notre provision en bois.

冬が近づくので、吾々は薪の貯へをしませう。

Généralement parlant, les riches sont avers.

一般に云へば、金持は守銭奴である。 (si l'on parle d'une manière générale の意)

Etant donné un cercle, en trouver la surface.

圓を與へて其面積を求む。

Ce disant, il est parti. さう云ふて彼は出發した。

202. Eux partis¹, nous avons² senti³ un allègement⁴. (分詞文)

【註】 1. partir (出發する) の過去分詞の複數形で、comme ils sont partis の意。即 Eux partis は補足文である。2. avoir (もつ) の直

説法現在。3. sentir (感じる) の過去分詞で、avons senti は複合過去。

4. 緩和、慰撫。

〔譯〕 彼等が出發したので我々は氣がせいせいした。

【類例】 Le repas fini, nous nous sommes mis en route.

食事が済んだので、我々は歩き始めた。

Cela fait, il se coucha au soleil.

それをしてから、彼は日の當る所で横になつた。

Le vieillard ayant parlé ainsi, l'assemblé se sépara.

老人が斯の如く話したので集會が解散した。

La ville ayant été prise, les soldats la pillèrent.

市街が占領せられたので、兵卒等は其れを掠奪した。

(21) 比較語句

比較物は文外にある時と、文中にある時とある。前者の場合には、前後の關係により判断して適當な比較物を考へ出さねばならぬ。

I. 優(劣)等比較語句

形 plus, moins, davantage などの語がある。

203. Si¹ nous avions² seulement vécu³ un siècle plus tôt⁴, nous n'aurions⁵ eu aucune⁶ idée des machines à vapeur, des chemins de fer, du télégraphe, du téléphone et de la photographie. (文外に比較物がある)

【註】 1. 若しも。2. avoir (もつ) の直説法半過去。3. vivre (生活する) の過去分詞で、avions vécu は直説法大過去。4. より早く。 (現

時代と比較してある) 5. avoir (もつ)の條件法現在で aurions eu (は條件法過去。6. 何れの。(否定の意)

〔譯〕若し、我々が僅か一世紀だけ今より早く生きてゐたら蒸氣機械、鐵道、電信、電話や寫眞について何の考へも持たなかつたであらう。

【類例】*Vous êtes pressé, ne restez pas da:antage.*

貴君は忙がしい、此れ以上こゝに居てはいけません。

204. Les aveugles par accident¹ sont² encore plus³ à plaindre que les aveugles-nés. (文中に比較物がある)

【註】1. 偶然に、偶然に基づく。2. être (ある)の直説法現在。3. plus....queより以上に....。

〔譯〕偶然になつた盲人は、生れつきの盲人より尙一層同情すべきである。

【類例】*On a calculé, au moyen de l' aéromètre, que l' air est 776 fois moins dense que l'eau.*

空気が水より 776 倍密度が小さいことを人は氣體計で測定した。

Le soleil et la lune semblent plus gros à l'horizon qu' ils ne le paraissent au zénith.

太陽と月は天頂に於て見える大いさより水平線上では一層大きく見える。(plus,...que の後の文中にある ne は虚辭)

205. Le bois est d'autant moins¹ lourd² qu'il est³ plus sec.

【註】1. d'autant moins (plus)....que.... すればするだけ少なく(多く) 2. 重い。3. être (ある)の直説法現在。

〔譯〕木材は一層乾燥してゐればゐるだけ、軽い。

【類例】*Plus un peuple est instruit, plus la nation est prospère*
國民が教育されてあればある程國家は繁榮する。

Moins...., moins....すればする程少なく....
Mieux...., mieux....をよくすればよくする程よく..

② 同等比較語句

形 aussi, si, même, ainsi, (que), comme, tel などの語がある。

206. *Le culte des idoles¹ est² aussi³ ancien que le monde.*

【註】1. 偶像。2. être (ある)の直説法現在。3. aussi....que 程、と同様に。

〔譯〕偶像の崇拜は世界と同様に古い。

【類例】*La route n'était pas aussi longue que je le pensais.*

道は私が思つてゐた程遠くなかった。

La ténacité du fer est si grande qu' un fil de deux millimètres de diamètre supporte, sans se rompre, un poids de 250 kilog.

鐵の抗力は中徑二耗の線が切斷することなく、250 斤の重量を支へる程強い。

207. *Les animaux¹ et les végétaux² de l'Australie ne sont³ pas les mêmes⁴ que ceux⁵ des autres continents.*

【註】1. l'animal (動物)の複數形。2. le végétal (植物)の複數形。3. être (ある)の直説法現在。4. les mêmes que.... と同一のもの。5. animaux と végétaux の代用語。

〔譯〕澳洲の動植物は他の諸大陸のものと同一でない。

【類例】*De même que l'eau prend la forme du vase, de même on ressemble à ses compagnons.*

水は器の形をとる如く、人は其友に似る。

Vous avez bien réussi, ainsi que je l'espérais.

私の望んだ通り、貴君は立派に成功した。

208. Autrefois, on croyait¹, comme² tous les enfants, que³ le ciel est⁴ une grande coupole⁵ bleue posée⁶ sur la terre.

【註】 1. croire (信する) の直説法現在。2. の如くに。3. 接続詞。4. être (ある) の直説法現在。5. 圓天井。6. 置かれた。

【譯】 昔、人は丁度子供のやうに、天は地球上に置かれた大きな青い圓天井であると思つてゐた。

【類例】 Il fut étonné comme s'il allait s' étourdir.
彼は時に茫然自失せんとした程驚いた。

209. L'aéroplane a¹ déjà acquis² une vitesse et une stabilité telles que³ même les tempêtes ne les⁴ effrayent⁵ point.

【註】 1. avoir (もつ)の直説法現在。2. acquérir (得る) の過去分詞で、a acquis は複合過去。3. telles que (程の、のやうな) の telles は tel の女性複数形で vitesse と stabilité に一致してゐる。4. vitesse と stabilité の代用語。5. effrayer (恐れさす) の直説法現在。

【譯】 飛行機は暴風さへ影響させぬ程の速力と安定を既に得た。

【類例】 La Suisse n'est pas telle qu' elle a été décrite par la plupart des voyageurs.

瑞西は大部分の旅行者に依つて叙述された程でない。

III. 最上(下)級比較語句

形 le plus, le moins, le meilleur, le moindre, aussi.....que possible, autant que possible, mon (votre) plus, très extrêmement, on ne peut plus などの語がある。

210. De¹ toutes² les fleurs de ce jardin, la rose est³ celle⁴ qui⁵ me⁶ plait⁷ le plus⁸.

【註】 1. の内で。2. tout (總ての)の女性複数形。3. être (ある) の直説法現在。4. la fleur (花)の代用語。5. 關係代名詞。6. 私に。7. plaisir (氣に入る)の直説法現在。8. 最も。

【譯】 此庭の總ての花の中で、薔薇が一番私に氣に入ります。

【類例】	le plus tôt possible	なるべく早く
	aussi longtemps que possible	出来るだけ久しく
	autant que possible	なるだけ
	tous les avantages possibles	出来るだけの便宜

211. Victor Hugo est¹ le plus² grand poète du dix-neuvième siècle.

【註】 1. être (ある) の直説法現在。2. le plus....de の内で最も....。

【譯】 「ヴィクトール、ユゴー」は第十九世紀の最も偉い詩人である。

【類例】 L'Italie est le pays le plus abondant en œuvres d'art.
伊太利は藝術品が最も豊富な國である。

212. La charité est¹ une très belle² vertu.

【註】 1. être (ある) の直説法現在。2. beau (美しい) の女性形。

【譯】 慈悲は頗る美しい徳である。

【類例】 此種の意義を示す語句は次の如し。bien, fort, extrêmement, infiniment (非常に), on ne peut plus (此上なく) sans pareil (無類の) sans égal (無比の), etc.

IV. 其他の比較語句

形 autre.....que, tant.....que, autant.....que, à mesure que, tandis que, pendant que, comparativement à などの語がある。

213. Je n' ai¹ d' autre² ambition que de vous³ rendre⁴ heureux.

【註】 1. avoir (もつ)の直説法現在。 2. autre....queより他の....。 3. 貴君を。 4. なす。

〔譯〕 私は貴君を幸福にするより他の考へはもたない。

【類例】 On rencontre souvent beaucoup d'hommes qui parlent autrement qu' ils ne pensent. (ne は虚辭)
思つてゐることと異つて話する多くの人々に屢遭遇する。

214. Les avares chérissent¹ tant² leurs richesses qu' ils y³ pensent⁴ constamment.

【註】 1. chérir (愛する)の直説法現在。 2. tant....que....だけ、まで、限り。 3. à leurs richesses の代用語。 4. penser (思ふ)の直説法現在。

〔譯〕 各吝家は絶えず其富を思つてゐるだけ其れを愛する。

【類例】 Il faut croire n'avoir rien fait tant qu' il reste quelque chose à faire.
爲すべき或ることが残つてゐる間は、何も爲さなかつたと思ひなさい。

La terre se mit à trembler avec tant de violence que toutes les maisons s'écroulèrent.
土地は總ての家屋が崩壊した程の強さで動搖し始めた。

215. On ne trouve¹ nulle part² autant³ de marchands qu' en Amérique.

【註】 1. trouver (見出す)の直説法現在。 2. nulle part 何處にも。 3. autant....que だけ、だけそれだけ。

〔譯〕 「アメリカ」に於けるだけの商人は何處にもない。

【類例】 Autant de parties, il a jouées, autant il en a perdues.
彼は多くの勝負を試みたが其都度負けた。

9

Il n' y a rien qu' me plaise autant que l' étude de la langue étrangère.

外國語の研究程私に氣に入るものは何もない。

A..tant le toucher concentre ses opérations autour de l'homme, autant la vue étend les siennes au delà.

触覚が人體の周圍に其働きを集めてゐるだけ視覚は其働きを外方に弘めてゐる。

216. Tous¹ les fleuves s'étendent² à mesure³ qu' ils s'éloignent⁴ de leur source.

【註】 1. tout (總ての)の複數形。 2. s'étendre (廣くなる)の直説法現在。 3. à mesure que=au fur et à mesure queに従つて....。 4. s'éloigner (遠ざかる)の直説法現在。

〔譯〕 河は總て其源から遠ざかるに従つて廣くなる。

【類例】 比較の意義をもつ接續詞は次の如し。
pendant que の間に tandis que 然し
plutôt que よりは寧ろ

217. La production de sucre, cette année, sera¹ vraisemblablement², voisine de 475,000 tonnes. C'est, comparativement³ à 1923, une augmentation de 60 % environ.

【註】 1. être (ある)の單純未來。 2. 多分。 3. に比較して。

〔譯〕 本年は砂糖の生産は多分 475,000 噸に近いだらう。此れは 1923 年に比すれば、約 60 「パーセント」の増加である。

【類例】 此種の比較語句は次の如し。

par rapport à....=en comparaison de....=auprès de...
..に比すれば。 au lieu deの代りに。

(22) 讓步語句

形 通常、補足文の頭部に次の如き語句がある。

quoique, bien que, supposé que, si.....que, tout.....que,
quelque.....que, quel que, quoi que, soit que, que, etc.

**218. Quoiqu'¹ on m'invite² d'aller à la campagne, je ne m'y³
rendrai⁴ point.**

【註】 1. 假令。(quoique の後の動詞は常に接續法) 2. inviter (招く、誘ふ)の接續法現在。3. à la campagne の代用語。4. se rendre à (に行く) の單純未來。

〔譯〕 假令野外に行くべく誘つても、私は決して行かない。

Cf. 【類例】 Bien qu' il pleuve à verse et que je n' aie pas de parapluie, je suis obligé de sortir.

假令ひどく雨が降つても亦私は雨傘を持たないでも私は是非外出しなければならない。

Dût-on me critiquer, je défendrai mon opinion.

よく人が私を批難しても私は自分の意見を固守しませう。

(Dût-on devoir の接續法生過去で、其の他の動詞でも此「時」
で此形をもつ時には「假令」の意をもつ)

Supposé qu' il en soit ainsi, faites-le.

たとひ、そんなことがあつても、其れをしなさい。

**219. Si¹ parfaite que soit² une œuvre d'art, les envieux y³
trouveront⁴ toujours des défauts.**

【註】 1. si....que 假令(此の後の動詞は常に接續法)。2. être (ある)の接續法現在。3. à une œuvre d'art の代用語。4. trouver (見出す) の單純未來。

〔譯〕 藝術品は假令完全であつても、羨望者は常に其れの缺點を見出す。

【類例】 Si peu que le naturel des enfants soit bon, on peut les rendre dociles, patients et gais.

苟も子供の性質が善良であれば、其子供を柔順に忍耐強く且快活にすることができる。

Tout ingénieuse qu' est la machine à vapeur actuelle,
elle n'est pas encore parvenue à son dernier point de perfection.

現今の蒸氣機械はたとひ巧妙であるとも、まだ其改善の最終點には達してゐない。(tout....que の後の動詞は直説法である。尙tout は後に来る女性形容詞が父音若くは有音hで始まる時には toute なる形をもつ)

Toute petite qu' est l'Europe,

假令歐洲は小さくとも....。

**220. Quelque¹ nourrissants que soient² les haricots, ils ne le³
sont⁴ pas encore autant que⁵ la viande.**

【註】 1. quelque....que 假令。(此の後の動詞は常に接續法) 2. être (ある)の接續法現在。3. nourrissants の代用語。4. être (ある)の直説法現在。5. autant que.... 程。

〔譯〕 豆はいか程滋養分があるといへ、肉程でない。

【類例】 Quelque prudemment qu' ils agissent, ils échoueront.
いかに彼等は注意して動作しても失敗するだらう。

**221. Quelle que¹ soit² la vitesse d'un boulet de canon, elle est
presque insignifiante³ en comparaison⁴ de celle⁵ de la lumière,
qui⁶ parcourt⁷ 280,000 kilomètres par seconde.**

【註】 1. quel que (いかに、いくら) の女性形。(此の後の動詞は接續法) 2. être (ある)の接續法現在。3. 意味がない、微々たる。4. en comparaison de.... に比して。5. la vitesse の代用語。6. 關係代名詞。7. parcourir (走り廻る) の直説法現在。

〔譯〕 砲彈の速度はいか程であらうとも、一秒に 280,000 輪

を経過する光の速度に比べれば殆んど取るに足らない。

【類例】 *Quels que soient* les dangers, affrontez-les bravement.

いかに危険であるとも勇敢に冒進なさい。

222. Personne¹ ne croit² le menteur, quoi³ qu' il dise⁴.

【註】 1. 誰も。(否定) 2. croire (信する)の直説法現在。3. quoi que いかやうなことを。4. dire (云ふ) の接続法現在。

〔譯〕 虚言者はいかやうなことを云ふとも、誰も其れを信じない。

【類例】 *Quoi que* vous puissiez dire, vous ne me convaincrez pas.

貴方はいかやうな事を云ひ得ても、私を納得させないだらう。

223. Soit¹ qu' il le veuille², soit qu' il le refuse³, cela m' est⁴ égal⁵.

【註】 1. soit que.... 假令....にせよ。2. vouloir (欲する)の接続法現在。3. refuser (拒絶する)の接続法現在。4. être (ある)の直説法現在。5. 等しい。

〔譯〕 よし彼が其れを欲しても其れを拒絶しても我れ關せず。

【類例】 *Que* vous partiez ou *que* vous ne partiez pas, c'est pour moi la même chose.

貴君が出發しやうとしないと其れは私には同じことだ。

224. Qui que¹ vous soyez², je ne puis³ vous obéir.

【註】 1. 誰であつても。2. être (ある)の接続法現在。3. pouvoir (能ふ)の直説法現在。直後に不定法がある時には、pas は省かれる。

〔譯〕 貴方は誰であつても、私は貴方に服従することは出來ない。

【類例】 Je le cherche où qu' il soit.

彼はたとへどごに居ても私は搜す。

(23) 條件語句

- 形 a. 補足文の頭部に接續詞 si がある。(225—227)
b. 補足文が設問形をもつてゐる。(228)
c. 補足文が命令形をもつてゐる。(229)
d. 條件句がある。(230)

225. Si¹ vous venez² demain et qu'³ il fasse⁴ beau, nous pourrons⁵ aller à la campagne.

【註】 1. 若し。2. venir (来る)の直説法現在。3. si を重複する代りに que が用ひられてある。4. faire (爲す)の接続法現在で、非人稱動詞となつてある。5. pouvoir (能ふ)の單純未來。

〔譯〕 若し貴君が明日來て然も晴天であるなら、吾々は野外に行くことができまセう。

226. Biens des¹ gens seraient² heureux, s' ils savaient³ tirer parti⁴ de leur bonheur.

【註】 1. bien des.... 多くの。2. être の條件法現在。3. savoir (知る、出来る)の直説法半過去。4. tirer parti de.... を利用する。

〔譯〕 多くの人々は其好運を利用し得れば、幸福になるだらうのに。

227. Si Grouchy avait¹ exécuté² les ordres de Napoléon, Wellington aurait³ perdu⁴ la bataille de Waterloo.

【註】 1. avoir の直説法半過去。2. exécuter (實行する)の過去分詞で、avait exécuté は直説法大過去。3. avoir の條件法現在。4. perdre (失ふ、負ける)の過去分詞で、aurait perdu は條件法過去。

〔譯〕 若し、「グルーシー」が奈翁の命令を行つたなら、「ウェーリントン」は「ウォーテルロー」の會戦に負けただらうのに。

【類例】 Napoléon n'eût pas entrepris la campagne de Russie,

s' il en eut prévu les conséquences.

奈翁は「ロシア」の役の結果を豫想してゐたなら、其れを企てなかつたらう。(eût enterpris は條件法過去第二の形。eût prévu も亦條件法過去第二の形で直説法大過去の代りに用ゐられてゐる)

228. Les Romains de la décadence avaient¹-ils du pain et des jeux² de cirque, ils étaient³ satisfaits.

【註】 1. avoir の直説法半過去。 2. jeu (遊び、演技) の複数形。 3. être の直説法半過去。此文は設問文ではない。

【譯】 頽廢した「ローマ」人は、若し食物と演技場の諸種の遊技があれば、満足してゐた。

【類例】 Les sauvages avaient-ils fait un prisonnier, ils le mettaient à mort.

野蠻人共は一名の捕虜を得れば其れを殺した。

N'était (=n'eût été) que je suis votre ami, je ne vous aurais pas venu en aide.

若し私が貴方の友でなかつたなら、貴方を助けなかつただらう。

229. Montez¹ dans la chambre de votre petit frère, vous le² trouverez³ certainement, il vient⁴ de rentrer.

【註】 1. monter (上る、上げる) の命令法複数二人稱。 2. votre frère の代用語。 3. trouver (見出す) の單純未來。 4. venir (来る) の直説法現在で、vient de.... は近い過去を表す。

【譯】 若し貴君の弟の室に上れば、貴君の弟に會ふでせう。彼は今しがた歸つた所だ。

【類例】 Lisez ce livre et vous connaîtrez mieux l'Italie.

若し君が此本を讀めば、一層よく伊太利を知るでせう。

Venez ou ne venez pas, cela m' est égal.

貴方が來ると來ないと、私は關係しない。

230. Sans¹ peine nous ne parviendrions² à rien.

【註】 1. なく、なしには。 2. parvenir (到達する) の條件法現在。

【譯】 苦がなければ、我々は何事にも達し得ないだらう。

【類例】 A vaincre sans péril, on triomphe sans gloire.

危険なくして勝つとすれば、勝つても名譽がない。

231. Je ne pouvais¹ deviner s' il serait² venu³ vous voir avant de partir.

【註】 1. pouvoir (能ふ) の直説法半過去。 2. être (ある) の條件法現在。 3. venir (来る) の過去分詞で、serait venu は條件法過去。

【譯】 私は彼が出發前に貴方に會ひに來たかどうか云ひ當てることができなかつた。

(24) 俚 譚

形 a 普通の文體。(232)

b 省略體。(233)

c 顛倒體。(234)

I. 普通の文體

232. Le temps, c' est¹ de l'argent.

【註】 1. être (ある) の直説法現在。

【譯】 時は金なり。(一刻千金)

【類例】 Quand vous êtes à Rome, faites comme les Romains.

「ローマ」に居る時には「ローマ」人の如くなせ。(郷に入つては郷に従へ)

Quand le chat n' y est pas, toutes les souris dansent.

猫が居ない時には、小鼠は皆踊る。(鬼の留守に洗濯)

C'est simple comme bonjour.

それは挨拶のやうに單簡だ。(朝飯前の仕事だ)

II. 省略體

文の或る要素が省略してある。

233. A cœur vaillant¹, rien² d' impossible.

【註】 1. 勇ましい。2. 何も……ない。(Il n'y a rien d'impossible à cœur vaillant. の意)

〔譯〕 勇ましい心をもつ者に不可能なものなし。(精神一到何事かならざらん)

【類例】 Après moi, le déluge.

私の後は大洪水。(あとは野となれ山となれ)

Pas de roses sans épines.

刺なき薔薇なし。(河豚は食ひたし、命は惜しい)

Tel père, tel fils. 此父にして此子あり。

Advienne que pourra. 結果は何が起つても覺悟の前だ。

III. 顛倒體

文の要素が其位置を轉じてゐる。

234. Après la pluie, le beau temps.

【註】 Le beau temps vient après la pluie. の意。

〔譯〕 雨後に晴天。(雨降つて地固まる)

【類例】 Mieux vaut prouver que discuter.

證明することは議論することに優る。(論より證據)

Tel qui rit vendredi, dimanche pleura.

金曜日に笑ふ者は日曜日に泣く。(人間萬事塞翁が馬)

A chaque oiseau le nid paraît beau.

鳥には巣が美しく見える。(住めば都)

(25) 組成語句

文中にある若干の語は時として個々の意義を充分に表はさないで組合つて一つの意義を表はすことがある。trait d' union (-) で連結してあるものは直ぐ解るが、然らざるものは直に此れを見分けることが必要である。本項には (-) のない組成語句のみを掲げてある。

I. 名詞

名詞の補語に、冠詞をもたない名詞又は前置詞のみをもつ名詞が接する時には、其一群の語で一つの意義を表はすと見做すことができる。

235. la mère patrie 母國

le major général 少將

le vaisseau amiral 旗艦

la maîtresse femme 才媛

以上の語では、後の名詞は形容詞的意義をもつ。

l'arc de triomphe 凱旋門

une boîte à couleurs 繪具箱

la société par actions 株式會社

la maison en bois 木造家屋

le compte rendu 報告

le compte courant 交互勘定

le corps franc

l'ayant droit

d' il y a 20 ans

un je ne sais quoi

un je ne sais qui

les on dit

【注意】 une bouteille à bière 一本の「ビール」壠

une bouteille de bière 一本の「ビール」

II. 代名詞

236. autre chose

grand' chose

quelque chose

tout le monde

quelqu' un

les uns les autres

ni l'un ni l'autre

rien du tout

義勇隊

權利者

二十年前の

何だか分らない物

誰だか知らない人

噂

一本の「ビール」壠

一本の「ビール」

III. 形容詞

237. marron clair

bleu foncé

gros vert

blond cendré

battant neuf

bleu de ciel

le visage je ne sais quoi de vertueux 一種の徳をそなへた顔

薄栗色の

濃青の

深緑の

灰褐色の

最新の

空色の

IV. 動 詞

238. laisser faire

② oser dire

aller partir

② se faire lire

avoir faim

prendre part à

rendre visite à

② tenir compte de

faire face à

demander pardon

以上の語では、名詞は冠詞をもたない。

詞

爲すが儘にする

敢て云ふ

出發せんとする

讀んで貰ふ

飢える

に參加する

を訪問する

に留意する

に對抗する

宥を乞ふ

V. 副 詞

239. 前置詞と名詞

de nouveau

✓ de suite

✓ de préférence

à présent

✓ à mort

sans peine

✓ par instinct

✓ à la française

✓ à tout moment

✓ à tout prix

en même temps

au-dessus (dessous)

✓ pour le moment

再び

續いて

特に

現今では

ひどく

難なく

本能的に

佛國式に

絶へず

どうしても

同時に

上(下)に

目下

de bonne heure

早く

d'une manière sévère

厳格に

冠詞と語

le premier 第一に

✓ le dernier 最後に

le plus 最も

✓ le moins 最も少なく

le lendemain 翌日

✓ un peu 少し

語と前置詞と語

peu à peu

漸次に

bord à bord

舷々相摩して

tout à fait

全く

tout de suite

直ぐ

tôt ou tard

早かれ遅かれ

goutte à goutte

ほたほたと

其他

✓ point du tout

少しも

✓ nulle part

どこにも

✓ quelque part

どこかに

peut-être

恐らく

✓ depuis peu

少し前から

✓ pour ainsi dire

云は々

✓ à vrai dire

眞實を云へば

✓ à l'heure qu'il est

只今では

✓ on ne peut plus

此の上なく

✓ n'importe (quand, quoi, quelle chose, lequel)

....でも

✓ coute que coute

如何やうなことが起

✓ tout coup vaille

つもて

✓ à qui mieux mieux

競つて

VI. 前置詞

240. à cause du temps

天氣の爲に(理由)

à côté de lui

彼の側に

afin de punir

罰する爲に

à travers la fenêtre

窓越しに

au lieu de parler

話す代りに

auprès du fauteuil

肘懸椅子の傍に

grâce à vous

貴君の御蔭で

le long de la route

道に沿ふて

quant à moi

私については

de peur de mourir

死ぬのを恐れて

faute d'argent

金がないので

VII. 接續詞

241. afin que*

する爲に

à mesure que

に従つて

après que

した後で

avant que*

する前に

bien que*

たとひ

depuis que

して以來

parce que

何んとなれば

ainsi que

する如く

à moins que*

に非ざれば

aussitôt que

するや否や

dès que

するや否や

de même que

と同様に

jusqu'à ce que*

する時迄

tandis que

然し

【注意】 * は接続法を要求する。

(26) 故事語句

聖書、神話、文豪の名作からは種々の語句が引用されてゐる。又歴史的顯著の事實が或る語句に代用されることもある。(5)

I. 聖書

242. C'est à la sueur¹ de ton visage (front), que² tu mangeras³ du⁴ pain.

【註】1. 汗。2. 接續詞。3. manger (食べる)の單純未來。4. 部分冠詞。

〔譯〕汝は刻苦して食を得ん。(神が「アダム」に云つた言葉)。

【類例】Pourquoi ne suis-je pas mort dans le ventre de ma mère?

なぜ私は母の胎内で死なかつたか。(嘆く時に屢用ひられる)。

On connaît l'arbre à ses fruits.

人は實で樹を識る。(人の行は其眞の性質を示す)。

Maintenant, Seigneur, tu laisses ton serviteur s'en aller en paix, selon ta parole.

主よ、今こそ御言に従ひて僕(しもべ)を安かに逝かしめ給ふなれ。(自分の希望が達したなら、もう死んでもよい)。

Il ne m'est ni d'Eve et ni d'Adam.

彼は私の親戚でない。(Adam 最初の男、Eve 最初の女)。

C'est l'arche de Noé.

あれは種々の人が住んでゐる家だ。(l'arche de Noé. 「ノア」の方舟)。

II. 神話

243. Il est¹ un disciple² d'Apollon.³

【註】1. être の直説法現在。2. 弟子。3. 神話中にある詩、藝術の神。

〔譯〕彼は詩人である。

【類例】Elle est plus belle que Vénus.

彼女は絶世の美人だ。(Vénus は美の神)。

Il a rimé malgré Minerve.

彼は拙劣な詩をつくつた(Minerve は知識の女神)。

Il a des yeux d'Argus.

彼は鋭い眼をもつてゐる(Argus は百眼の人)。

Il est dans les bras de Morphée.

彼は眠つてゐる(Morphée は夢の神)。

Eole 風の神 Cérès 収穫の女神

Mars 軍の神 Mercure 商業の神

Nymphé 水、森、山の女神 Muse 詩の女神

Vulcain 火の神 Plutus 富の神

Narcisse 美男子 Stentor 大聲の人

III. 文豪の名作

244. Vous comptez¹ sur la dot² de votre fiancée comme si³ vous la⁴ teniez⁵ déjà. Prenez⁶ garde de vendre⁷ la peau de l'ours⁸.

【註】1. compter (数へる、積りである。期する) の直説法現在。2.

持參金。3. comme si 恰も。4. la dot の代用語。5. tenir (支へる、もつ) の直説法半過去。6. prendre (取る) の命令法二人稱複數。7. 賣る。8. 熊。

【譯】貴方は既に貴方の許婚の持參金を手に入れたやうに其れをあてにしてゐる。ものにならない内は氣をつけなさい。

(La Fontaine 作の寓話 L'Ours et les deux compagnons 中にある句で、まだ熊を捕へない内に其皮を約束して失敗した事に基づく)。

【類例】*Que de fois on passe à côté de périls réels, pour se battre contre des moulins à vent.*

人は架空の敵と闘つて眞の危険に臨むことが随分多い。
(Michel Cervante 作の Don Quichotte 中にある事實で、Don Quichotte が風車を敵と思つて此れに突進し風車の翼に打たれることに基づく)。

Il est **don Juan**.

彼は好色漢である。(Molière 作の喜劇 Don Juan の性質に基づく)。

tartufe 僞善者 (Molière 作の喜劇 Tartufe に基づく)。
misanthrope.

厭世家 (Molière 作の喜劇 le Misanthrope に基づく)。

Vendredi. 忠實な下僕 (Robinson 漂流記にある忠僕)。

IV. 歴史的事實

245. Trouvant¹ la place bonne, les lapins en² avaient³ fait quelque chose comme un quartier général,⁴ un centre⁵ d'opérations stratégiques⁶; le moulin de Jemmapes des lapins....

【註】1. trouver (見出す) の現在分詞。2. de la place bonne の代用語。3. avoir の直説法半過去で、avaient fait は大過去。4. 総司令部。5. 中心。6. 戰略の。

【譯】兎はよい場所を見出したのでそこを總司令部乃至は作戦根據地の如きものにした。即、其の製粉所は兎の「デンマップ」の陣營だつた。

(Jemmapes は白耳義の地名で 1792 英軍が墮軍を破つた所)。

【類例】Aristocrate de naissance, il haïssait par instant ~~quatre-vingt-treize.~~ *maniposa une ville à Bann*

生れつき貴族的であつた彼は本能的に佛國革命を嫌つた。(1793 年を略して 93 と云ふたので、此年には「ルイ」十六世が處刑された) (注意、Les canons de 75. は口径七珊半の加農砲のことである)。

Dans une entreprise difficile, on doit brûler ses vaisseaux.

困難な事業では覺悟をきめなければならない。(昔、或る軍隊の長は占領せんとする岸に着いた時には部下に勝利の自信を示し且後退を不能にならしめる爲に乗船を焼いた)。

Le père de la tragédie française.

佛國悲劇の祖。(Corneille)

Le vainqueur d'Austerlitz.

「オーステルリツ」の勝者。(Napoléon).

La vierge de Domrémy.

「ドムレミ」の處女。(Jeanne d'Arc).

Le grand poète de XIX siècle. *

十九世紀の大詩人 (Victor Hugo).

Le prince des poètes.

詩人の王 (Homère).

(27) 特種語句 (Gallicisms)

佛語にも他の國語のやうに特有の云ひ表はし方や、不規則の構造をもつ文がある此れを Gallicisms と云ふ。此語法は一般の語句や文と異なり、語は其本來の意義を全く離れ、文は文法的に解説するに困難な形を呈し、寧ろ約束的の意義を表はしてゐる。

「ガリシスム」は日常の會話や、普通の文體のものに、極めて頻繁に用ひられるものである。

I. 語句の「ガリシスム」

或る語句は、其内にある語若くは全體の意義を比喩的に解釋すれば、概ね解るが、多くの語句は殆んど特種の意義を表はしてゐる。

246. Aujourd'hui, il faut¹ remuer² ciel et terre pour obtenir la plus³ modeste place.

【註】 1. 非人稱動詞 falloir (要する) の直説法現在。 2. 動かす。 3. la plus 最上級を示す。

〔譯〕 現今は、最もさゝやかな職を得るにも大々的の活動を要する。

【類例】 entre chien et loup	たそがれ時
un temps de chien	悪い天氣
un froid de loup	酷い寒さ
larmes de crocodile	空涙

de bon matin	朝早く
de grand matin	
au petit jour	夜の明けに
<u>le secret de Polichinelle</u>	公然の秘密
<u>à propos de bottes</u>	故なく
<u>au fort d'une querelle</u>	争闘の真最中に
avoir beau dire	徒らに云ふ
avoir le cœur gros	悲しむ
coucher à la belle étoile	露營する
faire l'école buissonnière	學校に行かずに遊ぶ
<u>prendre la crêmaillère</u>	轉宅祝をする
partir à l'anglaise	何も云はずに出發する
revenir à nos moutons	本題に立戻る
<u>se mettre en quatre</u>	全力を盡す
s'en vouloir de	後悔する
<u>s'y prendre bien</u>	よく振舞ふ

II. 文の「ガリシスム」

文の「ガリシスム」には、屢、轉位、省略が行はれ或は虛辭が置かれてある。

✓ [A] 非人稱動詞をもつもの

247. Il va¹ de soi que vous pourrez² y³ aller.

【註】 1. aller (行く) の直説法現在, Il va de soi que....=Il va sans dire que....=Il est certain que....=云ふまでもない。勿論だ。 2. pouvoir (できる、能ふ) の單純未來。 3. そこに。

〔譯〕 貴方がそこへ行き得ることは云ふまでもない。

【類例】 Ne tardez pas à payer vos dettes, il y va de votre bon renom. (il y va de....=il y a danger de perdre....)

貴方の借財を遅れずに支拂ひなさい。貴方のよい評判に關はります。

Il y a deux mois que je suis arrivé ici. (Il y a....=Il existe....)

私は二ヶ月前にこゝに到着した。

Il y a lieu de le croire. (Il y a lieu de....=avoir des raisons pour....)

其れを信すべき理由がある。

Il y a gros à parier que vous remporterez un grand succès. (Il y a gros à parier que....=Il est très probable que....)

貴方は多分大成功を齎すだらう。

Cette charmante villa est vacante. Louez-la donc, il n'y a pas à hésiter. (il n'y a pas à....=sans....)

あの氣持よい別荘は空いてゐる。であるから、あれを借りなさい。愚圖ぐすしないで。

Il n'y a qu'à parler. (Il n'y a qu'à...=Il suffit de....)
話をすれば充分である。

Il n'est que d'entreprendre pour réussir. (Il n'est que de....=Le mieux est de....)

成功するには企てるのが一番よい。

Il ne tient qu'à moi qu'il vienne ici. (Il ne tient qu'à....=Il ne dépend que de....)

彼が此處へ來るのは私にのみ關してだ。

[B] 省略及轉位體のもの

248. Je compt¹ inviter aussi chez² moi l'ennemi de ces messieurs, ne leur³ en déplaise⁴.

【註】 1. compter (計算する。積りである) の直説法現在。2. 宅に。3. à ces messieurs の代用語。4. déplaît (氣に入らない) の接續法現在, ne leur en déplaît=qu'il ne leur en déplaît. あの方々の氣に障るかも知れないが。

〔譯〕 私はあの方々の敵も宅に招く積りです。あの方々の氣に障るかも知れないが。

【類例】 Lorsqu'un délit a été commis, on en avise qui de droit, (qui de droit=celui que cela concerne).

或る犯罪が犯された時には、人は其れを當事者に告げる。

A quoi bon chercher à prouver l'existence de Dieu? (A quoi bon?=Quel avantage cela offre-t-il?)

神の存在を證據立てゝ何の利益があるか。

Vous n'êtes pas d'ici que je crois. (que je crois=que je sache=à ce que je crois).

私の思ふ所では、貴方は此土地の人でない。

Je lui ai fait apprendre un bon métier, advienne que pourra maintenant. (advienne que pourra=on est prêt à subir toutes les conséquences d'une résolution).

私は彼によい職業を學ばしめた。今となつてはどうなつてもよい。

Elle lui sourit comme si de rien n'était. (comme si de rien n'était=Comme la chose n'était pas arrivée).

彼女は恰も何事も起つてゐかつたやうに彼に對して微笑した。

Ma fille va se rendre au marché, vous pouvez l'y accompagner si bon vous semble. (si bon vous semble=si cela vous convient).

私の娘は今、市場に行きます、若し御望なら貴方は彼女と一緒に市場に行つておいでなさい。

Si la maladie vous prenait au dépourvu, que feriez-vous alors, vous qui vous êtes moqué du qu'en dira-t-on? (le qu'en dira-t-on=L'opinion des autres).

若し貴方が思ひがけなく病氣になつたら、其の時にはどうしますか。他人の意見を侮つた貴方。

[C] 虚辭をもつもの

249. Mon frère en¹ voulait² toujours à son collègue.

【註】 1. 虚辭。2. vouloir (欲する) の直説法半過去。en-vouloir à=garder rancune à...を怨む。

〔譯〕 私の兄弟は彼の同輩を常に怨むでゐる。

【類例】 Après beaucoup de peine ils en vinrent à se comprendre.
(en venir à....=réussir à....).

多くの骨折の後、彼等は互に理解するに至つた。

J'en finis à tout prix. (en finir=prendre un parti décisif).

私は萬事を賭して落着をつけた。

C'en est fait. 萬事終れり。

Vous avez besoin d'en finir avec cette affaire. (en finir avec....)

貴方はあの事件と縁を切る必要がある。

A l'en croire, tout est perdu. (A l'en croire=Si l'on voulait le croire).

其れを信ずるとしたら、もうどうもできない。

L'amour l'emporte souvent sur la raison. (l'emporter=prévaloir).

愛は屢理性に打勝つ。

Je ne souffrirais pas si j'étais que de vous. (si j'étais que de vous=si j'étais à votre place).

若し自分が貴方であつたら、苦しまないでせう。

(28) 詩 句

詩句は音節の數を揃へ、尚、韻を踰む爲に、若干の語の語尾を變し或は語を轉位してある。又詩句に現はれる語は音調と高雅を顧慮して用ひられてあるもので、其意義も散文に於けると異なることがある。

I. 語の變形

散 文	詩 文	
250. pied	pié	足
encore	encor	尚
grâce à	grâces à	のお蔭で
certes	certe	勿論
J'aperçois	J'aperçoi	私は見る
J'avertis	J'averti	私は知らせる
Je crois	Je croi	私は思ふ
Je dois	Je doi	私は....要する。
ne....pas	pas	否定, etc.

II. 語の意義

散文語句	(=詩文語句)
251. amour	(=flamme) 慾
ancien	(=antique) 古の
canon	(=airain) 大砲
cloche	(=bronze) 鐘
cheval	(=coursier) 馬

enfer	(=achéron)	地獄
épée	(=acier)	劍
vent violent	(=aquinon)	強風, etc.

III. 詩句の意義

詩句の意義は或る一行で完全に表はされる時と、數行に亘つて表はされる時とある。

[A] 一行で意義が完全に表はされる場合

252. Bonne¹ vieille, que² fais³-tu là?

Il fait⁴ assez chaud sans cela,

Tu peux⁵ laisser⁶ tomber la flamme,

Ménage⁷ ton bois, pauvre femme,

【註】 1. bon (よい、やさしい) の女性形。 2. 何を (設問代名詞)。 3. faire (なす) の直説法現在。 4. faire の直説法現在で、非人稱的に用ひられてある。 5. pouvoir (できる、能ふ) の直説法現在。 6. laisser 残す、laisser tomber 落す。取り落す。 7. ménager (處理する、節約する) の命令法單數二人稱。

【譯】 やさしいお婆さん、そこで何して
それがなくても可なり暖かい
其火を落して
薪をつましくなさいお婆さん

[B] 數行に亘つて或る意義が表はさられる場合

此場合には文の要素たる主語、述語、屬辭若くは補語が何れであるか速かに知る必要がある。前にも述べた通り詩句では散文以上に甚だしく轉位が行はれてあるから着眼を廣くすることが必要である。(次頁轉位の部参照)

253. Un laboureur et sa jeune compagne¹,
Avec leurs fils parcouraient² la campagne
A l'approche de la moisson.
Ces beaux épis qui doraien³ leur sillon
Réjouissaient⁴ leurs cœurs d'une douce espérance.

【註】 線で示してある行で一つの完全な文を形成してある。 1. compagnon (仲間、伴侶) の女性形。 2. parcourir (歩き廻る) の直説法半過去。 3. dorier (金色にする) の直説法半過去。 4. réjouir (樂ませる) の直説法半過去。

【譯】 一人の農夫と若妻が
刈入れ近くに
子供と野を廻る
畠を色どる見事な穂は
樂しい望みで胸躍らせる

IV. 轉位

a. 述語の後に主語がある。

254. Ici gronde¹ le fleuve aux vagues écumantes;
述語 主語

Il serpente², et s'enfonce³ en un lointain obscur;

【註】 1. gronder (唸る。叱る) の直説法現在で、le fleuve の動詞。 2. serpenter (屈曲する) の直説法現在。 3. s'enfoncer (入込む。落込む) の直説法現在。

【譯】 泡立つ波の河はこゝで唸り
うねりうねつて遠く消え失せる

【類例】 Sur la branche d'un arbre était en sentinelle
述語

Un vieux coq adroit et matois.

主 語

或る樹の枝で見張つてゐた

手際よいするい老鶏が

b. 述語の前に状況補語がある。

255. De la dépouille¹ de nos bois

状況 補語

L'automne avait² jonché³ la terre:

述語

【註】 1. 脱殻。2. avoir (もつ) の直説法半過去, 3. joncher (....に撒く、蔽ふ) の過去分詞で、avait jonché は直説法大過去、De la dépouille....は其状況補語。

〔譯〕 森の落葉で

秋は蔽へり此土地を

【類例】 Souvent sur la la montagne, à l'ombre du vieux chêne,

状況 補語

Au coucher du soleil, tristement je m'assis^{eds};

状況 補語 述語

山の古い樹の木蔭で時々

吾は悲しく座つた日の暮に

c. 述語の前にある直接補語を代名詞にて受ける。

256. Ceux dont vous me parlez¹, je ne les connais² pas,

直接 補語

【註】 1. parler (話す) の直説法現在。2. connaître (識る) の直説法現在。

〔譯〕 貴方が私に話する者共は私は識らない。

【類例】 Mon pays, mes enfants, pour vous j'ai tout quitté.

直接 補語

吾は國や子供を皆棄てた

d. 述語の前に間接補語がある。

257. Au sommet de ces monts couronnés de bois sombres,

間接 補語

Le crépuscule¹ encor¹ jette² un dernier rayon;

述語

【註】 1. encore と同じ。2. jeter (投げる) の直説法現在。

〔譯〕 薄暗い森に巻かれた山頂に

まだ夕暮はあと光を投げてゐる

【類例】 Aux petits des oiseaux Dieu donne leur pâture,

間接 補語 述語

神は雛鳥に其餌を與ふ

e. 名詞の補語が轉位する。

258. Dans ce récit je prétends¹ faire voir

D'un certain sot la remontrance² vainue.

次の名詞の補語

【註】 1. prétendre (欲する。主張する) の直説法現在。2. vain 無益な。

〔譯〕 此話で吾は知らしめやうと思ふ

或る馬鹿者の無駄な忠告を

【類例】 D'Iphigénie encor je respecte le père.
père の補語

吾はまだ「イフィヂエニー」の父を敬してゐる

f. 助動詞と過去分詞の間、若くは二つの動詞(第二の動詞は
不定法)の間に補語がある。

259. Une voix trop fidèle

M'a d'un triste désastre apporté¹ la nouvelle.
nouvelle の補語

【註】 1. apporter(持ち来る)の過去分詞で、à apportéは複合過去。

【譯】 非常に誠實な忠告が
吾にいやな災禍の報知を齎した

【類例】 J'ai su, par une longue et pénible industrie,

Des plus mortels venins prévenir la furie.
furie の補語

吾は永く苦しい工面して
いと、ひどい怨を見越し得た

(29) 外來語句

羅甸語及諸外國現用語の若干は、屢佛文中に現はれる。後者は主に其國で發明せられたもの、發達してゐるもの、獨特のもの等の名稱である。

欠

欠

II. 其他の外來語

261. M¹. Henri Cochet a² battu³ hier dans le **match**⁴ de **tennis**⁴ le champion olympique M. Vincent Richards.

【註】 1. M. は Monsieur の略語。2. avoir の直説法現在。3. battre (打つ。打破る) の過去分詞で、a battu は複合過去。4. 英語より轉用された語。

〔譯〕 「アンリー、コシェー」氏は、昨日、庭球の試合で、「オリンピック」選手「ヴァンサン、リシャール」氏を打敗つた。

【類例】

【英】 l'express	急行列車	le rail	レール
le tunnel	トンネル	le wagon	客車
le club	俱樂部	le meeting	集會
le smoking	タキシード	le bifteck	ビフテキ
le pudding	ブッヂン	le lunch	小食
le base-ball	野球	le golf	ゴルフ
le water-closet	便所	le yacht	ヨット

【獨】 le Reichstag	獨逸國會
le landwehr	獨逸後備軍
le bock	麥酒一杯

【其他】

【伊】 Vedi Napoli, e poi muori! (=vois Naples, et meurs!)
「ナポリ」を見て死せよ。

adagio	緩に (音樂)	andante	平調に (音樂)
soprano	ソプラノ		

【日】 le daimio	大名	le kimono	日本服
le jiu-jitsu	柔術	le sintoïsme	神道
le shogoun	將軍	shogounat	將軍の職

(30) 間違ひ易い語句

同形語で意義を異にするものがあり、又、殆同じ形で意義を異にして用ひられることがある。此のやうな場合には往々間違ひを生ずる。宜しく文法的智識により誤解を避くべし。

I. 同形語

262. le, la, les me, te, se nous, vous en	定冠詞。代名詞(其れを) (163) } ナの格 (213). ニの格 (150)
y	代名詞(其れに) (164). 副詞(そこに) (164注)。
ce	形容詞(この。その) (151) 代名詞(これは。 それは) (20類例) 虚辭(39-43).
ne	否定 (119) 虚辭 (197)
même	形容詞(同じ、自身) (263, 264) 副詞(さへ) (265-268)
si	接続詞(若し。どうか) (269-273) 副詞(それ 程。いかに) (274-276)
que	關係代名詞(所の) (277) 設問代名詞(何を) (278) 接続詞(ことを) (280-286) 副詞(い かに) (279)
tout, tous.....	形容詞(總ての) (287) 副詞(非常に。全く) (291, 292) (いかに) (293)
quelque	形容詞(或る) (294-296) 副詞(いかに) (299) (約) (298)

même, mêmes.

même	限定するもの(位置)	意義(品詞)
	名詞、代名詞	同じ。自身(形容詞)
	形容詞、動詞、副詞、或は最上級 の形容詞を伴ふ。(冠詞、形容詞 代名詞の前。二つ以上の名詞の 後)。	さへ(副詞)

263. L'étourdi commet cent fois les **mêmes** fautes. (形容詞)

〔譯〕 馬鹿は何回も同じ過失を犯す。

264. Ces livres sont ceux-là **mêmes** que vous vouliez acheter;
nous les avons achetés nous-**mêmes** pour vous. (形容詞)

〔譯〕 此等の本は、貴方が買はうと思つてゐたものと同じ本で
す。吾々は其れを貴方のために自ら買つた。

265. Les guerres, **même** justes, sont toujours regrettables.

〔譯〕 正當な戦争さへ常に遺憾なものである。

266. Les hommes les plus braves **même** craignent la mort.
(副詞)

〔譯〕 最も勇敢な人さへ死を怖れる。

267. Les vieillards, les femmes, les enfants **même** périrent.
(副詞)

〔譯〕 老人女子供さへ命を落した。

268. Même mes enfants sont allés à pied. (副詞)

〔譯〕 私の子供さへ徒步で行つた。

si je m'assis mal, je réussirai.

indicatif

si (s')

si の判別法

接続詞 si は il, ils の前では s' となる。

形容詞若しくは副詞の前にある時には副詞と見るがよい。接続詞で「若しも」の意をもつ時には、通常、補足文と主文との動詞の関係が次の如くなる。

補足文	主文
Si <u>直説法現在</u>	<u>直説法未來</u> (225)
Si <u>直説法空過去</u> →	<u>條件法現在</u> (226)
Si <u>直説法大過去</u> →	<u>條件法過去</u> (227)

269. S'il travaille bien, il réussira. (接続詞)

〔譯〕 若し彼がよく働けば、成功するだらう。

270. Si l'un dit oui, l'autre dit non. (接続詞)

〔譯〕 一人が承知しても一人が承知しない。

271. Si je suis triste, c'est que j'en ai sujet. (接続詞)

〔譯〕 私が悲んでゐるのは理由がある。

272. Si je pouvais vous consoler! (接続詞)

〔譯〕 私が君を慰めることができればよいが。

273. Je ne sais si il viendra. (接続詞)

〔譯〕 彼が来るかどうか知らない。

274. Ne marchez pas si vite. (副詞)

〔譯〕 そんなに速くお歩きなさるな。

275. Il est si intelligent qu'il comprend ce livre. (副詞)

〔譯〕 彼は此本が解る程利口だ。

276. Si petit qu'il soit, il est très fort. (副詞)

〔譯〕 彼はいくら體が小さくても、非常に強い。

que (qu')

que の判別法

que は母音の前では qu' となる。關係代名詞の時は lequel. 設問代名詞の時は quelle chose. 副詞の時には combien で置き代へることができる、接続詞の時には此等の語で置き代へることができない。

接続詞の que は depuis que (より以來), avant que (する前に), sans que (することなく), comme (故に), tel que (の如き), jusqu'à ce que (する時迄), afin que (する爲に) 等の意義を表はすことがある。

277. C'est le journal que je désire lire. (關係代名詞)

〔譯〕 私が読みたい新聞はそれだ。

278. Qu'avez-vous dit tout à l'heure? (設問代名詞)

〔譯〕 今しがた貴方は何を云ひましたか。

279. Que c'est beau! (副詞)

〔譯〕 なんと美しいことよ。

280. Je regrette que je ne puis vous voir demain. (接続詞)

〔譯〕 明日お目にかかり得ないのは遺憾です。

281. Il est plus riche que moi. (接続詞)

〔譯〕 彼は私より富んでゐる。

282. Je n'en ai **que** trois. (接続詞)

〔譯〕 私は其れをたつた三つ持つてゐる。

283. Il y a dix ans ^{depuis que} il est parti. (接続詞)

〔譯〕 彼は十年前に出發した。

284. Approchez, ^{comme} que je vous parle. (接続詞)

〔譯〕 私が話するから近よりなさい。

285. Que tu partes tout de suite. (接続詞)

〔譯〕 お前は直ぐ出發せよ。

286. Si j'étais **que** de vous, je ferais comme ça. (接続詞)

〔譯〕 若し私が貴方であつたらこんな風にするでせう。

tout, toute, tous, toutes.

限定するもの	意義 (品詞)
tout 名詞、指示代名詞	總ての、各の (形容詞)
形容詞、分詞、副詞	全く、非常に、たとへ (副詞)

* 副詞の場合に於ても、父音若しくは有音で始まる女性形容詞の前では其形容詞の「性」「數」に一致した形をとる。

287. **Tous les villages** doivent avoir une école primaire. (形容詞)

〔譯〕 總ての村落は一つの小學校を有しなければならない。

288. **Tout le village** est aux champs. (形容詞)

〔譯〕 村のものは總て畠にゐる。(tout le monde du village の意)。

289. **Tout homme** est mortel. (形容詞)

〔譯〕 各人は死ぬべきものである (chaque homme の意)。

290. **Toute Rome** est couverte de monuments. (形容詞)

〔譯〕 「ローマ」全市は紀念碑で一杯だ (toute la ville de Rome の意)。

291. Dans les pays du Nord, on trouve des louves **toutes blanches**. (副詞)

〔譯〕 北方の國々には全部白い牝狼がゐる。

292. Ces pauvres femmes étaient **toutes** en pleurs. (形容詞)

〔譯〕 あの可憐な婦人共は皆涙にくれてゐた。

293. Tout agréable qu'est cette histoire, je préférerais un récit plus instructif. (副詞)

〔譯〕 あの話は、いかに面白いと云へ、私は一層教訓的の話の方がいい。

quelque, quelques, quel que.

限定するもの	意義 (品詞)
quelque 名詞 形容詞、分詞、副詞	或る(單數), 一二の(複數) (形容詞) 形容詞、分詞、副詞如何に、約 (副詞)

294. Il me rend toujours **quelque** service. (形容詞)

〔譯〕 彼は常に私に或ることをして呉れる。

295. **Quelques** araignées des pays chauds sont venimeuses.

(形容詞)

〔譯〕 热國の若干の蜘蛛は有毒である。

296. Il succomba, quelques efforts qu'il fit. (形容詞)

〔譯〕 彼は或る努力をしても負けた。

297. Quel que soit votre mérite, soyez toujours modeste. (quel
は形容詞)

〔譯〕 貴方の才能はどうあらうとも、常に、謙讓でありなさい。

298. Il y a quelque cinq cents ans que la boussole a été dé-
couverte. (副詞)

〔譯〕 約五百年前に磁石が發見された。

299. Quelque prudemment qu'ils agissent ils échoueront. (副詞)

〔譯〕 彼はいかに注意して仕事しても、失敗するだらう。

II. 類形語

300. la petite fille

少女

la petite-fille

孫女

le pot à eau

水差

le pot à l'eau

水を入れうる壺

d'eau

水が一杯の壺

tout à coup

忽ち

d'un coup

一舉に

commencer à tomber

落ち始める(連續的)

de parler

話し始める(一時的)

par manger

先づ食事し始める

continuer à boire

續いて飲む(一時的)

de boire

相變らず飲む(習慣的)

être à la campagne

田舎にある

en campagne

戦場にある

finir	{ de parler par payer	話し終る とうとう支拂ふ
manquer	{ à faire cela d'écrire de tomber	それをするのを忘る 手紙を書くのを忘れる 落ちかける
s'occuper	{ à son jardin de sa douleur	彼の庭で働く(外的) 彼の苦痛を氣にかける(精神的)
participer	{ à une affaire du chaval	或仕事に参加する 馬に似る

III. 名詞語句の併列

名詞が接続詞なく併列された時 (〔,〕を介し或は然らずして)
には、意義を強める爲の synonymes の列舉か説明語句の添加
か或は對等語句の重複である。

301. Sa bonté, son extrême douceur charme tout le monde.

〔譯〕 彼の優しさ淑やかさは、皆を魅する。

302. Saint Louis, roi de France, mourut de la peste.

〔譯〕 佛國王「サン、ルイ」は「ベスト」病で死んだ。

303. Il n'y avait rien qui effrayât les Francs vos ancêtres.

〔譯〕 貴方達の祖先の「フランク」人を恐れさせたものは何も
なかつた。

304. Allemands, Russes, Anglais, Français, etc. participent à
cette course à pied.

〔譯〕 獨人、露人、英人、佛人等が此徒競走に參加する。

IV. 形容詞と名詞との關係

接續詞 *et* で結ばれてゐる二つの形容詞が異なる二つのものを示す時と同一のものを限定する時とある。前者の場合には、各形容詞の前に一々冠詞が置かれてある。

併列される數個の名詞が殆んど synonymes である時には、此れに従ふ形容詞は單數形でも、總ての名詞を限定する。其他の場合には形容詞の語尾の一致の具合から判断するがよい。

305. *La haute et la basse Bourgogne* donnent de bons vins.

〔譯〕 北部「ブルゴーニュ」及南部「ブルゴーニュ」は良好な葡萄酒を産する。

306. *Le simple et bon La Fontaine* est la gloire de la littérature française.

〔譯〕 純真で且つ優しい「ラ・フォンテーヌ」は佛文學の譽れである。

307. *Le Gaulois avait un courage, une intrepidite surprise.*

〔譯〕 「ゴール」人は驚くべく勇敢で大膽であつた。

308. *Je mangera des noix ou une pomme cuite.*

〔譯〕 私は胡桃か煮た林檎を食べませう。

309. *Tout homme cherche un métier ou une profession lucrative.*

〔譯〕 各人は利益のある職業を求める。

310. *Les sauvages se nourrissent de chair ou de poissons crus.*

〔譯〕 野蠻人は生肉生魚を食べる。

V. 主語と動詞との關係

a. ou は「或は」「何れか々」「一名」「双方共」等の意をもつ故に、其れを含む主語の伴ふ動詞は單數或は複數にされる。

311. *La paix ou la guerre sortira de cette conférence.*

〔譯〕 平和か戦争か何れか々、此會議から現はれるだらう。

312. *Le Bosphore ou canal de Constantinople communique la mer d'Asie, la Marmara et la mer Noire.*

〔譯〕 「ボスボラス」一名「コンスタンチノープル」海峡は「マ
ルモラ」海と黒海とを通する。

313. *La peur ou le besoin font tous les mouvements de la souris.*

〔譯〕 恐怖或は必要双方共が廿日鼠の總ての動作を律してゐる。

b. 名詞句の間に挿入してある ainsi que は「.....の如く」或は「及」の意をもつ。従つて其れを含む主語の伴ふ動詞の變化は單數或は複數にされる。

314. *L'enfant, ainsi que certaines plantes, a besoin de soutien.*

〔譯〕 子供は二三の植物の如く扶助の必要がある。

315. *L'or ainsi que l'argent peuvent rester dans la terre sans s'altérer.*

〔譯〕 金及銀は變質することなく地中にあることができる。

c. 集合名詞がある時には、其集合名詞が總體的集合名詞であるか（定冠詞をもつ）或は部分的集合名詞であるか（不定冠詞をもつ）に従つて總體的或は部分的の意義に譯すべきである。又集合名詞が主語である時には其動詞の變化が單數であるか複數であるかにも留意することが必要である。

316. Une foule d'enfants ont poussé des cris de joie.

〔譯〕 一群の子供が喜びの叫び聲を發した。

317. La foule des enfants encombrait la rue.

〔譯〕 子供の群が道路を塞いでゐた。

【注意】 集合名詞がある時には、動詞の變化の單複に 注意して意義を定めるがよい。

318. Le peu d'efforts que vous avez faits vous ont suffi pour avoir le premier prix.

〔譯〕 貴方がした少しの努力が第一等賞を得るに充分であつた。

319. Le peu d'efforts que vous avez fait vous a empêché d'avoir le premier prix.

〔譯〕 貴方がした努力の缺乏が、第一等賞を得るのを妨げた。

(31) 譯し方の注意

語の比喩的意義を探るべき場合がある。(1)

固有名詞（頭字は大文字）を普通名詞のやうな意義に改めて譯すべき場合がある。(5)

熟語を形成してゐる爲に語を個々に譯さないで總括的に譯すべき場合がある。(9, 235-241)

虚辭でなくても、譯に現はさないでもよい語がある。(20, 54)
諺、格言、謎などでは適宜に語を附加して譯したがよい。(27)
受動詞は時としては能動的に譯した方が適當な邦語となることがある。(31)

現在の變化を過去に譯すべき場合がある。(53)

大過去が用ひられてある時には別に「既に」、「前に」等の語句が文中になくとも、此れを附加して譯した方がよいことがある。(57)

先立過去が用ひられてある時には、別に「直に」「あるや否や」等の語句が文中になくとも、此れを附加して譯するがよい。(58)

名詞が 補語を從へてゐる時に、前の名詞から譯をつけた方がよい。ある。(314, 316)

代名詞が補語を從へてゐる時に、代名詞の方から先きに譯をつけた方がよいことがある。(92)

關係代名詞で連なる長い文は關係代名詞の所で切つて譯する方がよい。

品詞及肯定を變へて譯した方がよいことがある。(195)

不定代名詞 on は譯さなくともよい時がある。(54)

過去を現在に譯すべき時がある。

語の單複に特に留意して譯すべき時がある。

敬稱語句は日本語程に多く用ひられてないから、譯する時には適宜此れを附加したがよい。(133)

少し文の構造が變だと思つた時には、省略、轉位、虛辭、或は Gallicismes に想到すべきである。(247-249)

文中に確然とした意義を表はさない en 若くは y がある時には其 en, y は殆んど他の語と組合つて熟語を形成してゐる。(249)

附 錄

常用略字

I 敬稱

A.	Altesse	殿下
A. I.	Altesse impériale	
A. R.	Altesse royale	
Bon. Bonne.	Baron, Baronne	男爵、同夫人
C.	Commandeur	勳章の階級
Ch. Cheval.	Chevalier	同上
Cte. Ctesse	Comte. Comtesse	伯爵、同夫人
D.	Don	西班牙貴族の尊稱
Dr.	Docteur	博士
Dr. M.	Docteur médecin	醫學博士
E. (Em.)	Eminence	貌下
Esq.	Esquire	殿
Exc.	Excellence	閣下
G.-C.	Grand-Croix	勳章の階級
G. O.	Grand Officier	同上
LL. AA.	Leurs Altesses	殿下(複數)
LL. MM.	Leurs Majestés	陛下(複數)
M. (MM.)	Monsieur (Messieurs)	殿
Me.	Maitre	辯護士などの稱號
Mme. (Mmes.)	Madame (Mesdames)	令夫人

【注意】佛國勳章 Légion d'honneur は次の五階等に分かれである。
grand-croix, grand-officier, commandeur, officier, chevalier.

II 度量衡

- Mlle. (Mlles)	Mademoiselle	
(Mesdemoiselles)		
Mgr.	Monseigneur	令嬢
Mis. Mise.	Marquis, Marquise	殿下、猊下
N. S.	Notre Seigneur	侯爵、同夫人
O.	Officier	基督
S. A.	Son Altesse	勳章の階級
S. M.	Sa Majesté	殿下
Sr.	Sieur	陛下
S. S.	Sa Sainteté	氏
Vte. Vtesse	Vicomte. Vicomtesse	法王猊下
		子爵、同夫人
c.	cent	百
cent.	centime, centième	佛貨サンチーム、第百の
cg.	centigramme	サンチグラム、
cl.	centigrade	サンチグラード
cm.	centilitre	サンチリットル
F. (Fr.)	centimètre	サンチメートル
gr.	franc	佛貨フラン
kg.	gramme	グラム
km.	kilogramme	キログラム
L. St.	kilomètre	キロメートル
m.	livre sterling	英貨ポンド
mq (m ²)	mètre	メートル
	mètre carré	平方米

mc. (m ³)	mètre cube	立方米
1%	un pour cent	百に對する一
1‰	un pour mille	千に對する一

III 地理

A. O. F.	Afrique occidentale française	佛領西部アフリカ
E.	Est	東
E.-N.-E.	Est-Nord-Est	東北東
Lat.	Latitude	緯度
Long.	Longitude	經度
N.	Nord	北
S.	Sud	南
o	ouest	西
°	degré	度
,	minute (prime)	分
"	seconde	秒
..	tierce	六十分の一秒

IV 商業 經營

A. C. P.	Aéro club de France	佛國空中俱樂部
A. C. L.	assurance contre l'incendie	火災保險
A. M.	assurance mutuelle	相互保險
B. N.	Bibliothèque nationale	國立圖書館
c/.	contre	に對して
C. A. F.	Club aéronautique de France	佛國航空俱樂部
c/c.	compte courant	交互勘定

Cie.	Compagnie	會社
C. G. T.	Confédération générale du Travail	勞働總聯盟
Fco.	<u>franco</u>	運貨濟
m/b.	mon billet	拙者の手形
MM.	Compagnie des Messageries Maritimes	佛國海運會社
m/o.	mon ordre	拙者の注文
n..	notre, nos	吾々の
P. D.	<u>port dû</u>	運貨先拂
P. L. M.	Paris-Lyon- Méditerranée	巴里馬耳塞間の鐵道 會社の略稱
P. P.	<u>port payé</u>	運貨濟
P. T. T.	postes, télégraphies et téléphones	郵便電信電話
S. E. O.	sauf erreur ou omission	誤謬及脫漏此限に非 す
S. G. D. G.	sans garantie du gouvernement	政府無保證
Succ.	<u>succursale</u>	支店
T. C. F.	Touring club de France	佛國漫遊俱樂部
T. S. F.	télégraphie sans fil	無線電信
U. A. F.	Union athlétique de France	佛國競技聯盟
v/.	vos	貴方の
v/v.	vos ville	貴市の

V 印刷

In-pl.	in-plano	一枚二頁型
In-fol.	in-folio	二つ折四頁型

In-4 ^o .	in-quarto	四つ折八頁型
In-8 ^o .	in-octavo	八つ折十八頁型
In-12.	in-douze	十二折二十四頁型

VI 宗教

A. T.	Ancien Testament	舊約全書
J.-C.	Jésus-Christ	耶穌
N.-D.	<u>Notre-Dame</u>	聖母マリア
N. S.	Notre Seigneur	耶穌
N. T.	<u>Nouveau Testament</u>	新約全書
P.	Père	師
Ps.	Psaume	聖詩
S. (St.)	Saint	神聖な、聖者
S.-P.	Saint-Père	法王

VII 雜

a. J.-C.	avant Jésus-Christ	西暦前
c.-à-d.	c'est-à-dire	即ち
ch. (chap.)	chapitre	章
cf. (conf.)	conférez	對照せよ
etc. (&)	et cætera	等
E. V.	En ville	市内
Ibid.	ibidem	同じ場所に
Id.	idem	同前、同上
N. B.	nota bene	注意
N°.	numéro	番號
P.	page	ページ
p. ex.	par exemple	例へば

P. (Pl.)	planche	圖表
p. p. c.	pour prendre congé	暇乞ひ
P.-S.	Post-scriptum	二伸
préc.	précédent	先の
R ^o .	<u>recto</u>	紙葉の表面
R. S. V. P.	Répondez s'il vous plaît.	御返事待上候
suiv.	suivant	次の
v.	voir	参照
V ^o .	<u>verso</u>	紙葉の裏面
vol.	volume	冊

語句の索引

(数字は本題に附げてある一連番号)

A	davantage 203 類 à 109 ainsi que 207 類, 314, 315 aller 50, 55, 68 à moins que 130 à peine 32 類, 77 類 à quoi 47 類 à travers, au tra- vers de 300 aussi 206 autant 215 autre 213 avec 115 avoir à 51 類	163 le (虚) 196 le dernier 170 類 dit-on 31 dont 86 類 d'où 86 類 duquel 86 類 dût-on 218 類
B	bien 151 bien que 200	E en (代) 165 —(副) 165 類 —(前) 111 —(虚) 249 en train de 52 類 est-ce que 29 類
C	ceci, cela 166 celui, celle 91 類, 167, 168 ce que, ce qui 176 c'est 39-43 comme 208 compter 51	F faire 86 falloir 35
D	dans 116 d'autant plus que 205	I il 34-38 ignorer 124 il y a 247 類
		J jamais 121 je ne sais quoi (qui) 235
		L l'autre 170 類
		O ou 311-313 —(虚) 199 類
		P où (代) 86 類
		le, la, les (代) 91, par 117

pas de 48
personne 222
peut-être 32
plus 203, 204
possible 210 類
pour 112
près de 52

Q

quant à 186
que (關代) 277
—(設代) 278
—(副) 279
—(接) 280-286
quel 74, 145
—que 297
quelque 220, 294
—que 296
—chose 92 類
qu'est-ce que? 144
類

qui (設代) 24
—(關代) 86
qui est-ce qui? 144

類
quiconque 25
quoi 47 類
quoique 218
quoi que 222

R
rien 82, 126, 181 類

S
sans 128, 180
—que 130
se 72
sembler 36
si (接) 225-227, 269-
273
—(副) 274-276
—que 219

sinon 129
soit que 233
sous 114
sur 113
sur le point de 52

類
T

tant 214
tel 189 類 209
tout (形) 287
—(副) 291-293

V

venir de 54, 56
voici, voilà 118

Y
y (副) 164 類
—(代) 164
—avoir 37

佛文解釋法奧付

昭和二年 一月廿五日印刷

昭和二年 二月 一 日發行

【定價金壹圓五拾錢】

著 檢
者 印

著 者 德 尾 俊 彦
發 行 者 福 岡 易 之 助
東京市神田區小川町三〇

印 刷 者 君 島 潔

印 刷 所 共同印刷株式會社
東京市小石川區久堅町壹〇八

發 行 所

東京市神田區小川町三〇番地

白 水 社

振替東京一一九二二番
電話神田三五九八番

白水社發行佛蘭西語書類

十大家共編模範佛和大辭典		三六版 總革裝	定價 9.00	送料 .27
佛蘭西文學會編新佛和小辭典		袖珍版 總革裝	2.80	.14
ルノンドウ著改訂佛和兵語辭典		三六版 總革裝	2.80	.14
目黑三郎共著佛蘭西廣文典		四六版 洋布裝	3.00	.18
内藤濯著實習佛蘭西文典		四六版 洋布裝	1.70	.08
増田俊雄著佛文手紙の書き方		三六版 洋布裝	2.30	.16
板倉貞男著例解和文佛譯法		四六版 洋布裝	2.80	.18
佛蘭西文學會編佛蘭西語動詞變化の衆		三六版 洋布裝	1.00	.04
丸山順太郎閲佛蘭西文學譯註叢書第一編 岸田國士譯註モーパッサン二人の友		四六版 洋布裝	1.50	.06
丸山順太郎閲第二編 奥村稔譯註アントワネット等の心		四六版 洋布裝	1.50	.06
丸山順太郎閲第三編 草野貞之譯註アントワネット水都を描く		四六版 洋布裝	1.50	.06
折竹錫閲第四編 八木さわ子譯註ドオテエ月曜物語		四六版 洋布裝	1.50	.06
丸山順太郎閲第五編 岸田國士譯註クルトキス我家の平和		四六版 洋布裝	1.50	.06
内藤濯共譯對譯詳註サロメ		四六版 洋布裝	1.30	.06

白水社發行佛蘭西語教科書類

基本佛蘭西文典教科書 <i>Cours Abrégé de Grammaire Française</i>	『ラ・スムーズ』編
四六版洋布裝 定價金七〇錢 七〇餘頁 送料四錢	初級用
麥の一粒 <i>Un Grain de Blé</i>	杉田義雄編
四六版 定價金六〇錢 六〇餘頁 送料四錢	初等短期講習用
ふらんす語教科書 <i>Livre de Langue Française</i>	佛蘭西文學會編
四六版 定價金壹圓 一三〇餘頁 送料四錢	初級用中級用
モウパツサン中篇小説選 <i>Maupassant : Deux Nouvelles</i>	『ラ・スムーズ』編
四六版 定價金八〇錢 九〇餘頁 送料四錢	中級用
ミゼラブル抄 <i>Victor Hugo : La Chute</i>	『ラ・スムーズ』編
四六版 定價金八〇錢 九〇餘頁 送料四錢	中級用
盲人(外一篇) <i>M. Maeterlinck : Les Aveugles Etc.</i>	佛蘭西文學會編
四六版 定價金五〇錢 八〇餘頁 送料四錢	中級用
伯林攻圍 <i>A. Daudet : Le Siège de Berlin</i>	佛蘭西文學會編
四六版 定價金五〇錢 五〇餘頁 送料四錢	中級用
こ Ed. de Amicis : Cuore ろ	佛蘭西文學會編
四六版 定價金八〇錢 一一〇餘頁 送料四錢	中級用
コロンバ(一) <i>P. Mérimée : Colombe(Extraite)</i>	佛蘭西文學會編
四六版 定價金七〇錢 八〇餘頁 送料四錢	中級用
ダヴネル論文二篇 <i>D'Avenel : Deux Essais</i>	『ラ・スムーズ』編
四六版 定價金五〇錢 五〇餘頁 送料四錢	上級用

白水社發行佛蘭西語書類

日佛兩文月刊雜誌

杉田義雄主幹

LA SEMEUSE

(ラ・スムーザ)

斯界の最高權威者のみによつて編まれつゝある本誌は從來の語學雑誌の通弊を悉く脱して豊かなる趣味談笑の間によくふらんす語の眞髓に徹し得るやう、あらゆる方面から示導誘掖する語學研鑽の無二の好伴侶である。

毎月一回一日發行・定價金五拾錢・送料壹錢
六ヶ月分金參圓(送料共)一ヶ年分五圓五拾錢(送料共)

田島清講述

ジ・ヴエルニエー・杉田義雄校閱

趣味の佛蘭西語講習錄

本書は佛語教育に多年の経験を重ね而も最近數年間巴里生活の機微に徹した田島氏の入念な編輯に係るもので、始めて佛語を学ぼうとする人の爲には最良の獨習書であり、中等程度の學力を有する人の爲には趣味的参考書となり、外國語の教育に從事する先生の爲には有益な資料を提供し、佛語研究に熱心な婦人方の爲にも誠に適切な獨習書である。

六ヶ月完成・内容見本送呈

毎年四月・拾月・二回開講・會費一ヶ月金壹圓・送料四錢
三ヶ月金參圓(送料共)六ヶ月金五圓五拾錢(送料共)

855

To42

855-To42



1200500753777

終